Arcserve[®] Unified Data Protection アプライアンス ユーザガイド

バージョン 6.5

arcserve

リーガルノーティス

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve本ドキュメントは、Arcserveが知的財産権を有する機密 情報であり、Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されているソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、Arcserveのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する 責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対 する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本 システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかな る損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserve はお客様または第三者に対し責任 を負いません。Arcserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様と します。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2018 Arcserve (その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved.サードパーティの商標または著作 権は各所有者の財産です。

Arcserve サポート へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題を解決する際に役立つ豊富なリソースセットを提供し、重要な製品情報にも容易にアクセスできます。

テクニカルサポートへの問い合わせ

Arcserve サポート:

- 弊社の専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセス Arcserve サポートできます。このサイトから、弊社のナレッジベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、 製品関連KB技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- ユーザはライブ チャット リンクを使用して、チームと瞬時にリアルタイムで会話を 始めることが Arcserve サポート できます。 ライブ チャットでは、製品にアクセス したまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- グローバルユーザコミュニティでは、Arcserve 質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、および同業者との対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、 質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している製品に適したその他の有用なリソースにアクセス Arcserve できます。

Arcserve UDP アプライアンスの返品ポリシー

有効な RMA (返品認定)番号は、製品を Arcserve に返却するために必要で す。RMA番号を取得するには、Arcserve テクニカルサポート部門にお問い合わせ ください。お客様の担当者の連絡先情報については、<u>arcserve.com/support</u>を参 照してください。サポートチームから RMA データの送信先が通知される場合があ ります。

返品には、10%の返品手数料がかかります。以下は例外となります。1)注文が 間違って履行された場合、ArcserveはRMAを受け入れ、全額を返金します。2) 欠陥のあるアイテムが30日以内に返品された場合、ArcserveはRMAを受け入 れ、全額を返金します。3) ハードウェアに技術的な問題がある場合、解決のた めの適切な期間を経過した後もサポートによって解決できなければ、Arcserveは RMAを受け入れ、同等の価値のあるハードウェアの交換を提供します。

RMA リクエストに必要な情報:

- 製品のシリアル番号(アプライアンスの背面に記載があります)
- Arcserve 注文番号
- パートナーの連絡先名
- パートナーの電話番号
- パートナーの電子メールアドレス
- お客様の連絡先名(可能な場合)
- 電話番号(可能な場合)
- 電子メールアドレス(可能な場合)
- 問題の説明とすでに実行されたトラブルシューティングの説明。
- 要求された配送サービスおよび出荷先住所。

RMA 番号は、パッケージの外側に明確に記されている必要があります。すべての RMA は、適切な梱包で出荷される必要があります。すべての RMA は、荷物のト ラッキングおよび保証を提供する信頼できる運送業者を使用して出荷する必要 があります。出荷時の破損または RMA の損失はお客様の責任になります。

コンテンツ

第1章:アプライアンスのマニュアルについて	9
言語 サポート	
製品ドキュメント	
第2章: Arcserve UDP アプライアンスについて	
概要	
Arcserve Unified Data Protection	
Arcserve UDP エージェント(Linux)	
Arcserve Replication/High Availability (Arcserve RHA)	16
Arcserve Backup	
安全に関する注意事項	
同梱されている内容	
箱に含まれていない項目	
利用可能なモデル	
モデル7100 - 7300v	22
モデル7400 - 7600v	24
モデル8100-8400	
コントロールおよびインジケータ	29
前面パネル7100-7300v	
前面パネル7400-7600v	
前面パネル8100-8200	35
前面パネル8300-8400	
背面パネル7100-7300v	40
背面パネル7400-7600v	42
背面パネル8100-8200	
背面パネル8300-8400	46
アプライアンスが使用するポート	
Arcserve UDP	
Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント	
Linux にインストールされているコンポーネント	
リモートで UDP Linux により保護されている実稼働ノード	53
Arcserve Backup	54
Linux 用 アプライアンスのサポート	
第3章: Arcserve UDP アプライアンスの設置	

Arcserve Backup r17.5 をインストールする方法	57
8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法	59
8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法	60
第4章:ネットワーク設定の理解	61
NIC チーミングを設定する方法	62
DHCP サーバを無効化する方法	64
UDP アプライアンスのネットワーク環境設定を理解する方法	65
プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを設定する方法	70
負荷分散のためにDNSサーバ上でラウンドロビンを有効にする方法	72
第 5 章: アプライアンス上の Arcserve UDP のアップグレード	74
Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法	75
Arcserve UDP アプライアンス上 のアップグレード シーケンス	76
Arcserve UDP コンソールおよび RPS として機能する Arcserve UDP アプライアンスのア グレード	ップ 77
Arcserve UDP RPS としてのみ機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード	78
複数のArcserve UDP アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード 順	手 79
Arcserve UDP アプライアンス上 の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード	80
Arcserve UDP アプライアンス上 の Arcserve Backup のアップグレード	81
UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス	82
第 6 章: Arcserve UDP アプライアンスの設定	83
UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法	84
UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要	89
Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成する方法	90
プランへのノードの追加の詳細	99
ホスト名 /IP アドレスによるノードの追加	100
Active Directory によるノードの追加	102
vCenter/ESX ノードの追加	104
Hyper-V ノードの追加	106
ゲートウェイとしての UDP アプライアンスの設定	108
環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用	109
ブートオプションを使用したArcserve UDP ファクトリリセットの適用	111
アプライアンス上のArcserve製品をアクティブ化する方法	115
第7章: バックアップ プランの作成	. 116
Linux ノード用のバックアッププランの作成	117
テープ デバイスへのバックアップ プランの作成	118

アプライアンス上 仮 想 スタンバイ プランの作 成	119
第8章: Arcserve UDP アプライアンスの修復	120
ハードドライブの取り外しおよび交換	121
第9章:安全に関する注意事項	. 125
一般的な安全に関する注意事項	
電気に関する安全のための注意事項	128
FCC コンプライアンス	129
静電気放電(ESD)に関する注意事項	130
第 10 章 : IPMI での作業	. 131
IPMI パスワードを変更する方法	132
IPMI ファームウェアをアップグレードする方法	135
第11章:アプライアンスサーバへのアプライアンス拡張シェルフ	127
マンタ 祝 オイズの利田可能なモデルのためのマプライアンス インフィールド 拉遅	120
	1/18
アプライアンスサーバへのアプライアンス拡張シェルフの接続方法	151
Arcserve LIDP データストアの変更方法	160
拡張シェルフのデータ パスを Arcserve UDP データストアに追加する	161
新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行	
Arcserve UDP コンソールからの <data name="" store=""> データストア全体の容量の確認</data>	163
Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再 開	164
第 12 章:トラブルシューティング	165
Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない	166
別のアプライアンスから UDP アプライアンスをバックアップすると重複するノードが	レ
	167
Linux バックアッフ サーバがネット ワーク DNS サフィックスを取得 できない	169
	170
フイセンスかめる場合でもフイセンスエフーになる	171
	1/2
	1/3
Arcserve UDP コンソールの移行に関する推奨事項	1/6
ナーメを休持しないバブメダル復旧(BMK)に関する推奨事項	1/8
ナ━>を休持9 るヘブ >>ル復旧(BMR) に関9 る推奨事項	193
LIIIUX 191」ノールードリック推兴 尹 頃	201
ノノノ1ノノヘ1ハーン政ルユーナイリナイソールを設足りるにのが推奨事項	203

Arcserve UDP アプライアンスに事前インストールされている Linux バックアップサー バに関する推奨事項
Arcserve UDP アプライアンスに Linux のバックアップ サーバ自体をバックアップさせる ための推奨事項
Arcserve UDP アプライアンスからアプライアンスへの移行の推奨事項21
解決策 1
解決策 2
ローカルアプライアンス Hyper-V に対する Arcserve UDP Linux インスタント VM ジョ ブの推奨事項
リモートで管理される RPS ヘレプリケート タスクを別 のアプライアンスに追加するべ スト プラクティス
モニタが別のアプライアンスである仮想スタンバイ(VSB)タスクを実行するベストプ ラクティス
第 14 章: 使用条件
putty

第1章:アプライアンスのマニュアルについて

Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイドは、Arcserve UDP アプライアンスを使用 する方法の理解に役立ちます。UDP アプライアンスの詳細については、「概要」を 参照してください。残りのセクションでは、Arcserve UDP アプライアンスのインストー ルと使用方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>言語サポート</u>	10
製品ドキュメント	11

言語サポート

英語および複数のローカル言語のドキュメントが用意されています。

翻訳済み製品(ローカライズ済み製品とも言います)とは、製品のユーザインター フェース、オンライン ヘルプ、その他のドキュメントのローカル言語サポートに加え て、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語でのデフォルトの書式設定 をサポートする国際化製品です。

このリリースは、以下の言語で使用できます。

- 英語
- 中国語(簡体字)
- 中国語(繁体字)
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- ポルトガル語(ブラジル)
- スペイン語

製品ドキュメント

Arcserve UDP 関連のすべてのドキュメントを参照するには、このリンクをクリックして Arcserveのドキュメントにアクセスしてください。

Arcserve UDP ナレッジ センターは、以下のドキュメントで構成されています。

■ Arcserve UDP ソリューション ガイド

一元管理されたコンソール環境でArcserve UDP ソリューションを使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、ソリューションをインストールおよび設定する方法、データを保護およびリストアする方法、レポートを取得する方法、Arcserve High Availabilityを管理する方法などの情報が含まれています。手順には、コンソールの使用を中心に、さまざまな保護プランの使用方法が含まれています。

■ Arcserve UDP リリースノート

Arcserve Unified Data Protection の主な機能、システム要件、既知の問題、 ドキュメントの問題、制限事項などの概要が説明されています。

Arcserve UDP Agent for Windows ユーザガイド

Windows オペレーティング システムで Arcserve UDP Agent を使用 するための詳細情報が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび設定 する方法、Windows ノードを保護 およびリストアする方法などの情報が含まれています。

Arcserve UDP Agent for Linux ユーザガイド

Linux オペレーティング システムで Arcserve UDP Agent を使用 するための詳細 情報 が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび 設定する方法、Linux ノードを保護 およびリストアする方法などの情報が含ま れています。

第2章: Arcserve UDP アプライアンスについて

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

概要	13
<u>安全に関する注意事項</u>	
同梱されている内容	
<u>箱に含まれていない項目</u>	
<u>利用可能なモデル</u>	21
<u>コントロールおよびインジケータ</u>	
<u>アプライアンスが使用するポート</u>	

概要

Arcserve UDP アプライアンスは、アシュアードリカバリ™.を搭載した最初の完全で 最もコスト効率の良い保護アプライアンスです。各 Arcserve UDP アプライアンス は、自己完結型の「set and forget(設定後は作業不要)」のバックアップ/復旧ソ リューションです。クラウドネイティブ機能によって構築されており、その極めて容易 な導入とユーザビリティが、一連の幅広い機能(ソースベースのグローバルデデュ プリケーション、マルチサイトレプリケーション、テープのサポート、自動化されたデー タ復旧機能などの)と組み合わされています。Arcserve UDP アプライアンスは、運 用において優れた敏捷性と効率性を実現し、障害復旧作業を大幅に簡略化 します。

Arcserve UDP アプライアンスは、最新のハードウェアにプリインストールされている主要な Arcserve Unified Data Protection ソフトウェアと完全に統合されています。アプライアンスは、すべてのユーザに対して、完全な統合データ保護ソリューションを提供し、現在の需要を満たすだけでなく、絶え間なく変化するバックアップ、アーカイブ、惨事復旧(DR)の今後の要件にも対応できます。

以下のソフトウェアは、Arcserve UDP アプライアンスにプリインストールされています。

- Windows オペレーティング システム バージョン 2012 R2 Standard Server または 2016 Standard Server
- Arcserve UDP
- Arcserve UDP エージェント(Linux)
- Arcserve Backup
- Arcserve Replication/High Availability (RHA)

Arcserve UDP の各 アプライアンスには、3 年間のハードウェア保証が付いています。この保証の詳細については、<u>arcserve.com/udp-appliance-warranty</u>を参照してください。

Arcserve Unified Data Protection

Arcserve UDP ソフトウェアは、複雑な IT 環境を保護する包括的なソリューション です。このソリューションは、Windows、Linux、VMware ESX Server、Microsoft Hyper-V Server など、さまざまな種類のノードに存在するデータを保護します。 ローカルマシンまたは復旧ポイントサーバのいずれかへデータをバックアップできま す。復旧ポイントサーバは複数のソースからのバックアップが保存される中央サー バです。

サポートされているオペレーティング システムの詳細については、「<u>互換性マトリク</u> <u>ス</u>」を参照してください。

Arcserve UDPには、以下の機能が用意されています。

- 復旧ポイントサーバ上のデデュプリケーション/非デデュプリケーションデータスト アにデータをバックアップ
- Arcserve Backup (アプライアンスに含まれています)との統合を使用して、復旧ポイントをテープにバックアップ
- バックアップ データから仮想 スタンバイ マシンを作成
- バックアップ データを復旧ポイント サーバおよびリモート 復旧ポイント サーバにレ プリケート
- バックアップ データをリストアし、ベア メタル復旧(BMR)を実行
- 選択したデータ バックアップ ファイルをセカンダリ バックアップ先 ヘコピー
- 環境内の重要なサーバに対して Arcserve Full System High Availability (HA)
 を設定および管理

Arcserve UDP は、あるサーバから別の復旧ポイントサーバに復旧ポイントとして保存されるバックアップデータをレプリケートします。 バックアップデータから、ソースノードで不具合が発生したときにスタンバイマシンとして機能できる仮想マシンを作成することもできます。 スタンバイ仮想マシンを作成するには、復旧ポイントを VMware ESX または Microsoft Hyper-V 仮想マシン形式に変換します。

Arcserve UDP ソリューションは、Arcserve High Availability との統合を提供します。 Arcserve High Availability でシナリオを作成した後、これらのシナリオを管理および モニタし、デスティネーション マシンの追加や削除のような操作を実行できます。

Arcserve UDP エージェント (Linux)

Arcserve UDP エージェント(Linux) は、Linux オペレーティング システム用に設計さ れたディスクベースのバックアップ製品です。ビジネス上の重要な情報を保護およ び復旧する際に、高速で簡単に使用できる、信頼性の高い方法を提供しま す。Arcserve UDP エージェント(Linux) は、ノード上の変更をブロックレベルでトラッ キングし、変更されたブロックのみを増分プロセスでバックアップします。これにより、 バックアップの実行頻度を増やすことができ、増分バックアップのサイズ(およびバッ クアップ時間)が削減されるため、これまでよりも最新のバックアップを利用できるよ うになります。また、Arcserve UDP エージェント(Linux)を使用して、ファイルやフォル ダのリストア、および単一のバックアップからのベアメタル復旧(BMR)を実行するこ ともできます。バックアップ情報は、バックアップソースノードで、NFS (Network File System) 共有または CIFS (Common Internet File System) 共有に保存できます。

Arcserve UDP エージェント(Linux) の最新のバージョンは、アプライアンス内の仮想 マシンにプリインストールされます。この仮想マシンがLinux バックアップサーバになり ます。Arcserve UDP エージェント(Linux) は、UDP アプライアンス内のデフォルトのイ ンストール パスにインストールされます。

コンソールを開くと、Linux バックアップサーバはすでにコンソールに追加されていま す。Linux バックアップサーバのネイティブホスト名は Linux-BackupSvr です。ただし、 コンソールでは、Linux バックアップサーバでは、ポート 8018環境設定を使用して アプライアンスのホスト名を適用します。Linux バックアップサーバは、ポートの方向 制御を通じて NAT の背後で動作します。Linux バックアップサーバでは、ポート 8018を使用して通信を行い、Arcserve UDP アプライアンス内のデータを転送しま す。

注: バックアップ プランの作成 および Linux マシンのリストアに関する詳細については、「Arcserve UDP Agent for Linux ユーザガイド」を参照してください。

Linux バックアップサーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 root
- パスワード Arcserve

注:デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。

Arcserve Replication/High Availability (Arcserve RHA)

Arcserve RHA は、非同期リアルタイムレプリケーション、自動化されたスイッチオー バーおよびスイッチバックに基づくソリューションです。Windows サーバ上の仮想環 境にコスト効率の高いビジネス継続性を提供します。サポートされているオペレー ティングシステムの詳細については、「互換性マトリクス」を参照してください。

Arcserve RHA は、データをローカル サーバまたはリモート サーバにレプリケートできる ため、サーバのクラッシュやサイトに惨事 が発生した場合のデータの回復をサポー トします。 ハイ アベイラビリティのライセンスを所有している場合、ユーザをレプリカ サーバに手動または自動で切り替えることができます。

Arcserve Replication/High Availability をインストールして設定する方法の詳細については、オンラインドキュメントを参照してください。

Arcserve Backup

Arcserve Backup は、多種多様な環境のビジネスニーズに対応する高性能な データ保護ソリューションです。本製品は、柔軟なバックアップとリストア、容易な 管理、幅広いデバイス互換性、そして信頼性を提供します。また、ストレージ要 件に応じてデータ保護戦略をカスタマイズできるため、データストレージの機能を 最大限に活用できます。さらに、柔軟なユーザインターフェースにより詳細な設 定が可能で、あらゆるユーザがその技術的知識のレベルにかかわらず、さまざまな エージェント機能や各種オプションを展開して保守できます。

Arcserve Backup には分散環境向けの包括的なデータ保護機能があり、ウイルス フリーのバックアップおよびリストア操作を実現します。多種多様なオプションとエー ジェントにより、企業全体でのデータ保護機能が強化され、さまざまな拡張機能 (オンラインホットバックアップや、アプリケーションおよびデータファイルのリストア、拡 張デバイスおよびメディアの管理、惨事復旧など)が使用可能になります。

UDP アプライアンスには、テープへのバックアップを実行 するために Arcserve Backup との統合機能が含まれています。InstallASBU.batを実行 すると、Arcserve Backup がコンピュータ上の "C:\Program Files (x86)\Arcserve" にインストールされます。UDP アプライアンス内 にインストールされるコンポーネントを使用して、Arcserve UDP のデ スティネーションをテープにバックアップできます。サポートされているオペレーティング システムの詳細については、「互換性マトリクス」を参照してください。

Arcserve Web サイトから Arcserve Backup のフルインストール パッケージをダウン ロードして、他のコンポーネントをインストールできます。詳細については、Arcserve Backup オンライン r17.5 のオンラインドキュメントを参照してください。

Arcserve Backup サーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 -- caroot
- パスワード -- Arcserve

安全に関する注意事項

安全のため、Arcserve UDP アプライアンスに対して開梱、接続、設置、電源投入などの操作を行う場合は、すべての手順を事前に確認し、指示に従ってください。安全に関する注意事項に従わないと、人身傷害、機器の破損、または誤動作などが発生する可能性があります。

安全に関する注意事項の詳細については、「<u>安全に関する注意事項(付録)</u>」 を参照してください。

同梱されている内容

箱には以下の項目が含まれています。

- Arcserve UDP アプライアンス(シリアル番号のラベルはアプライアンスの背面にあります)
- 電源ケーブル:1
- ネットワークケーブル: 1 赤、1 青 (それぞれ 3 フィートの長さ)
- IPMI ポート ケーブル: 1 (7 フィートの長さ)
- レール/ラックマウントキット-2つの外側レール(クイックインストール)、2つの内側レール延長、3つのレールアダプタ(標準のレールマウントのみ)、付属ハードウェア(必要な場合)が含まれています。
- Arcserve フェースプレート
- Microsoft クライアント アクセス ライセンス

注: アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。足りないアイテムまたは破損がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください: https://www.arcserve.com/support。

箱に含まれていない項目

以下の項目は、箱に含まれておらず、アプライアンスの設置および設定に必要となる場合があります。

- モニタ
- キーボード
- 外部ストレージデバイス(必要な場合)

利用可能なモデル

Arcserve UDP 7000 シリーズおよび 8000 シリーズ アプライアンスは、お客様のさまざ まなニーズを満たすように設計された多種多様なモデルで提供されています。

- モデル7100 7300v
- モデル7400 7600v
- モデル8100 8400

モデル 7100 - 7300v

Arcserve UDP アプライアンス モデル 7100 - 7300v

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様						
アプライア ンス モデル 7100 7200 7200V 7300 7300V						
バックアップストレージ容量						
Raw スト レージ容量 *	3 TB	6 ТВ	6 ТВ	9 TB	9 TB	
使用可能 なバックアッ プ容量**	2.8 TB	5.8 TB	5.8 TB	8.8 TB	8.8 TB	
保護されて いる(ソース データ)容 量***	最大 8 TB	最大 17 TB	最大 17 TB	最大 26 TB	最大 26 TB	
標準機能						
統合管理⊐ 増分バックア 化のサポート サポート、ア ポーティング	ンソール、グ マップ、圧縮、 、 エージェン プリケーション 、 ダッシュボー	ローバルデデュ 暗号化、WAI トレスバックア ·整合性のある ド。	プリケーション N 最適化レブ ップ、リモート(ッバックアップ、	^v 、ブロックレ ^x ^ĵ リケーション、 反想スタンバ・ 詳細リストア	^{ミルの} 無限 拡張仮想 イ、テープの 、統合レ	
アプライアン スの仮想ス タンバイ	N/A	N/A	最大 3 つの VM	N/A	最大 3 つの VM	
保証および	技術的仕様					
フルシステ ム Depot 保 証	3 年間					
物理的な サイズ (H x W x D インチ)	1.7" x 17.2" x 25.6" (1U - 19" ラック マウント レールを提供)					
リモート 管 理 および ネット ワーク インター フェース	1 x IPMI & 2 x 1 GbE (RJ45)					

ポ <u>ー</u> ト								
				1	1			
ハートティスクの種類	4 x 1 TB SAS	4 x 2 TB SAS	4 x 2 TB SAS	4 x 3 TB SAS	4 x 3 TB SAS			
および RAID	(RAID 5)	(RAID 5)	(RAID 5)	(RAID 5)	(RAID 5)			
構成			(10.10.5)		(10.10.5)			
外部テープ								
バックアップ			4 5466					
接続(SAS、		1 x PASS						
SATA、FC)								
システム								
RAM合計	16 GB	16 GB	32 GB	32 GB	48 GB			
SSDドライブ								
(デデュプリ								
ケーション	120 GB SSD	120 GB SSD	120 GB SSD	240 GB SSD	240 GB SSD			
ハッシュテー	1							
ブル用)								
最大重量								
(lbs)	41 lbs							
電源								
(単一また	1 x 600W							
は冗長)								
消費電力								
(アイドル/								
ロード/ス	93/116/143	122/164/143	125/167/145	125/167/145	129/188/152			
タートアップ								
時のワット)								
AC 電圧お								
よび周波数	100 - 240v							
範囲								
アンペア定								
格	/.5 / ノハア(取入)							
*1 TB = 1,000),000,000,000)バイト						
** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイ VM のサ								
イズの分だけ少なくなります。								
*** 一般的	*** ー 般 的な 3:1 のデデュプリケーションおよび圧 縮 率を想 定して容量を推定							
しています。 バックアップの実際の容量は、 データの種類、 バックアップの種類、								
スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。								

23 Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイド

モデル 7400 - 7600v

Arcserve UDP アプライアンス モデル 7400 - 7600v

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様								
アプライア ンス モデ ル	7400	7400V	7500	7500V	7600	7600V		
バックアップ	バックアップストレージ容量							
Raw スト レージ容 量 *	16 TB	16 TB	20 TB	20 TB	30 ТВ	30 TB		
使用可能 なバックアッ プ容量**	15.8 TB	15.8 TB	19.8 TB	19.8 TB	29.8 TB	29.8 TB		
保護され ている (ソース データ)容 量***	最大 46 TB	最大 46 TB	最大 58 TB	最大 58 TB	最大 90 TB	最大 90 TB		
標準機能								
統合管理= アップ、圧縮 ントレスバッ あるバックア	コンソール、グ	[゛] ローバル <i>デデ」 WAN 最適化し ニート仮想スタン ストア、統合レ</i>	ュプリケーション ノプリケーション ノバイ、テーブ ポーティング、	ノ、ブロックレン、拡張仮想 ン、拡張仮想 のサポート、 ダッシュボー	ベルの無限増 【化のサポート アプリケーショ ド。	曽分 <i>バッ</i> ク ト、エージェ ン整合性の		
アプライア ンスの仮 想スタンバ イ	N/A	最大 6 つの VM	N/A	最大 9 <i>つ</i> の VM	N/A	最大 12つ のVM		
保証および	技術的仕様							
フルシステ ム Depot 保証	3年間							
物理的な サイズ (H x W x D インチ)	3.5" x 17.2" x 25.6" (2U - 19" ラック マウント レールを提供)							
リモート 管 理 および ネット ワー	1 x IPMI & 2 x 1 GbE (RJ45) および 4 x 1GbE (RJ45) 。2 x 10 Gb (オプション)							

	1					
クインターフェース						
デ <u>ー</u> ト						
ハードディ				12 y 2 TD	12 y 2 TD	12 y 2 TD
スクの種類	202218	10 x 2 TB SAS	SV2 IR	IZ X Z IB	12 X 3 18	12 X 3 1B SAS
および		(RAID 6)				
RAID構成	(RAID 6)			(RAID 6)	(RAID 6)	(RAID 6)
外部テー						
プバック						
アップ接続			1 x P	ASS		
(SAS						
SATA (FC)			1			
システム RAM 合計	64 GB	96 GB	64 GB	96 GB	128 GB	192 GB
SSDドライ						
ブ						
(デデュプリ						
ケーション	240 GB SSD	240 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD
ハッシュ						
テーブル						
用)						
最大重量	52 lbs					
(lbs)						
電源						
(単一また	2 x 920w					
は冗長)						
消費電力						
(アイドル/	/ /					/ /
ロード/ス	208/257/	208/257/	208/257/	208/257/	240/296/	240/296/
タートアップ	358	358	358	358	369	369
時のワッ						
AC 電圧お						
よひ周波	100 - 240v					
<u> </u>						
アンペア定	11 アンペア(最大)					
◇ マーテル ぐは、ハックナッノに使用 可能な谷重は、仮想 人ダンハイ VM のサイスの分た けいたくたいます						
い 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2						
「「「一般的」	*** 一般的な 3:1 のテテュフリケーションおよび圧縮率を想定して容量を推定しています。					
バックアッフの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどに基づ						

いて、大幅に変わる可能性があります。

モデル 8100-8400

Arcserve UDP アプライアンス モデル 8100 - 8400

	Arcserve UDP 8000 シリーズ アプライアンスの仕様							
アプラ イアン ス モデ ル	UDP 8100	UDP 8200	UDP 8300	UDP 8400				
ソース バッ ク アップ*	12TB-18TB	24TB-36TB	48TB-128TB	96TB-240TB				
システ ム RAM	32GB	32GB	64GB	128GB				
最大 RAM **	64GB/960	6B/160GB	96GB/128GB/192GB	160GB/192GB/256GB				
SSD ド ライブ	120GB SSD	200GB SSD	480GB SSD	1.2TB SSD				
プロ セッサ	E5 2609 V4、8 コア、1.7 GHZ	E5 2620 V4、8 コア、2.1 GHZ	E5 2640 V4、10 コ ア、2.4 GHZ	E5 2650 V4、12 コ ア、2.2 GHZ				
RAID カード	936	1-4i	936	61-8i				
RAID 構成	BBU 付き Raid-5		BBU 付	きRaid-6				
ドライ ブ ベイ	4		<u>-</u>	12				
ドライ ブ	3x 2TB SAS 12G 4x 2TB SAS 12G	3x 4TB SAS 12G 4x 4TB SAS 12G	6x 4TB SAS 12G 7x 4TB SAS 12G 8x 4TB SAS 12G 9x 4TB SAS 12G 10x 4TB SAS 12G 11x 4TB SAS 12G 12x 4TB SAS 12G	6x 8TB SAS 12G 7x 8TB SAS 12G 8x 8TB SAS 12G 9x 8TB SAS 12G 10x 8TB SAS 12G 11x 8TB SAS 12G 12x 8TB SAS 12G				
DIMM/ 最大	MM/ 4x 8GB DDR4-2400/ 8 大		4x 16GB DDR4- 2400/ 8	4x 32GB DDR4-2400/ 8				

DIMM					
カード	LSI SAS9200-8E				
電源	2 x ホット スワップ冗長 500W AC Platinum	2 x 920W ホット スワップ冗長高効率 AC 電源、Platinum レベル			

* 一般的な 3:1 のデデュプリケーションと圧縮率を想定して容量を推定しています。 バックアップの実際の容量は、データの種類、 バックアップの種類、 バックアップ スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。

** Arcserve アプライアンスには、アプライアンス上 で仮想スタンバイ/インスタント VM の復旧をホストするために、追加の RAM があります。 VM のメモリ割り当ては、ゲス ト OS のワークロードに基づいてサイズ設定する必要があります。 Arcserve では、お 客様のニーズに基づいて、標準のアプライアンス構成に RAM を追加するオプショ ンも提供します。

コントロールおよびインジケータ

Arcserve UDP アプライアンスには、前面および背面のパネルと各ドライブ キャリアに いくつかのコントロールとインジケータ(LED) が備わっています。これらのコントロール およびインジケータによって、さまざまな機能を制御でき、アプライアンスとコンポー ネントのステータスをすばやく参照する機能を提供します。

- 前面パネル7100-7300v
- 前面パネル7400-7600v
- 前面パネル8100-8200
- 前面パネル8300-8400
- 背面パネル7100-7300v
- <u>背面パネル7400-7600v</u>
- 背面パネル8100-8200
- 背面パネル8300-8400

前面パネル7100-7300v

Arcserve UDP アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネル LED、ドライブ キャリア LED が備わっています。以下の表で、これらの項目について説明します。



	コントロー	
来日	11/12/25	
田方	101922	
	ケータ	
		アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにする
1	電源ボタン	ために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフにな
		りますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、ア
		プライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行
		する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
	リセット ボタ	
2	ン	アフライアンスを再起動するために使用されます。
		緑色の点灯: アプライアンスの電源に電力が供給されていること
3	電源 LED	を示します。
		マプライアンスの弦風巾は、通営このにちがられしています
		ノノノイノノへの修動中は、通常このLEDが点対していより。
	デバイスア	黄色の占減・ 小たくとも、1 つのハード ドライブト のアクティビティを
4	クティビティ	
	LED	小しみゞ。
5	ネットワーク	黄色の点滅: ネットワーク1(ETH0ポート)上のネットワークアク

	インター フェース カー ド(NIC1) LED	ティビティを示します。
6	ネット ワーク インター フェース カー ド(NIC2) LED	黄色の点滅: ネットワーク2 (ETH1 ポート) 上のネットワークアク ティビティを示します。
	4= +9	赤色の常時点灯: 過熱条件が発生しました。(これはケーブル 輻輳が原因で発生する可能性があります。) * 赤色の点滅 - 高速(1秒): ファンの障害。動作していないファ ンを確認します。 * 赤色の点滅 - 低速(4秒): 電源の障害。動作していない電
7	情報 LED	源を確認してください。 青色の点灯 : ローカル UID がアクティブになりました。この機能を 使用して、ラック環境のサーバを特定します。 青色の点滅 : リモート UID がアクティブになりました。この機能を 使用して、リモートの場所からサーバを特定します。
8	ユニット 識 別 子 (UID) ボタン	アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユニバーサル 情報(青)をオンまたはオフにするために使用されます。 青色のLED がオンである場合、アプライアンスをラック内で簡単に 特定できます(前または後ろのいずれか)。
9	ハード ドライ ブ(HDD) LED	緑色の点滅 :対応するドライブ上のアクティビティを示します。
10	ハ ー ドドライ ブ(HDD) LED	* 赤色の点灯:対応するハードドライブの障害を示します。 Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに 障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは 失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのた め、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御 するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにでき る限り早くハードドライブを置き換える必要があります。
11	ハード ドライ ブ(HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
12	ソリッド ス テート ドライ ブ(SSD) LED	* 赤色の点灯 : ドライブの障害を示します。
13	ソリッド ス テート ドライ ブ(SSD) LED	緑色の点灯:ドライブのアクティビティを示します。 緑色の点滅:ドライブがアクセス中であることを示します。

*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に 解決するには、弊社サポートサイト(<u>arcserve.com/support</u>)までお問い合わせください。

前面パネル 7400-7600v

Arcserve UDP アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネル LED、ドライブ キャリア LED が備わっています。以下の表で、これらの項目について説明します。



番 号	コント ロール/イ ンジケー タ	説明
1	電源ボタ ン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	リセット ボ タン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
3	電源 LED	緑色の点灯: アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常このLED が点灯しています。
4	デバイス アクティビ ティ LED	黄色の点滅:少なくとも1つのハードドライブ上のアクティビティを示します。

	ネット ワー ク インター	
5	フェース カード (NIC1) LED	黄色の点滅: ネットワーク1(ETH0ポート)上のネットワークアクティビティを 示します。
6	ネット ワー ク インター フェース カード (NIC2) LED	黄色の点滅: ネットワーク2(ETH1ポート)上のネットワークアクティビティを 示します。
7	情報 LED	赤色の常時点灯: 過熱条件が発生しました。(これはケーフル輻輳が原因で発生する可能性があります。) * 赤色の点滅 - 高速(1秒): ファンの障害。動作していないファンを確認します。 * 赤色の点滅 - 低速(4秒): 電源の障害。動作していない電源を確認してください。 青色の点灯: ローカル UID がアクティブになりました。この機能を使用して、 ラック環境のサーバを特定します。 青色の点滅: リモート UID がアクティブになりました。この機能を使用して、 リモートの場所からサーバを特定します。
8	電源失 敗	電源モジュールが失敗したことを示します。
9	ハード ドラ イブ (HDD) LED	緑色の点滅 :対応するドライブ上のアクティビティを示します。
10	ハ ー ド ドラ イブ (HDD) LED	* 赤色の点灯:対応するハードドライブの障害を示します。 Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。
11	ハード ドラ イブ (HDD) ラッ チ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に 解決するには、弊社サポートサイト(<u>arcserve.com/support</u>)までお問い合わせください。

前面パネル8100-8200

Arcserve UDP 8100-8200 アプライアンスの前面 パネルには、コントロール パネルボ タン、コントロール パネル LED、ドライブ キャリア LED が備 わっています。以下の表 で、これらのアイテムについて説明します。



コントロー ル/インジ ケータ	説明
I/O 電源ボ タン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用 されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電 源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフに するには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてく ださい。
リセット ボタ ン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
電源 LED	緑色の点灯: アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常このLEDが点灯しています。
HDD LED	黄色の点滅:少なくとも1つのハードドライブ上のアクティビティを示します。
ネット ワーク インター	黄色の点滅: ネットワーク1(ETH0ポート)上のネットワークアクティビティを示します。

フェースカー		
ド(NIC1)		
LED		
ネット ワーク		
インター フェース カー	黄色の点滅: ネットワーク2(ETH1ポート)上のネットワークアクティビティを示	
ド(NIC2)	します。	
LED		
	赤色の常時点灯: 過熱条件が発生しました。	
	注: ケーブル輻輳が原因で、この状況が発生する可能性があります。	
	* 赤色の点滅 - 高速(1秒): ファンの障害。動作していないファンを確認します。	
情報 LED	* 赤色の点滅 - 低速(4秒): 電源の障害。動作していない電源を確認してください。	
	青色の点灯: ローカル UID がアクティブです。この機能を使用して、ラック環 境のサーバを特定します。	
	青色の点滅: リモート UID がアクティブです。この機能を使用して、リモートの 場所からサーバを特定します。	
ユニット 識 뫼 ヱ () IID)	アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユニバーサル情報(青)を オンまたはオフにするために使用されます。	
が子(010) ボタン	青色のLED がオンである場合、アプライアンスをラック内で簡単に特定できます(前または後ろのいずれか)。	
ハード ドライ ブ(HDD) LED	緑色の点滅 :対応するドライブ上のアクティビティを示します。	
	* 赤色の点灯 :対応するハードドライブの障害を示します。	
ハード ドライ ブ(HDD) LED	Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。	
ハード ドライ ブ(HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。	
ソリッド ス テート ドライ ブ(SSD) LED	* 赤色の点灯 : ドライブの障害を示します。	
ソリッド ス テート ドライ ブ(SSD) LED	緑色の点灯:ドライブのアクティビティを示します。 緑色の点滅:ドライブがアクセス中であることを示します。	
ソリッド ス テート ドライ	SSDドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。	
ブ(SSD) ラッ		
------------	--	--
チ		

*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に 解決するには、弊社サポートサイト(<u>arcserve.com/support</u>)までお問い合わせください。

前面パネル8300-8400

Arcserve UDP 8300-8400 アプライアンスの前面 パネルには、コントロール パネルボ タン、コントロール パネル LED、ドライブ キャリア LED が備 わっています。以下の表 で、これらのアイテムについて説明します。

See detail illustration and chart below for front panel information		
Power Button		HDD Latch
RESET		
Power LED 🔤 🏹 📋 💼 🛶	HDD Activity LED	
NIC2 Activity LED	NIC1 Activity LED	
Power Failure LED — 📰 💥 🧯 📼 —	Informational LED	
	This LED alerts the ope	rator of several states, as noted in the chart below.
	Status	Description
	Continuously on and red	An overheat condition has occurred.(May be due to cable congestion.)
	Blinking red (1Hz)	Fan fallure, check for Inoperative fan
	Blinking red (0.25 Hz)	Power failure, check for a non-operational power supply
	Solid Blue	Local UID has been activated. Use this function to locate the server in a rack mount environment.
·	Blinking Blue	Remote UID Is on. Use this function to identify the server from a remote location.

コントロー	
ルインジ	説明
ケータ	
電源ボタ ン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
リセット ボ タン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
雪 酒 150	緑色の点灯 :アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。
电 //FLED	アプライアンスの稼働中は、通常このLED が点灯しています。
ネットワー	
クインター	
フェース	
カード	
(NIC1)	

LED	
ネットワー	
クインター	
フェース	黄色の点滅: ネットワーク2(ETH1ポート)上のネットワークアクティビティを示
カード	します。
(NIC2)	
LED	
	赤色の常時点灯: 過熱条件が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因 で発生する可能性があります。)
	* 赤色の点滅 - 高速(1秒) : ファンの障害 。 動作していないファンを確認しま す。
情報 LED	* 赤色の点滅 - 低速(4秒): 電源の障害。動作していない電源を確認して ください。
	青色の点灯: ローカル UID がアクティブになりました。 この機能を使用して、 ラッ ク環境のサーバを特定します。
	青色の点滅: リモート UID がアクティブになりました。 この機能を使用して、リ モートの場所からサーバを特定します。
電源異常 LED	電源モジュールが失敗したことを示します。
ハードドラ	
イブ(HDD) LED	緑色の点滅 :対応するドライブ上のアクティビティを示します。
	* 赤色の点灯 :対応するハードドライブの障害を示します。
ハードドラ イブ(HDD) LED	Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生 した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが 引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連す る問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるた めにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。
ハード ドラ イブ(HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を 迅速に解決するには、弊社サポートサイト(<u>arcserve.com/support</u>)までお問い合 わせください。

背面パネル7100-7300v



番号	コント ロール/ インジ ケータの 名前	説明
1	電源	高効率電源をアプライアンスに提供します。 注: 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使 用されます。このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場 合、スタンバイ電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電 源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコ ンセントから抜いてください。
2	IPMI ポー ト(リ モー ト管理)	IPMI (インテリジェント プラットフォーム管理インターフェース) ポートを使用す ると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態を モニタできます。 注 : IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワー ドはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更する 方法の詳細については、「 <u>IPMI パスワードを変更する方法</u> 」を参照してくだ さい。
3	外部スト レージ デ バイスの ポート (テープド ライブの SAS ポー	外部ストレージ デバイス(ハード ドライブ、テープドライブなど) をアプライアン スに接続するために使用されます。 これらのポータブル外部ストレージ デバ イスを使用して、 バックアップ データを保存して 1 つの場所から別の場所に 簡単に移動させることができます。

	ト)	
4	シリアル 番号のラ ベル	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。
5	COM1 シ リアル ポート	シリアル デバイス(マウスなど) をアプライアンスに接続するために使用される 通信ポート。
6	USB 2.0 (黒)	USB 2.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 (青)	USB 3.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネットワー ク <i>デー</i> タ I/O ポート 1	ネットワーク データをアプライアンスから転送 するために使 用されます。(ネットワーク1の場合は ETHO)
9	ネットワー クデータ I/O ポート 2	ネット ワーク データをアプライアンスから転送 するために使 用されます。(ネットワーク 2 の場 合 は ETH1)
10	VGA ⊐ネ クタ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます(必要な場合)。

背面パネル 7400-7600v



番 号	コントロー ル/インジ ケータの 名 前	説明
1	デュアル電 源	高効率電源をアプライアンスに提供します。 注: 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に 使用されます。デュアル電源の利点は、1つの電源が失敗しても、別の電 源を使用できることです。 このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場合、スタンバイ 電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全に オフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから 抜いてください。
2	IPMI ポー ト(リモート 管理)	IPMI (インテリジェント プラットフォーム管理インターフェース) ポートを使用す ると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態 をモニタできます。 注 : IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワー ドはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更す る方法の詳細については、「 <u>IPMI パスワードを変更する方法</u> 」を参照して ください。
3	外部スト レージ デ バイスの ポート	外部ストレージ デバイス(ハードドライブ、テープドライブなど)をアプライア ンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージ デ バイスを使用して、バックアップ データを保存して1つの場所から別の場所 に簡単に移動させることができます。

	(テープド	
	ライブの場	
	合はSAS	
	ポート)	
4	シリアル番 号 のラベル	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。
5	COM1 シリ アルポート	シリアル デバイス(マウスなど)をアプライアンスに接続するために使用される 通信ポート。
6	USB 2.0 (黒)	USB 2.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 (青)	USB 3.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
	ネットワー	
8	クデータ	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネッ
0	1/0 ポート	トワーク1の場合はETH0)
	1	
	ネットワー	
9	クデータ	ネット ワーク データをアプライアンスから転送 するために使用されます。(ネッ
	1/0 ポート	トワーク2の場合はETH1)
10	VGA コイク タ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます(必要な場合)。
	外部スト	
	レージデ	
	バイスの	外 部 ストレージ デバイス(テープ オートローダ/ライブラリ) をアプライアンスに
	ポート	接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイス
11	(テープ	を使用して、バックアップデータを保存して1つの場所から別の場所に簡
11	オートロー	単に移動させることができます。
	ダ/ライブラ	注:このポートは、オペレーティングシステムでは LSI Adapter SAS2 2008
	IJ)	Falconとして表示されます。
	LSI SAS	
	9212 - 4i4e	

背面パネル8100-8200



番 号	コントロール/インジケータの名前
1	電源モジュール#1
2	AC 電源 インレット #1
3	電源 #2
4	AC 電源 インレット #2
5	сом ポート
6	IPMI ポート(リモート 管 理)
7	低 プロファイル PCI 拡張 スロット
8	PCI 拡張 スロット
9	パワー グッド LED #1
10	電 源 ロック #1
11	電源正常 LED #2
12	電 源 ロック #2
13	USB 2.0 ポート 1 (黒)
14	USB 2.0 ポート 2 (黒)
15	USB 3.0 ポート 3 (青)
16	USB 3.0 ポート 4 (青)
17	ネットワーク データ I/O ポート 1 (ネットワーク 1 の場 合 は ETH0)
18	ネットワークデータI/O ポート 2 (ネットワーク 2 の場合は ETH1)

19	VGA ポート
20	外部 ストレージ デバイスのポート
20	(テープドライブオプションの場合は SAS ポート)

背面パネル 8300-8400



番 号	コントロール/インジケータの名前
1	電源モジュール#1 ロック
2	電源モジュール #1 パワー グッド LED
3	電 源 モジュール #1 AC ソケット
4	電源モジュール #1 ファン
5	背面 SSD (オプション)
6	IPMI ポート (リモート 管 理)
7	外 部 SAS HBA ポート
8	ハーフ サイズ PCI 拡張 スロット
9	内部 RAID コントローラ
10	フル サイズ PCI 拡張 スロット
11	電源モジュール#2 ロック
12	電源モジュール #2 パワー グッド LED
13	電源モジュール #2 AC コンセント
14	電源モジュール #2 ファン
15	сом ポート
16	USB ポート 1 (第 2 世代)
17	USB ポート 2 (第 2 世代)
18	USB ポート 3 (第 3 世代)

19	USB ポート 4 (第 3 世代)
20	ETH0 (ネット ワーク 1)
21	ETH1 (ネット ワーク 2)
22	VGA ポート (モニタ)
23	UID LED

アプライアンスが使用するポート

以下の表のリストに、Arcserve UDP、Arcserve Backup、Linux用アプライアンスのサポートによって使用されるポートに関する情報を示します。

- Arcserve UDP
- Arcserve Backup
- Linux 用アプライアンスのサポート

Arcserve UDP

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント
- Linux にインストールされているコンポーネント
- <u>リモートで UDP Linux により保護されている実稼働ノード</u>

Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポ ー ト #	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
143- 3	TC- P	リモー ト Java	sqlsrvr.exe	Arcserve UDP コンソールと Microsoft SQL Server データベースが異なるコンピュータに存 在する場合、その間のデフォルトの通信ポー トを指定します。 注: デフォルト通信ポートは、SQL Server をイ ンストールするときに変更できます。
409- 0	TC- P	Arcse- rve UDP エー ジェン ト	HATransServer.exe	プロキシ モードで仮想スタンバイタスクのデー タを転送します。
500- 0- 506- 0	TC- P	Arcse- rve UDP サー バ	GDDServer.exe	Arcserve UDP RPS グローバル デデュプリケー ション データストア サービス(GDD) 用に予約 されています。1つの Arcserve UDP GDD デー タストアは、5000 以降の3つの空きポートを 使用します。GDD データストアに対するバッ クアップが有効化されている場合、またはリス トアタスクを使用している場合にはこれが必 要です。
605- 2	TC- P	Arcse- rve Backu p GDB	CA.ARCserve.Communication- Foundation. WindowsService.exe	CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Wi- ndowsService.exe Arcserve UDP コンソールとArcserve Backup グ ローバルダッシュボード プライマリサーバで データを同期するための通信。
605- 4	TC- P	Arcse- rve Backu p		CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Wi- ndowsService.exe Arcserve UDP コンソールとArcserve Backup プ ライマリサーバでデータを同 期 するための通 信。

800-				Arcserve UDP コンソールによって使用される
801- 4	TC- P	Arcse- rve UDP コン ソー	Se- 7 Tomcat7.exe	リモート管理コンソールとArcserve UDP サー バの間のデフォルトのHTTP/HTTPS 通信ポー トを指定します。 リモート管理コンソールとArcserve UDP エー ジェントの間のデフォルトのHTTP/HTTPS 通信 ポートを指定します。
		ル		注: テノオルトの通信ホートは、Arcserve UDPコンポーネントをインストールするときに 変更できます。
				Arcserve UDP サーバとArcserve UDP コンソー ルの間のデフォルトのHTTP/HTTPS 通信ポー トを指定します。
801- 4	TC- P	Arcse- rve UDP サー バ	httpd.exe	*デフォルトの共有ポートであり、Arcserve UDP サーバをレプリケーション デスティネーショ ンとして使用する場合に開く必要のある唯 ーのポートを指定します。ポート 5000 ~ 5060 は、グローバル デデュプリケーションが有 効化されているときにデータストアによって使 用されるため開かないでください。
				注: デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに 変更できます。
801-	TC-	Arcse- rve UDP		リモート管理コンソールとArcserve UDP サー バの間のデフォルトのHTTP/HTTPS 通信ポー トを指定します。 リモート管理コンソールとArcserve UDP エー
5	P	コンソール	Tomcat7.exe	ジェントの間のデフォルトのHTTP/HTTPS通信 ポートを指定します。 注:デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDPコンポーネントをインストールするときに 変更できます。
801-	TC- P	Arcse- rve UDP	Tomcat7.exe	同じサーバ上のArcserve UDP RPS ポート共 有サービスと通信するArcserve UDP サーバ Web サービス用に予約済みです。
-		サー バ		注: ポートはカスタマイズできません。ファイア ウォール設定では無視できます。
180- 05			CA.ARCserve.Communication- Foundation. WindowsService.exe	Arcserve UDP サーバまたはエージェントによっ て使用される Tomcat をシャット ダウンします。

Linux にインストールされているコンポーネント

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポー	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
ト#				
22	ТСР	SSH サー ビス		Arcserve UDP Linux サード パーティ依存性。SSH サービスのデフォルトを指 定しますが、このポートは 変更できます。このポート は受信および送信通信 の両方に必要です。
67	UDP	Arcserve UDP Linux	bootpd	PXE ブート サーバで使用 されます。PXE ブート機能 の使用を必要としている 場合のみ必須です。この ポートは受信通信に必 要です。 注: ポート番号はカスタマ
				イズできません。
69	UDP	Arcserve UDP Linux	tffpd	PXE ブート サーバで使用 されます。PXE ブート機能 の使用を必要としている 場合のみ必須です。この ポートは受信通信に必 要です。
				注:ポート番号はカスタマ イズできません。
8014	ТСР	Arcserve UDP Linux	Java	リモート コンソールと Linux 用 Arcserve UDP エージェ ントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを 指定します。このポートは 受信および送信通信の 両方に必要です。
18005	ТСР	Arcserve UDP Linux	Java	Tomcat によって使用され ます。ファイアウォールの設 定では無視できます。

リモートで UDP Linux により保護されている実稼働ノー ド

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポ— ト #	ポート の種 類	起 動 元	受信 待機プ ロセス	説明
		SSH		Arcserve UDP Linux サードパーティ依存性。SSH サービスのデ
22		サー		フォルトを指定しますが、このポートは変更できます。このポー
		ビス		トは受信および送信通信の両方に必要です。

* ポート 共有 はレプリケーション ジョブのためにサポートされています。 異なるポート 上のデー タはすべてポート 8014 (Arcserve UDP サーバ用 のデフォルト ポート。 インストール時に変更 可能) に転送できます。 WAN 上にある 2 つの復 旧 サーバポイント間 でレプリケーション ジョ ブを実行する時には、ポート 8014 のみが開いている必要 があります。

同様に、リモートレプリケーションの場合、リモート管理者はポート8014(データレプリケーション用)とポート8015(Arcserve UDPコンソール用のデフォルトポート。インストール時に変更可能)を開くか転送して、割り当てられたレプリケーションプランをローカル復旧ポイントサーバが取得できるようにする必要があります。

Arcserve Backup

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポー ト #	ポート の種類	起動元	受信待機プロセス	説明
135	тср			Microsoft ポー ト マッパー
445	ТСР		名前付きパイプ上のMSRPC	
6050	TCP/UD- P	CASUniversalAgen- t	Univagent.exe	Arcserve Universal Agent
6502	тср	Arcserve Communication	CA.ARCserve.CommunicationFoundatio- n.	Arcserve Communicatio-
		Foundation	WindowsService.exe	n Foundation
6502	тср	CASTapeEngine	Tapeng.exe	Arcserve Tape Engine
6503	тср	CASJobEngine	Jobengine.exe	Arcserve Job Engine
6504	ТСР	CASDBEngine	DBEng.exe	Arcserve Database Engine
7854	тср	CASportmapper	Catirpc.exe	Arcserve PortMapper
4152- 3	ТСР	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Arcserve Discovery Service
4152- 4	UDP	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Arcserve Discovery Service
9000- 9500	тср		動的ポートを使用する他のArcserve MS RPC サービス用	

Linux 用アプライアンスのサポート

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート #	ポト 種 類	起動元	受信 待機 プロセ ス	説明
8017	тср			NAT ポート リダイレクション。 他の Linux ノードを Amazon S3 にバックアップするため、 アプライアンス上の 8017 を Linux バッ クアップ サーバにリダイレクトします。
8018	тср			NAT ポート リダイレクション。 アプライアンス上 の 8018 を Linux バックアップ サーバ エージェントのポート 8014 にリダイレクトし ます。
8019	тср			NAT ポート リダイレクション。 アプライアンス上 の 8019 を Linux バックアップ サーバの SSH ポート 22 にリダイレクトします。
8021	тср			NAT ポート リダイレクション。 8021 ポートを使 用して他の Linux ノードをバックアップするため、 アプライアンス上 の 8021 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
8036	тср			NAT ポート リダイレクション。 アプライアンス上の 8036 を Linux バックアップ サーバのポート 8036 にリダイレクトします。
50000	тср			NAT ポート リダイレクション。50000 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、アプライアンス 上の50000を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50001	тср			NAT ポート リダイレクション。50001 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、アプライアンス 上の50001 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50002	тср			NAT ポート リダイレクション。 50002 ポートを使 用して他 の Linux ノードをクラウド にバックアップするため、 アプライアンス 上 の 50002 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50003	тср			NAT ポート リダイレクション。 50003 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、 アプライアンス 上の 50003 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50004	тср			NAT ポート リダイレクション。 50004 ポートを使 用して他 の Linux ノードをクラウド にバックアップするため、 アプライアンス 上 の 50004 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。

第3章: Arcserve UDP アプライアンスの設置

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve Backup r17.5 をインストールする方法	
8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法	
8300-8400シリーズアプライアンスの設置方法	

Arcserve Backup r17.5 をインストールする方法

Arcserve Backup r17.5 は、アプライアンスに事前インストールされていません。デスクトップ上にある "InstallASBU.bat" というスクリプトを使用して Arcserve Backup r17.5をインストールできます。

以下の手順に従います。

1. デスクトップから、InstallASBU.bat を選択して起動します。

注:英語以外のWindows システムから.bat ファイルを起動している場合、 以下の画面が表示されます。Arcserve Backup r17.5 をインストールする言 語を選択するか、それ以外の場合は手順2に進みます。

2. 管理者パスワードを入力すると、Arcserve Backup r17.5 のインストールに使用できるスクリプトが生成されます。



インストールが完了したら、Arcserve Backup のアイコンがデスクトップに追加されます。以下の認証情報で Arcserve Backup にログインできます。

- ユーザ名 = caroot
- パスワード = Arcserve

8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「<u>8100-8200 のアプライアンスの設置</u>」を参照して ください。

8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「<u>8300-8400 のアプライアンスの設置</u>」を参照して ください。

第4章:ネットワーク設定の理解

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>NIC チーミングを設定する方法</u>	62
<u>DHCP サーバを無効化する方法</u>	64
UDP アプライアンスのネットワーク環境設定を理解する方法	65
プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを設定する方法	70
負荷分散のために DNS サーバ上 でラウンド ロビンを有効にする方法	72

NIC チーミングを設定する方法

Arcserve UDP アプライアンスには、イーサーネット ポートが標準で備わっています。 これらのポートを使用するには、イーサーネット NIC チーミングが設定されている必要があります。NIC チーミングでは、複数のネットワークアダプタをチームにまとめるこ とにより、帯域幅およびトラフィックのフェールオーバを集約し、ネットワークコンポー ネントに障害が発生した場合に接続を維持することができます。

使用可能な NIC チームを設定するには、リンクの集約をサポートするネットワーク スイッチが必要です。ネットワークスイッチのベンダおよび Microsoft Windows の構成ドキュメントを参照し、NIC チームを設定してください。

ネットワークスイッチの設定後、次の手順を実行します。

1. Windows デスクトップで、Arcserve UDP アプライアンス ウィザードを起動しま す。

DHCP または静的 IP アドレスを使用している場合、 序ットワーク接続]画 面で NIC チームの IP アドレスを設定できます。 有効な IP アドレスが NIC チー ムに割り当てられており、ネットワーク上で利用可能であることを確認しま す。

- 2. サーバマネージャで、「ツール]- [レーティングとリモート アクセス]を選択しま す。 [レーティングとリモート アクセス]ダイアログ ボックスが表示されます。
- アプライアンス サーバのノードを右 クリックし、 [レーティングとリモート アクセスの 無効化]を選択します。

注: 他のルーティングおよびリモート アクセス機能が他の目的のために設定 されている場合は、これらの手順の完了後にそれらを再設定することをお勧めします。

- 4. 確認ダイアログボックスで [はい]をクリックし、ルータを無効にして設定を削除します。
- 5. アプライアンス サーバのノードを右 クリックし、 [レーティングとリモート アクセスの 構成と有効化]を選択します。

[ルーティングとリモート アクセス サーバーのセット アップ ウィザード]が表示されます。

- 6. [キャンセル]をクリックし、Windows コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
- 7. 以下のコマンドを実行します。

C:\\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetnic.bat

設定が完了し、以下のメッセージが表示されます。

正しく機能していることを確認するには、Hyper-V マネージャで Linux バック アップサーバにログインし、イントラネット上の特定のコンピュータに対して IP アドレスを ping します。失敗した場合は、確認し、この手順を繰り返しま す。

DHCP サーバを無効化する方法

DHCP サーバは、アプライアンス上ではデフォルトで有効になります。DHCP サーバ が、アプライアンス上の Hyper-V 仮想 Ethernet アダプタ - *LinuxBkpSvr* でのみ動作 し、プリインストールされた Linux バックアップ サーバが IP アドレスを取得でき、アプラ イアンスとの通信が可能で、実稼働ネットワーク環境に影響を与えないことを確 認します。

DHCP サーバを無効にするには、次の手順を実行します。

- 1. ファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\Configuration\Appliance.properties を開 きます。
- 2. ファイルを DHCP_ENABLE=false と変更します。Appliance.propertiesには以下のように表示されます。

DHCP_ENABLE=false AdapterName=LinuxBkpSvr Appliance_IPAddress=192.168.10.1 Linux IPAddress=192.168.10.2

- 3. ファイルを保存します。
- 4. ファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\dhcpdone.flag を削除します。
- 5. C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetdhcp.ps1を DOS コマンド ラインから 以下のように実行し、DHCP サーバサービスを無効化します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\resetdhcp.ps1

UDP アプライアンスのネット ワーク環境設定を理解する 方法

アプライアンスのネットワーク環境設定の目的は、組み込みのLinux バックアップサーバ(Hyper-Vマネージャでの仮想名: Linux-BackupSvr)がNATの背後で動作できることを確認することです。そのため、

- ユーザは組み込みのLinuxのホスト名を変更する必要はありません。
- ユーザは、Linux バックアップ サーバのネットワーク上の IP を保存します。
- Linux バックアップ サーバは、パブリック ネット ワーク上 のマシンに接続 できます。
- パブリック ネットワーク上のマシンは、アプライアンスサーバの特別なポートを介してのみ Linux バックアップサーバに接続できます。

ネットワーク設定の詳細

Hyper-V マネージャで、Linux-BackupSvr によってのみ使用される内部のみの仮想スイッチ – Linux-BkpSvr-Switch が利用可能です。

仮想マシン(I)										13
名前		状態	CPU 使用率	メモリの書	ilb当て	稼働時間	状況			ľ
名前	*	状態 CPU使用率 メモリバ AF 本 仮想スイッチ 素 新しい仮想ネットワークスイッチ * 計しい仮想ネットワークスイッチ * 計しい仮想ネットワークステージ * ゴローバルネットワーク設定 ● MAC アドレスの範囲 00-15-5D-34+17-00 から 00-15-5D			の割り当て 稼働時間 状況 PPLIATEST75 の仮想スイッチ マネージャー - □ A が 仮想スイッチのプロパティ					
チェックポイント(C)					接続の種業 接続先の ○ 外部: Intel(で 管 る ○ 内部: ○ フライ・	頁 仮想スイッチの種類 なットワーク(E): R) I350 Gigabit Nete 理オペレーティングシ (M) ングルルート I/O 仮想 なットワーク(I) ペートネットワーク(P)	は選択してください。 vork Connection マテムにこのネットワークアダプターの共有 別化 (SR-IOV) を有効にする(S)	を許可す	▼	

コントロールパネル、ネットワークとインターネット、ネットワーク接続に、
 「LinuxBkpSvr」という名前の「Hyper-V Virtual Ethernet Adapter」が表示されます。デフォルトでは、以下のように、このスイッチの IPv4を192.168.10.1 として設定しています。

LinuxBkpSvr	識別されていないネットワーク	Hyper-V Virtual Ethernet Ad	インターネット アクセスなし	パブリック ネットワーク
LinuxBkpSvrのプロパラ	۲ ×	インターネット プロトコル バージョン	> 4 (TCP/IPv4)のプロパティ	メートック ネットワーク
ネットワーク 共有 接続の方法: 	構成(C) or Protocol er I/O Driver onder Pv6) Pv7) > プロパティ(R) 接続されたさまざまな アネットワーク プロトコ	全般 ネットワークでこの機能がサポートされている場合 さます。サポートされていない場合は、ネットワー てください。 ○ IP アドレスを自動的に取得する(O) ④ 次の IP アドレスを使う(S): IP アドレス(I): サブネット マスク(U): デフォルト ゲートウェイ(D): ○ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得 ④ 次の DNS サーバーのアドレスを自動的に取得 ④ 次の DNS サーバー(P): 代替 DNS サーバー(A): □ 終了時に設定を検証する(L)	Atk. IP 設定を目動的に取得するとが ク管理者に適切な IP 設定を問い合か 192.168.10.1 255.255.255.0 1976(B) : <td:< th=""><th></th></td:<>	
0	(キャンセル			

 デフォルトでは、アプライアンスマシン上でDHCPサーバを設定しており、DHCP サーバは Hyper-V 仮想アダプタ上でのみ動作します。

1-	
2	DHCP
ファイル(F) 操作(A)	表示(V) ヘルプ(H)
🗢 🔿 🔁 📰 🗙	
👰 DHCP	名前
appliatest75	IPv4
▷ DIPv4	🖥 IPv6
þ 🚡 IPv6	サーバーの結合のプロパティ
	IPv4 IPv6
	DHCP サーバーがクライアントにサービスを提供するときに使う接続を選んでください。この一覧にエントリがな
	い場合は、静切 IP アドレスかとのコンピューター用に構成されているかどうか唯能はしてくたさい。
	注紙をオーバーの注合(つ)・
	■ 192.108.10.1 LINUXBKpSVr
	OK キャンセル 適用(A)

 デフォルトでは、アドレスプールには192.168.10.2のみがあり、これによって、 Linux バックアップサーバが IP 192.168.10.2を取得できるようにします。

9 1		D	НСР	
ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘノルプ(H)				
🏟 🙍 🖬 🙆 🖬 🖌				
2 DHCP	開始 IP アドレス	終了 IP アドレス	説明	
 ▲ appliatest75 ▲ IPv4 ▲ スコープ [192.168.10.0] nat ● アドレス ブール ● アドレス ブール ● アドレス ブール ◎ 予約 ○ スコープ オプション ◎ ポリシー ● サーバー オプション ◎ ポリシー ▶ ア フィルター ▶ アレ6 	\$⊞ 192.168.10.2	192.168.10.2	アドレスの割り当て範囲	

■ アプライアンスマシン上で NAT が設定されました。

名前	状態	デバイス名	接続	ネットワークのカテゴリ
🔋 LinuxBkpSvr	識別されていないネットワーク	Hyper-V Virtual Ethernet Ad	インターネット アクセスなし	パブリック ネットワーク
🃮 イーサネット	無効	Intel(R) I350 Gigabit Netwo		
🏺 イーサネット 2	無効	Intel(R) I350 Gigabit Netwo		
🃮 イーサネット 5	ARCSERVE.COM	Intel(R) I350 Gigabit Netwo	インターネット アクセス	パブリック ネットワーク
🏺 イーサネット 6	無効	Intel(R) I350 Gigabit Netwo		



Linux バックアップ サーバ用 に、アプライアンス上 でポート リダイレクションを設定しています。

C:¥Windows¥System32>netsh interface portproxy show all					
	ipv4 をリッスン	する:	ipv4 に接続する	:	
	Address	Port	Address	Port	
	* * *	8018 8019 8035	192.168.10.2 192.168.10.2 192.168.10.2	8014 22 8035	

Linux バックアップ サーバは、DHCP サーバから IP アドレス 192.168.10.2 を取得します。IP アドレスを取得した後、バックエンドスクリプト (C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetdhcp.ps1) はLinux と通信し、Linux のシステムロケールを変更して、アプライアンス Windows OS のシステムロケールと一致させます。

プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP ア ドレスを設定する方法

プリインストールされた Linux バックアップ サーバは、 デフォルト で IP 192.168.10.2 を 使用して、 アプライアンス サーバと通信します。 プリインストールされた Linux バック アップ サーバがアプライアンス サーバと通信する方法については、 プリインストールさ れた Linux バックアップ サーバのネット ワーク設定概要を参照してください。

プリインストールされた Linux バックアップサーバの IP アドレスを指定するには、次の手順を実行します。

- 1. ファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\Configuration\Appliance.properties を開 きます。
- 2. Appliance_IPAddress および Linux_IPAddress の IP アドレスを変更します。 たとえば、Appliance_IPAddress を 192.168.100.1 に、Linux_IPAddress を 192.168.100.2 に設定します。

注:

- Appliance_IPAddressのIPアドレスは、このプリインストールされたLinux バックアップサーバとの通信に使用されるネットワークインターフェース LinuxBkpSvr (Hyper-V仮想 Ethernet アダプタ)に設定されます。
- ◆ Linux_IPAddress の IP アドレスは、プリインストールされた Linux バック アップ サーバに設定されます。
- ◆「Appliance_IPAddress」および「Linux_IPAddress」が同じサブネットワークの IP アドレスを使用していることを確認してください。

変更後のファイルを以下に示します。

DHCP_ENABLE=true

AdapterName=LinuxBkpSvr

Appliance_IPAddress=192.168.100.1

Linux_IPAddress=192.168.100.2

- 3. ファイルを保存します。
- 4. ファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\dhcpdone.flag を削除します。
- 5. C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetdhcp.ps1 を実行し、ネットワークイ

ンターフェース LinuxBkpSvr とプリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスをリセットします。

注:

ユーザが Linux_IPAddress を変更する場合、処理中にプリインストールされた Linux バックアップサーバはシャット ダウンし、再起動します。

コマンド プロンプトを実行して、以下のコマンドを入力します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\resetdhcp.ps1

負荷分散のために DNS サーバ上でラウンド ロビンを有効にする方法

Microsoft DNS サーバでは、サーバ間の負荷分散に使用される技術であるラウン ドロビンをサポートしています。この機能によって、DNS では *myserver.mydomain.com*のクエリを受信する場合に両方のIP アドレスを送信でき ます。クライアント(またはリゾルバ)では、常に最初のものを使用します。次に DNS がこの名前のクエリを受信するときに、IP アドレスのリストの順序はラウンドロビン 手法を使用して変更されます(以前のリストで1番目だったアドレスは、新しいリ ストの最後になります)。1つのエイリアスに対して1つのカノニカル名しか許可され ないため、名前レコードのラウンドロビンはサポートされていません。

アプライアンスで、ドメイン ネーム サーバ(DNS) にすべての IPv4 アドレスのレコードを 追加し、ネット ワーク インターフェース全体 で負荷分散 することができます。

サーバ間の負荷分散の詳細については、RFC 1794を参照してください。

追加の IP アドレスのレコードをドメイン ネーム サービス サーバに追加する方法

サーバに 2 つ以上のネットワーク インターフェースカード(NIC) があるか、サーバの NIC に 2 つ以上の IP アドレスが指定されている場合は、各 IP アドレスの「A」レ コードを作成することによって、追加の IP アドレスのレコードを DNS サーバに追加 できます。

例:

サーバの DNS ホスト名 が <myserver> で、DNS ドメイン名 が <mydomain.com> であるとします。このサーバには、以下の2つの IP アドレスが割り当てられています。

- IPAddress1
- IPAddress2

これらの IP アドレスを DNS サーバに追加 するには、以下のように 2 つの「A」レコードを <mydomain.com> ゾーンに作成します。

- Myserver A <IPAddress1>
- Myserver A <IPAddress2>

リゾルバが毎回同じ IP アドレスを取得できるようにするには、以下のように、各ア ドレスに一意の名前を割り当てる「A」レコードをさらに2つ作成します。

- Altname1 A <IPAddress1>
- Altname2 A <IPAddress2>
この方法を使用すると、リゾルバは Altname1 に対するクエリを送信するときは常に IPAddress1を取得し、Altname2 に対するクエリを送信するときは常に IPAddress2 を取得します。

第5章:アプライアンス上のArcserve UDPのアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法	75
Arcserve UDP アプライアンス上のアップグレード シーケンス	76
UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス	.82

Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを 適用する方法

Arcserve UDP を v6.5 にアップグレードした後、または Arcserve Backup を r17.5 に アップグレードした後は、Arcserve UDP アプライアンス上の元のライセンス キーは機 能しません。Arcserve Unified Data Protection v6.5 および Arcserve Backup r17.5 用の新しいライセンス キーを取得するには、営業担当者までお問い合わせください。

Arcserve UDP のライセンス キーを追加する方法の詳細については、「Arcserve Unified Data Protection ソリューション ガイド」の「Arcserve 製品のアクティブ化」を 参照してください。

Arcserve UDP のライセンス キーを追加する方法の詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」の「Arcserve Backup コンポーネント ライセンスの適用」を参照してください。

Arcserve UDP アプライアンス上のアップグレード シーケンス

Arcserve UDP アプライアンス v5.0 から Arcserve UDP v6.5 へのアップグレードでは、 以下のいずれかのシーケンスを伴う場合があります。

- Arcserve UDP のアップグレード
 - ◆ Arcserve UDP コンソールおよび RPS として機能する Arcserve UDP アプライア ンスのアップグレード
 - Arcserve UDP RPS としてのみ機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップ グレード
 - <u>複数のArcserve UDP アプライアンスが環境で使用されている場合のアップ</u> <u>グレード手順</u>
- Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレー
 ド
- Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve Backup のアップグレード
- UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス

Arcserve UDP コンソールおよび RPS として機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード

この Arcserve UDP アプライアンスをアップグレードして、次に「<u>アップグレード シーケン</u> <u>ス</u>」に説明されている手順に従って環境をアップグレードします。 Arcserve UDP RPS としてのみ機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード

実稼働環境全体をアップグレードします。詳細については、「<u>アップグレード シー</u> <u>ケンス</u>」を参照してください。

複数のArcserve UDP アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード手順

- 実稼働環境全体をアップグレードします。詳細については、「<u>アップグレード</u> シーケンス」を参照してください。
- アップグレード後、Arcserve UDP コンソールからアプライアンスを RPS として追加 するときに以下のような警告が表示される場合は、「トラブルシューティング」 セクションの「別のアプライアンスから UDP アプライアンスをバックアップすると重 複するノードがレポートされる」トピックを参照してください。

Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード

- 最初に、Linux バックアップサーバ環境を管理している Arcserve UDP コンソー ルをアップグレードします。
- 次に、Arcserve UDP アプライアンス上のLinux バックアップサーバをアップグレードします。詳細については、「Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux オンライン ヘルプ」を参照してください。

Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve Backupの アップグレード

Arcserve UDP アプライアンス上 でアップグレードを完了するには、「Arcserve Backup 実装ガイド」を参照してください。

UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス

後方互換性サポートポリシーに基づいて、以下の順序でアップグレードを計画 し、アップグレードが円滑に行われるようにします。

- 1. Arcserve UDP コンソールをアップグレードします。
- 2. Arcserve UDP RPS (DR サイト)をアップグレードします。
- 3. Arcserve UDP RPS (データ センター)をアップグレードします。
- 4. Arcserve UDP エージェントレス プロキシ、データ センター内 の一 部 エージェントをアップグレードします。
- 5. Arcserve UDP RPS (リモート サイト) をアップグレードします。
- Arcserve UDP エージェントレス プロキシ、リモート サイトの一 部 エージェントを アップグレードします。

注: リモート サイトごとに、手順 5と6を繰り返します。

7. Arcserve UDP 仮想スタンバイモニタをアップグレードします。

注: レプリケーションの後方互換性サポートポリシーに従って、常にソース RPS の前にターゲット RPS をアップグレードしてください。

第6章: Arcserve UDP アプライアンスの設定

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法	
UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要	
Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成する方法	90
プランへのノードの追加の詳細	
<u>ゲートウェイとしての UDP アプライアンスの設定</u>	
環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用	
	111

UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法

Arcserve UDP アプライアンスを管理するには、最初にアプライアンスをネットワーク内に含めます。そのためには、ホスト名をアプライアンスに割り当て、ネットワークポートを設定する必要があります。

以下の手順に従います。

- 1. アプライアンスの電源をオンにした後、Microsoft ライセンス条項に対する設定画面が表示されます。条件を確認して、同意します。
- 2. UDP の [エンド ユーザ使用許諾契約]ダイアログボックスが表示されます。 使用許諾契約の内容を確認して同意し、 次へ]をクリックします。
- 3. アプライアンスのホスト名を入力します。名前を割り当てると、ネットワーク上 でアプライアンスを識別するのに役立ちます。

アプライアンスをネットワーク内のドメインのメンバにするには、 **この Arcserve** UDP アプライアンスをドメインに追加]オプションをクリックし、ドメイン、ユーザ 名、パスワードを指定します。

注: このオプションが選択されている場合、ドメイン]、 ユーザ名]、 [パス ワード]フィールドが表示されます。 **注:**新しいホスト名を適用するには、アプライアンスを再起動する必要があります。アプライアンスを今すぐ再起動するか、またはネットワーク設定後に 再起動するかを選択できます。

アプライアンスを再起動すると、他の任意のマシンから以下のURLを使用してアプライアンスにアクセスすることができます。

https://<hostname>:8015

- 4. 保存]をクリックします。
- 5. 以下のダイアログボックスが表示されます。

デフォルトでは、Arcserve UDP はネットワーク内のすべてのネットワーク接続を 検出します。一部の接続が割り当てられていない場合は、手動で編集 し、接続の詳細を指定します。 6. ネットワーク接続を編集するには、 **ネットワーク接続**]ボックスで **編集**]をクリックします。

7. [ネットワーク接続]ダイアログボックスが表示されます。

8. IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの値を必要に応じて変更し、 **保存**]をクリックします。

注:必要に応じて、ホスト名、ドメイン、日付と時刻を変更することもできます。

9. 変更を適用するには、「アプライアンスの再起動]をクリックしてアプライアンス を再起動します。

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されます。

- 10. [ログイン] 画 面 が再 度 表 示 されます。ユーザ名 とパスワードを入 力して、 Enter キーを押します。
- 11. アプライアンスの環境設定画面が再度開いたら、 [ウィザードの起動]をクリックします。

UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要

プランは、 バックアップするノード および バックアップするタイミングを定義 する手順の 集合です。 Arcserve UDP アプライアンスでは、 基本的なプランを作成できます。 UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成には、 次の3 つのステップが あります。

1. 保護するノードを追加します。

Windows ノード または仮想 マシンを vCenter/ESX または Hyper-V サーバから選択 できます。

- 2. バックアップ スケジュールを定 義します。
- 3. プランをチェックして確認します。

基本的なプランに加えて、Arcserve UDP では、UDP コンソールから複雑なプランを 作成して多くのパラメータを制御することができます。UDP コンソールから複雑なプ ランを作成するには、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」を参照してください。

Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成す る方法

アプライアンスが新しいホスト名 で再起動されると、Unified Data Protection ウィ ザードが表示されます。ウィザードを使用して、バックアップをスケジュールするため の基本プランを作成できます。このプランでは、保護するノードを定義し、バック アップを実行するタイミングをスケジュールできます。バックアップ先は、アプライアン スサーバです。

注: Arcserve UDP アプライアンス設定 ウィザードのすべての手順はオプションです。 スキップして、直接 UDP コンソールを開いてプランを作成 することもできます。

以下の手順に従います。

- 1. Arcserve UDP コンソールにログインします。
- Unified Data Protection ウィザードでは、「Arcserve UDP アプライアンス管理」 ダイアログボックスが最初に表示されます。UDP コンソールは、スタンドアロン のインスタンスとして管理できます。または別のUDP コンソールからリモートで 管理できます。リモートコンソール管理機能は、複数のUDP コンソールを管 理している場合に便利です。



 アプライアンスをローカルで管理するか(デフォルト)、別のUDP コンソールから 管理するかを選択します。

アプライアンスが別のUDP コンソールから管理されている場合、UDP コンソールのURL、ユーザ名、パスワードを指定します。

4. 次へ]をクリックします。

注:ウィザードを閉じて Arcserve UDP コンソールを開くには、 キャンセル]をクリックします。

データストア]ダイアログボックスが表示されます。

データストアは、アプライアンス上の物理ストレージ領域で、バックアップ先として使用されます。

デフォルトでは、Arcserve UDP は <hostname>_data_store という名前でデータ ストアを作成します。このデータストアは、デデュプリケーションおよび暗号化に 対応しています。デデュプリケーションおよび暗号化の詳細については、 「Arcserve UDP ソリューションガイド」の「<u>データデデュプリケーション</u>」を参照して ください。

注: データストアは暗号化されるため、暗号化パスワードを指定する必要があります。

- 5. このデータストアに対する暗号化パスワードを入力し、確認します。
- 6. 次へ]をクリックします。
- 7. **電子メールおよびアラート**]ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスでは、アラートを送信するために使用される電子メー ルサーバと、アラートを受け取る受信者を定義できます。成功したジョブ、 失敗したジョブ、またはその両方に基づいてアラートを取得するオプションを 選択できます。 8. 以下の電子メールとアラートの詳細を指定します。

サービス

Google メール、Yahoo メール、Live メール、などの電子メール サービスを指定します。

電子メールサーバ

電子メールサーバのアドレスを指定します。たとえば、Google サーバ 電子メールの場合は smtp.gmail.com を指定します。

ポート

電子メールサーバのポート番号を指定します。

認証が必要

電子メールサーバに認証が必要かどうかを指定します。認証が必要な場合は、認証用のアカウント名とパスワードを指定します。

件名

受信者に送信される電子メールの件名を指定します。

送信者

送信者の電子メールIDを指定します。受信者はこの送信者から メールを受信します。

受信者

アラートを受信する受信者を指定します。複数の受信者がいる場合 はセミコロン(;)で区切ることができます。

オプション

通信チャネルに使用する暗号化方式を指定します。

プロキシ サーバを使用して接続する

プロキシ サーバ経由で電子メール サーバに接続している場合は、プロ キシ サーバのユーザ名とポート番号を指定します。また、プロキシ サー バで認証 が必要な場合は、ユーザ名とパスワードを指定します。

テスト電子メールを送信

テスト メールを受信者に送信します。 テスト メールを送信することに よって、詳細を確認できます。

- 9. 次へ]をクリックします。
- 10. **リモート RPS にレプリケート**]ダイアログ ボックスが表示されます。

11. アプライアンスで、リモートで管理された復旧ポイントサーバ(RPS) にレプリ ケートするようにするには、以下の詳細を指定します。リモートで管理された RPSの詳細については、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」を参照してくだ さい。

Arcserve UDP コンソールの URL

リモートの Arcserve UDP コンソールの URL を指定します。

ユーザ名 およびパスワード

リモート コンソールに接続するために使用されるユーザ名とパスワード を指定します。

プロキシサーバを使用して接続する

リモート コンソールがプロキシ サーバの背後 にある場合は、プロキシ サーバの詳細を指定します。

- 12. アプライアンスで、リモートで管理された RPS にレプリケートしないようにするに は、 **このアプライアンスはリモートで管理された RPS にレプリケートしません**〕 オプションを選択します。
- 13. 次へ]をクリックします。
- 14. プランの作成]ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスを使用して、基本プランを作成し、保護するノードおよびバックアップのスケジュールを指定できます。

注: ウィザードを使用して基本プランを作成しない場合は、以下の手順を 実行します。

- a. **プラン作成をスキップ**]をクリックします。
- b. **次の手順**]ダイアログボックスが表示されます。
- c. **院了**]をクリックし、UDP コンソールを開いてプランを作成します。
- 15. プランを作成するために以下の詳細を指定します。

プラン名

プランの名前を指定します。プラン名を指定しない場合は、デフォルトの名前として「保護プラン <n>」が割り当てられます。

セッション パスワード

セッション パスワードを指定します。 セッション パスワードは、 データのリストア時に必要となるため重要です。

ノードをプランにどのように追加しますか?

ノードをプランに追加する方法を指定します。以下の方法から1つを 選択します。 ◆ <u>ホスト名 /IP アドレス</u>

ノードのホスト名または IP アドレスを使用してノードを手動で追加 する方法を示します。必要な数だけノードを追加できます。

Active Directory からのノードのディスカバリ

Active Directory内にあるノードを追加する方法を示します。Active Directoryの詳細情報を使用してノードを検出してから、ノードを追加できます。

vCenter/ESX Server からインポート

ESX または vCenter Server から仮想マシンノードをインポートする方法を示します。このオプションでは、指定されたホスト名または IP アドレス上で検出されたすべての仮想マシンがリスト表示されます。

◆ <u>Hyper-V Server からインポート</u>

Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポートする方法を示します。

方法を選択したら、各ダイアログボックスで詳細を指定します。

16. ノードがプランに追加されたら、 次へ]をクリックします。

[vivクアップ スケジュール]ダイアログ ボックスが表示されます。

ロドロSET VE UDP バックアップ スケジュール プランのバックアップ スケジュールの基準を入	アプライアンス環境設定 .カします。	1		
インストール/アップグレードおよび再起 動のタイシング	金曜日 🚽 : 21		*	
	22 00 基づく) ウグレードの完了後にすぐに再起 らインポートされたノードでは、エー パックアップが実行されます。 した後は、毎日 22:00 に増分パ	/がまだインスト ールさ 2動されます。 ージェントのインストー ックアップが実行されま	れていないすべてのソー ルと再起動は発生しま たす。	-スノードに最新 tせん。
プランの作成のキャンセル ステップ 7 / 9		前に戻る	کر	キャンセル

- 17. 以下のスケジュールを入力します。
 - ◆ Arcserve UDP エージェントのインストールまたはアップグレードのスケジュール: エージェントがインストールされていないソースノードに、Arcserve UDP エージェントの最新バージョンがインストールされます。以前のエージェントのインストールは、最新のバージョンにアップグレードされます。
 - ◆ 増分バックアップスケジュール:初めての場合はフルバックアップが実行され、その後は増分バックアップが実行されます。

注: インストール/アップグレードの時刻より前にバックアップの時刻がスケ ジュールされている場合、バックアップは自動的に次の日にスケジュールされ ます。たとえば、エージェントのインストールを金曜日の午後9時にスケ ジュールし、バックアップを午後8時にスケジュールした場合、バックアップは 土曜日の午後8時に実行されます。

プランの作成をキャンセル:作成したプランをキャンセルするには、プランの作成をキャンセル]をクリックします。

18. 次へ]をクリックします。

プランの確認]ダイアログボックスが開きます。

19. ダイアログ ボックスで、プランの詳 細を確 認します。必要に応じて、 レードの 編集]または 「スケジュールの編集]をクリックしてノードまたはスケジュールを 編集するか、プランを追加または削除できます。 ノードの編集

保護するソースノードを変更します。

スケジュールの編集

バックアップスケジュールを変更します。

20. プランを検証したら、 次へ]をクリックします。

次の手順]ダイアログボックスが表示されます。

環境設定が正常に終了し、Arcserve UDP コンソールで作業する準備が整い ました。保護するノードをさらに追加し、仮想スタンバイなどの機能でプランを カスタマイズし、復旧ポイントサーバおよびデータストアを含めることによってデ スティネーションを追加することができます。

21. **院了**]をクリックしてウィザードを終了し、Arcserve UDP コンソールを開きます。

プランへのノードの追加の詳細

さまざまなノードを保護するためのプランを作成することができます。ノードを保護 するには、ノードをプランに追加する必要があります。 UDP アプライアンス ウィザード からノードを追加できます。 ウィザードでは、以下の方法を使用してノードを追加 できます。

- ノードのIPアドレスまたはホスト名を手動で入力 (ホスト名/IPアドレスによるノードの追加)
- Active Directory からのノードのディスカバリ (Active Directory によるノードの追加)
- VMware ESX/vCenter Server から仮想マシンノードをインポート (vCenter/ESXノードの追加)
- Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポート

(Hyper-V ノードの追加)

ホスト名/IP アドレスによるノードの追加

ノードをプランに追加するために IP アドレスまたはホスト名を手動で入力すること ができます。追加するノード数が少ない場合はこの方法を使用しますが、複数の ノードを1つずつ追加できます。Arcserve UDP エージェント(Windows) はこれらの ノードにインストールされます。

以下の手順に従います。

1. **ホスト名 /IP アドレスによるノードの追加**]ダイアログ ボックスで、以下の詳細を入力します。

ホスト名/IP アドレス

ソースノードのホスト名またはIPアドレスを指定します。

ユーザ名

管理者権限を持つノードのユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

説明

ノードを特定する説明を指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. [リストに追加]をクリックします。

ノードが右ペインに追加されます。さらにノードを追加するには、これらの手順を繰り返します。追加されたすべてのノードは、右ペインにリスト表示されます。

- 3. (オプション) 追加したノードを右ペインのリストから削除するには、目的の ノードを選択して 削除]をクリックします。
- 4. 次へ]をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

Active Directory によるノードの追加

Active Directory にノードを追加するには、Active Directory の詳細を指定し、ノードを検出して、プランにノードを追加します。

以下の手順に従います。

1. Active Directory によるノードの追加]ダイアログボックスで、以下の詳細を 入力します。

ユーザ名

<ドメイン>\<ユーザ名>の形式でドメインおよびユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

コンピュータ名フィルタ

ノード名のディスカバリに使用するフィルタを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. 後照]をクリックします。

検出されたノードが表示されます。

ノードを追加するには、ノードを選択して確認します。

3. 検証するには、ノードを選択し、ユーザ名およびパスワードを入力して 適 用]をクリックします。

認証情報が検証されました。検証済みノードには、緑色のチェックマークが付いています。ノードの検証が失敗した場合、認証情報を再入力して 適用]を再度クリックします。

注:ノードをリストに追加する前に各ノードを検証する必要があります。

4. リストに追加]をクリックします。

選択したノードが右ペインに追加されます。

- 5. (オプション) ノードを右 ペインから削除するには、ノードを選択して 削除]を クリックします。
- 6. 次へ]をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

vCenter/ESX ノードの追加

仮想マシンノードを VMware vCenter/ESX Server に追加できます。これらのノードを追加するには、 vCenter/ESX Server からのノードを検出およびインポートする必要があります。

- 以下の手順に従います。
- 1. **[vCenter/ESX によるノードの追加**]ダイアログボックスで、以下の vCenter/ESX Server の詳細を指定し、 **接続**]をクリックします。

ホスト名 /IP アドレス

vCenter/ESX Server のホスト名または IP アドレスを指定します。

ポート

使用するポート番号を指定します。

プロトコル

使用するプロトコルを指定します。

ユーザ名

サーバのユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. 検出されたホスト名が表示されます。ホスト名を展開してノードを参照しま す。

- 3. 追加するノードを選択してから、 **リストに追加**]をクリックします。 選択したノードが右ペインに追加されます。
- 4. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して 削除]を クリックします。
- 5. **次へ**]をクリックします。 ノードがプランに追加されます。

Hyper-Vノードの追加

この方法を使用すると、Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポートできます。

以下の手順に従います。

1. [Hyper-V ノードの追加]ダイアログボックスで以下の詳細を指定します。

ホスト名/IP アドレス

Hyper-V サーバの名前または IP アドレスを指定します。 Hyper-V クラス タに含まれている仮想マシンをインポートするには、 クラスタノード名ま たは Hyper-V ホスト名のいずれかを指定します。

ユーザ名

管理者権限のある Hyper-V ユーザ名を指定します。

注: Hyper-V クラスタの場合は、クラスタの管理者権限を持つドメイン アカウントを使用します。 スタンドアロン Hyper-V ホストの場合は、ドメ イン アカウントを使用することをお勧めします。

パスワード

ユーザ名のパスワードを指定します。

106 Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイド

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. 接続]をクリックします。

検出されたホスト名が表示されます。ホスト名を展開してノードを参照します。

- 3. (オプション) [フィルタ] フィールドにノード名を入力して、ツリー内のノードを検索できます。
- 4. ノードを選択してから、「リストに追加]をクリックします。

選択したノードが右ペインに追加されます。

- 5. (オプション) ノードを右 ペインから削除するには、ノードを選択して 削除]を クリックします。
- 6. **次へ**]をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

ゲート ウェイとしての UDP アプライアンスの設定

Arcserve UDP アプライアンスをゲート ウェイとして設定できます。

以下の手順に従います。

- 1. Arcserve UDP アプライアンスから Arcserve UDP コンソールをアンインストールします。
- 2. Arcserve UDP コンソールから、 [リソース]タブをクリックします。
- 3. Arcserve UDP コンソールの左ペインで、 [インフラストラクチャ]に移動して、 [サイト]をクリックします。
- 4. [サイトの追加]をクリックします。
- 5. **サイトの追加**]ウィザードの手順に従って、Arcserve UDP アプライアンス上に Arcserve UDP リモート管理ゲートウェイをインストールします。

注: Arcserve UDP アプライアンス上に Arcserve UDP リモート管理ゲートウェイ をインストールした後に、Arcserve UDP アプライアンス ウィザードで [ウィザード の起動]をクリックしても、Arcserve UDP コンソールは起動しません。Arcserve UDP コンソールにアクセスするには、Arcserve UDP コンソールの URL を直接入 力します。
環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用

ファクトリリセットを使用して、Arcserve UDP アプライアンスをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。 ファクトリリセットは Arcserve UDP コンソールから適用できます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールの 設定]タブで [ファクトリリセット]をクリックします。

デフォルトではすべてのバックアップデータが保存されます。

Notes:

Arcserve UDP には、 既存のバックアップデータを保持]オプションが用意されており、既存のデータストアを保存することができます。

- 既存のバックアップデータを保持]オプションを選択した場合、C:\ volumeのみが再構築されます。X:\ volumeおよび Y:\ volumeのデータは 変更されないままになります。
- 既存のバックアップデータを保持]オプションを選択しない場合、C:\, X:\ および Y:\が再構築されます。
- 2. **ファクトリリセットを実行**]をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

3. 確認のダイアログボックスで、 **リセット**]をクリックすると、 ファクトリリセット が開始されます。

アプライアンスマシンが再起動され、ファクトリリセットが以下に表示されるとおりに実行されます。

ファクトリリセットの完了により、確認のダイアログボックスが表示されます。

- 4. 確認ダイアログボックスで、以下のいずれかのオプションを実行します。
 - ◆ 再起動]をクリックしてアプライアンスを再起動します。
 - ◆ [シャット ダウン]をクリックしてアプライアンスを閉じます。

ブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリ セットの適用

UDP ファクトリリセットは、UDP アプライアンスのブート メニューから適用 することもで きます。UDP ファクトリリセットを使用して、Arcserve UDP アプライアンスをクリーンな 未設定の状態に戻すことができます。

注: UDP ファクトリリセットの実行中に、バックアップデータを保持するオプションも 選択できます。

以下の手順に従います。

1. ブート メニューを起動するには、F11 キーを押します。



2. ブート オプションの UDP ファクトリリセットを選択します。



ファクトリリセットに関するページが表示されます。



Notes:

- デフォルトで、既存のバックアップデータを保持]オプションが選択されています。元のオペレーティングシステムのC:\ボリュームのみが再構築されます。X:\volumeおよびY:\volumeのデータは変更されないままになります。
- 既存のバックアップデータを保持]オプションの選択をオフにすると、 元のオペレーティングシステムのC:\、X:\、Y:\の各ボリューム上のすべてのデータが再構築されます。
- 3. [リセット]をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

com	in racioly reset	
!	Are you sure you want to perform a factory reset on your Arcserve UDP App Reset will result in returning all settings to their factory defaults.	bliance? Selecting
	All of your backup data will be deleted during the reset and will not be reco want to delete your backup data, click Cancel and select "Preserve existing l	verable. If you do not backup data".
	Decet	Cancel

[キャンセル]をクリックすると、アプライアンスユニットを再起動できます。

- 4. ファクトリリセットが完了した後、以下のいずれかの操作を実行できます。
 - 再起動]をクリックしてアプライアンスを再起動します。
 - ◆ **シャット ダウン**]をクリックしてアプライアンスを閉じます。

Factory Reset	
	nthe Arcterve UDP Applance to their factory defaults. All resources, job history, reports, and log are being deleted. The Arcserve UDP software is the Applance.
Reverting to Arcserve UDP Version	12.34.50.
Existing backup data is being pres	Factory Reset is Complete
2011/01/2011/02/2012/00/90/90/90	Your Arcsene UDP Appliance has been returned to its factory defaults
	Click Restart to restart the appliance and launch the Configuration Wizard or click Shut Down to shut down the appliance.
	Restart Shut Down
V=	
Eactory years in complete	

アプライアンス上のArcserve 製品をアクティブ化する方法

アプライアンス上の Arcserve 製品のアクティブ化の詳細については、「ソリューション ガイド」の「<u>オンラインでの Arcserve 製品ライセンスのアクティブ化</u>」を参照してください。

第7章: バックアップ プランの作成

UDP アプライアンスを使用して、Windows、Linux、および仮想マシン用のバックアッ プ プランを作成できます。 テープ デバイスにデータを書き込み、 仮想スタンバイマ シンを作成することもできます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Linux ノード用のバックアッププランの作成	117
<u>テープデバイスへのバックアッププランの作成</u>	118
アプライアンス上仮想スタンバイプランの作成	119

Linux ノード用のバックアップ プランの作成

アプライアンス コンソールから Linux ノードをバックアップできます。Linux バックアップ サーバはすでにコンソールに追加されています。

以下の手順に従います。

- 1. アプライアンスコンソールを開きます。
- 2. [リソース]- [プラン]- 「すべてのプラン]をクリックします。
- 3. Linux バックアップ プランを作成します。
- 4. [ソース]、「デスティネーション]、「スケジュール]、 肱張]の設定を指定しま す。

注:各環境設定の詳細については、「ソリューションガイド」の「Linux バック アッププランを作成する方法」を参照してください。

5. バックアップ プランを実行します。

テープ デバイスへのバックアップ プランの作成

UDP アプライアンスには、テープ デバイスにデータを書き込む機能があります。通常、ソース データは、UDP バックアップ プランを使用してデータ ストアに保存されて いる復旧ポイントで、デスティネーションはテープ デバイスです。Arcserve Backup マネージャを使用して、テープへのバックアップ ジョブを管理する必要があります。 以下のプロセスの概要は、UDP アプライアンスを使用してテープ デバイスに書き込む方法を理解するのに役立ちます。

1. テープ デバイスを UDP アプライアンスに接続します。

UDP アプライアンスには、テープ デバイスを接続するためのポートが背面パネ ルに備わっています。テープ デバイスを接続すると、UDP アプライアンスは自動的にテープ デバイスを識別します。

2. バックアップマネージャを使用して、テープデバイスを設定します。

バックアップ マネージャを開き、テープ デバイスをバックアップ マネージャに追加 します。バックアップ マネージャは、Arcserve Backup を管理 するためのインター フェースです。テープ デバイスをバックアップ マネージャに追加した後、デバイ スを設定します。

注: デバイスの設定および管理の詳細については、「Arcserve Backup for Windows 管理者ガイド」の「デバイスおよびメディアの管理」を参照してください。

3. UDP コンソールを使用して、1 つ以上のバックアップ ジョブを正常に完了します。

テープ デバイスに書き込み可能な正常なバックアップが少なくとも1つ存在 している必要があります。 データをバックアップするには、UDP コンソールを使 用してプランを作成し、 データストアにバックアップします。

注:別のノード用のバックアッププランの作成に関する詳細については、「ソ リューションガイド」の「データを保護するプランの作成」を参照してください。

4. バックアップマネージャからのテープへのバックアップジョブの開始

バックアップ マネージャを開き、テープ デバイスにデータをバックアップするプラン を作成します。 ソース データは UDP バックアップ プランのデスティネーションで、 デスティネーションはテープ デバイスです。

注: テープへのバックアップ プランの作成に関する詳細については、「Arcserve Backup for Windows 管理者ガイド」の「D2D/UDP データのバックアップおよび 回復」を参照してください。

アプライアンス上仮想スタンバイ プランの作成

アプライアンスには、仮想スタンバイマシンとして動作する機能があります。この機能は、以下アプライアンスシリーズに備わっています。

- Arcserve UDP アプライアンス 7200V
- Arcserve UDP アプライアンス 7300V
- Arcserve UDP アプライアンス 7400V
- Arcserve UDP アプライアンス 7500V
- Arcserve UDP アプライアンス 7600V
- Arcserve UDP アプライアンス 8100
- Arcserve UDP アプライアンス 8200
- Arcserve UDP アプライアンス 8300
- Arcserve UDP アプライアンス 8400

前提条件:バックアッププランが正常に実行されている必要があります。

以下の手順に従います。

- 1. アプライアンスコンソールを開きます。
- 2. プランに移動して、バックアップ プランを変更します。
- 3. 仮想スタンバイタスクを追加します。
- 4. ソース、デスティネーション、仮想マシンの環境設定を更新します。

注:環境設定の詳細については、「ソリューションガイド」の「仮想スタンバイ プランを作成する方法」トピックを参照してください。

5. プランを保存して実行します。

第8章: Arcserve UDP アプライアンスの修復

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

ハードドライブの取り外しおよび交換	
-------------------	--

ハードドライブの取り外しおよび交換

Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。

Arcserve UDP アプライアンスには、4 つのハード ドライブ キャリアが含 まれており、左 から右 に 0、1、2、3 とラベルが付 けられています。 一度 に複数 のハード ドライブを 交換する場合、各ドライブ キャリアでどのドライブが交換されたかがわかるように、 交換したハード ドライブにラベルを付 ける必要 があります。 アプライアンスから取り 外したハード ドライブにもラベルを付け、どのドライブ キャリアによって占有されてい たかがわかるようにします。

重要: ハードドライブは静電気に敏感なデバイスであり、損傷しやすいため、ハードドライブを扱う場合は適切な保護対策を講じてください。

- 静電気の放電を防ぐためにリストトラップを着用してください。
- 交換用ハードディスクを帯電防止のパッケージ袋から取り出す前に、接地された物体に触れるようにします。
- ハードドライブを扱う際は常に端のみを持つようにし、底面の露出している部品には一切触れないでください。

以下の手順に従います。

- ドライブホルダーにアクセスするには、まずフェースプレートを取り外す必要があります。
 - a. フェースプレートのロックを解除します。
 - b. 取り外し用つまみを押してフェースプレート ピンを格納します。
 - c. フェースプレートを慎重に取り外します(両手を使用)。
- 2. ドライブ キャリアの取り外し用ラッチを押します。これにより、ドライブ キャリア ハンドルが展開されます。

ハンドルを使用して、アプライアンスの前面からドライブキャリアを引き出します。ハードドライブは、アプライアンスに対する取り付け/取り外しを簡単に行うことができるよう、ドライブキャリアにマウントされています。これらのキャリアは、ドライブベイに適切な換気が行われるようにするのにも役立ちます。
 重要:短時間の場合を除き(ハードドライブの交換など)、ドライブキャリアが完全に設置されていない状態でアプライアンスを稼働させることはしない

でください。 4. 古いハードドライブをドライブキャリアから取り外し、新しいハードドライブを 設置します。その際、交換用ハードドライブが正しい向きであるかに注意 し、ラベルが上部、部品が下部にきていることを確認します。

5. ドライブトレイがアプライアンスに完全に設置されるまでスライドし、ドライブ キャリア ハンドルを閉じて固定します。 6. ドライブを返却する場合は、返却に関する指示を Arcserve サポートから取得します。

第9章:安全に関する注意事項

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

一般的な安全に関する注意事項	
電気に関する安全のための注意事項	
FCC コンプライアンス	
<u>静電気放電(ESD)に関する注意事項</u>	

一般的な安全に関する注意事項

以下は、自分自身を損害から保護し、アプライアンスを障害または誤動作から保護するために従う必要がある一般的な安全に関する注意事項です。

EMI クラスA機器(商用機器)の場合、本装置は家庭用ではなく、商用機器(A)としてEMC(Electromagnetic Compatibility) Registration に登録されています。販売者およびユーザは、この点において注意する必要があります。

A급 기 기 (업 무 용 방 송 통 신 기 자 재)

이 기 기 는 업 무 용 (A급)으로 전 자 파 적 합 기 기 로 서 판 매 자 또 는 사 용 자 는 이 점 을 주 의 하 시 기 바 라 며 ,가 정 외 의 지 역 에 서 사 용 하 는 것 을 목 적 으 로 합 니 다

注: この注意事項は韓国にのみ適用されます。詳細については、Arcserve サポート (<u>https://www.arcserve.com/support</u>) までお問い合わせいただくか、 0079885215375 (韓国) までお電話ください。

- アプライアンスに同梱されている内容をチェックして破損がないことを確認します。破損の証拠がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください: <u>https://www.arcserve.com/support</u>。
- アプライアンスを格納するラックユニットの適切な場所を決定します。これは、 よく換気され、ごみなどがない清潔かつ無塵の領域に配置する必要があります。熱、電気的ノイズ、電磁場が生じる場所は避けてください。
- また、接地された電源コンセントが少なくとも1つある場所の近くに配置する 必要があります。モデルによっては、アプライアンスに1つの電源または冗長電 源装置のいずれかが含まれており、2つの接地されたコンセントが必要になり ます。
- アプライアンスは、限られた場所でのみ使用するものです。
 - 場所に適用される制限の理由および従うべき注意事項について指示 されているユーザまたはサービス担当者からアクセスを得ることができます。
 - アクセスするには、ツールまたはロックおよびキー、セキュリティの別の手段によって与えられ、その場所に責任を持つ担当者によって制御されます。
- アプライアンスの上部のカバーと、アプライアンスから取り外されたすべての部品 をテーブルの上に置き、誤って踏まないようにします。

- アプライアンスを使用して作業する際は、ネクタイや袖のボタンを留めていないシャツなどゆるやかな服装は避けてください。そのような服装は、電子回路に触れたり、冷却ファンに巻き込まれたりする可能性があります。
- 宝飾品や金属のものは、金属導体であり、プリント基板(PCB)または電流が 流れている場所に接触すると、ショートしたり損傷を生じさせたりする可能性 があるため、身に付けないでください。
- アプライアンスの内部にアクセスし、すべての接続が行われたことを確認したら、アプライアンスを閉じて、留めねじでラックユニットに固定します。

電気に関する安全のための注意事項

以下は、自分自身を損害から保護し、アプライアンスを障害または誤動作から保護するために従う必要がある電気に関する安全のための注意事項です。

- アプライアンス上の電源オン/オフのスイッチの場所と、部屋の緊急電源遮断 スイッチ、切断スイッチ、電源コンセントの場所を確認します。電気的事故が 発生した場合は、アプライアンスから電力を素早く切断することができます。
- 高電圧の部品を扱う場合は、1人で作業しないでください。
- システムの主要部品(サーバボード、メモリモジュール、DVD-ROM、フロッピードライブなど)を取り外したり配置したりする場合は、必ずアプライアンスから電力を切断する必要があります(ホットスワップ可能なドライブには必要ありません)。電力を切断する場合は、最初にオペレーティングシステムでアプライアンスの電源を切り、次にアプライアンスのすべての電源モジュールから電源コードのプラグを抜きます。
- 露出している電子回路の周りで作業する場合、電源切断の制御に慣れている別の担当者が待機し、必要に応じて電源スイッチをオフにする必要があります。
- 電源がオンになっている電子機器を扱う場合は、片手のみを使用します。これは、完全に閉じられた回路を防ぐためです。完全な回路は電気ショックを引き起こす可能性があります。金属のツールを使用する場合、電子部品や回路基板に接触すると簡単に損傷を与える可能性があるため、特に注意します。
- 感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。代わりに、電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。
- 電源装置の電源コードには、アース端子付きプラグが含まれている必要があり、アース接地用コンセントに接続する必要があります。
- サーバボードのバッテリ:注意:オンボードバッテリの上下を逆に設置すると、 極性が逆になり、爆発の危険があります。このバッテリは、メーカによって推奨 されるのと同じ種類または同等の種類でのみ置き換える必要があります。 メーカの指示に従って使用済みバッテリを破棄します。
- DVD-ROM のレーザー:注意 このサーバには、DVD-ROM ドライブが装備されている場合があります。レーザービームへの直接の露出および有害な放射線被ばくを回避するため、筐体を開いたり、通常とは異なる方法でユニットを使用したりしないでください。

FCC コンプライアンス

このアプライアンスは、FCC 規則の Part 15 に準拠しています。以下の条件に従って運用される必要があります。

- このアプライアンスは、有害な干渉を引き起こしません
- このアプライアンスは、受け取った干渉を受け入れる必要があります(意図しない操作を発生させる可能性がある干渉を含む)

注: この機器はテストされ、クラス A のデジタル機器の制限に従っており、FCC 規 則の Part 15 に準拠していることが検証されています。これらの制限は、機器が 商用目的で運用された場合に有害な干渉に対して適切な保護を提供するよ うに設計されています。この機器は、電磁波を発生および利用し、外部に放射 することがあり、正式な手順に従って設置および使用されない場合は、無線通 信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。住宅地域でこの機器を稼働 させると、有害な干渉が発生する可能性があり、ユーザは自らの費用負担で干 渉を是正する必要があります。

静電気放電(ESD)に関する注意事項

静電気放電(ESD)は、異なる電荷の2つの物体が互いに接触することによって 生じます。静電気は、この電荷の違いを中和しようとして発生し、電子部品やプ リント回路基板に損傷を与える可能性があります。ESDに敏感なデバイスには、 サーバボード、マザーボード、PCleカード、ドライブ、プロセッサ、メモリカードなどが あり、特殊な扱いが必要となります。接触する物体の電荷の違いを中和するた めの努力として、接触前に以下の注意事項に従い、機器をESDから保護しま す。

- 電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。
- 静電気の放電を防ぐように設計されている接地されたリストストラップを使用します。
- ■帯電または放電(ESD)を予防する洋服または手袋を使用します。
- すべての部品およびプリント回路基板(PCB)は、使用するまで静電気防止 バッグに入れておきます。
- 基盤を静電気防止バッグから取り出す前に、接地されたメタルオブジェクトに触れます。
- 部品または PCB が洋服に触れないようにします。触れた場合は、リストストラップを装着していても静電気を帯びる可能性があります。
- ボードを扱う際は、その端のみに触れるようにします。その部品、周辺チップ、 メモリモジュール、接点に触れないでください。
- チップまたはモジュールを扱う場合、そのピンに触れないようにします。
- サーバボードおよび周辺機器を使用しない場合は静電気防止バッグに戻します。
- 接地目的のため、アプライアンスが、電源、ケース、マウントファスナー、サーバボード間で優れた伝導性を提供することを確認します。

第 10 章: IPMI での作業

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>IPMIパスワードを変更する方法</u>	
IPMI ファームウェアをアップグレードする方法	

IPMI パスワードを変更する方法

IPMI パスワードを変更する前に、BIOS セットアップ画面にアクセスして IP アドレスを取得する必要があります。

以下の手順に従います。

1. システムを起動すると、ブート画面が表示されます。この画面で、Delete キーを押します。BIOS セットアップ画面が表示されます。

注:移動するには、矢印キーを使用し、Enterキーを押します。前の画面に 戻るには、Escapeキーを押します。

2. BIOS メイン画面の上部で IPMI タブを選択します。

注: デフォルトでは、環境設定アドレスソースは DHCP に設定されています。

- IP アドレスが正しいことを確認します。サーバが同じネットワーク上にある場合のみ、Web ブラウザを使用して、IPMI インターフェースに接続することができます。
- 4. ステーション IP アドレスを記録します。

5. ステーション IP アドレスを Web ブラウザに入力します。 IPMI ポート経由でリモート サーバに接続した後、IPMI ログイン画面が表示 されます。

- 6. [ユーザ名]フィールドにユーザ名を入力します。(デフォルトは ADMIN)
- 7. [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。(デフォルトは ARCADMIN)
- 8. ホームページが表示されます(IPMIメイン画面)。

9. 上部バーから 環境設定]オプションをクリックします。 環境設定]画面が 表示されます。 10. 環境設定]サイドバーで ユーザ]オプションをクリックします。

11. ユーザリストから ユーザ: (ADMN)]を選択します。

12. ユーザの変更]をクリックすると、ユーザの変更]画面が表示されます。

- 13. ユーザ名を入力します。(ADMIN)
- 14. [パスワードの変更]チェックボックスを選択してパスワードを変更します。パ スワードフィールドが有効になります。
- 15. 新しいパスワードを入力し、確認します。
- 16. 変更]をクリックすると、変更が保存されます。 IPMI パスワードが変更されます。

IPMI ファームウェアをアップグレードする方法

Supermicro IPMI ユーティリティは、組織の要件に従って IPMI をアップグレードするのに役立ちます。

以下の手順に従います。

1. IPMI にログインし、 [Maintenance] タブに移 動して [Firmware Update]を クリックします。

[Firmware Update] 画面が表示されます。

2. **Enter Update Mode**]をクリックします。

[Message from webpage]ポップアップ ウィンド ウが表示されます。

3. **[DK**]をクリックします。

[BIOS & IPMI download] 画面が表示されます。

4. IPMI モデルのリビジョンに対応する.zip ファイルをクリックします。

ファイルがダウンロードされ、 [Firmware Upload] 画面が表示されます。

- 5. ダウンロードした .zip ファイルからファイルを抽出します。
- 6. [Firmware Upload] 画 面 で [Browse]をクリックして、抽 出 されたファイルか ら.bin ファイルを選 択します。
- 7. [Upload Firmware]をクリックします。

ファームウェアのイメージがアップロードされます。

8. [Start Upgrade]をクリックします。

ファームウェアのアップグレードが完了し、IPMIが再起動されます。

[Summary]画面で、アップグレードされたファームウェアのバージョンを確認できます。

第 11 章: アプライアンス サーバへのアプライアンス拡張 シェルフの接続

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

すべての利用可能なモデルのためのアプライアンスインフィールド拡張	138
同梱されている内容	148
アプライアンスサーバへのアプライアンス拡張シェルフの接続方法	151
Arcserve UDP データストアの変更方法	160

すべての利用可能なモデルのためのアプライアンスイ ンフィールド拡張

モデル	現在の容量 \TB	拡 シ ル フ 客 量	現 在の SSD- GB	新 U SSD 要件 GB	空さいト数	アドオンカー ド	説明	3
8100	4, 6	8 (6x2 TB ディス ク)	120	8 TB - 140	2, 3	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポー ト 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ポート 10G Copper インフィール ド拡張 - (MegaRAID SAS 9380- 8e)	1. 1. 2. 2. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3.)、フ張ポ。)、愛はお前かG.C)、シャがアスーク。393めえつ。モミィ張ポ。。シシ組お設のB.C にヨ2がプイル R.88にロ必ず Tーのト ちェ組よ定 Sがす はンおあライド A.80にロ必ル B ルみび 定 D 付ま 、スよまイ 拡 D &e 、外要

			Л	オプションス
			ч.	ロットの両
				方にアドオン
				カードが挿
				入されてい
				る場合、イ
				ンフィールド
				拡張を使
				用するた
				め、少なくと
				も1つのス
				ロット、好ま
				しくはスロッ
				ト3を空け
				る必要があ
				ります。
			5.	アプライアン
				スと拡 張
				シェルフの間
				では SAS 接
				続が使用さ
				れます。
			6.	8100 - 拡張
				シェルフには
				RAID-6 が搭
				載されてい
				ます。
			7.	拡張シェル
				フにはデュア
				ル PSU が搭
				載されてい
				ます。
			8.	拡張シェル
				フを接続し
				た後、拡張
				ガイドの
				「データパス
				の追加手
				順」に従い

						9.	ます。 新しい SSD が必は、5 のでな場 ガイドの「 かったっ のハッシュ デ ンの ティンの 手 しい SSD へ の フティンの 手 しい い の に 、 の い ッシュ デ の に 、 の に い の に の の の の の の の の の の の の の の の
8200 8, 12	8 (500 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	220	8 TB - NA 16 TB - 280	2, 3	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポー ト 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ポート 10G Copper インフィール ド拡張 (MegaRAID SAS 9380- 8e)	1. 2. 3.	8200 よういでけルすき 81拡フ込事済4属す 8オロびすそ 8 16 TB かくしん 1 しょういん 1 しょうい 1 しょ 1 し

				アンスイン フィールド拡 張 /
				SAS 9380-8e
				のために、 空きスロット
				が1つ必要
				です。
			4.	オノションスロットの両
				方にアドオン
				カート か挿 入されてい
				る場合、イ
				シノィールト
				用するた
				め、少なくと も1つのス
				ロット、好ま
				しくはスロット3を空け
				る必要があ
			5	りまり。 アプライアン
			5.	スと拡張
				シェルフの間 では SAS 接
				続が使用さ
				れます。
			6.	孤張シェル フには RAID-
				6が搭載さ
			7	れています。
			/.	辺派シェルフにはデュア
				ル PSU が搭 載 され てい

								ます
							8.	拡張シェル フを接えし た後、拡張 ガイドの 「データパス の追加手 順」に従い ます。
							9.	新しい SSD が必要な場 合は、から しい SSD へ のハッシュ スティネ ティンの 利 の手順 に従いま す。
8300	16,20,24,28,32,36,40	8 (6x2 TBデク まは 16 TBデク まは 40 (12 TB) たは (12 TB) たけ (12 TB) たけ (12 TB) たけ (12 TB) たけ (12 TB) (480	8 TB - NA 16 TB - 560 40 TB - 790	2, 5, 6	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポー ト 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ポート 10G Copper インフィール ド拡張 (MegaRAID SAS 9380-	1.	8300 FTB、 16 TB、 16 TB、 17 張しう、 16 TB、 17 張しう、 16 TB 18 ルシ組 300 - 16 拡 フン ひシ組 300 - 16 拡 フン ひシ組 び しう、 16 TB、 18 ーをま アつ で シレ た 16 TB、 17 張しう た い で シレ た 16 TB、 18 ーをま アつ で シレ た 17 子 に の シレ た り い た 17 子 に の シレ た り い た り に の シレ た り の い た り い た り い た り の い た り い た り い の シレ う い の う い た り い の う い の う い う い ろ い う い う い の う い う い う い つ う い う い ろ い ろ い う い う い ろ い う い う い う い

					設定済みの SSD 1.9 TB が付属して
				3.	 8300には、 8300には、 オプションス ロット 2、5 およります。ア プンズ 6 が ありライアンス イ 拡 5 アンス イ ボ MegaRAID SAS 9380-8e のために、 空 あいや、 です。
	ディス ク)		8e)	4.	、オロ方カ入るン拡用めもロしトるり、プルに一さ場フ張す、1ッく2必まうのアドれ合一をる少つ、スを要すン両ドがて、ル使たなの好ロ空がス、ン、オ挿いイド
				5.	アプライアン スと拡張 シェルフの間 では SAS 接 続が使用さ

					れます。			
				6.	拡張シェル フには RAID-			
					6 (6x4 TB			
					ディスク) が			
					搭載されて			
				_				
				7.	拡張シェル フレナデュア			
					ノニュナユア ル PSU が搭			
					載されてい			
					ます。			
				8.	拡張シェル			
					フを接続し			
					た後、拡張			
					リイトの 「データパス			
					の追加手			
					順」に従い			
					ます。			
				9.	新しい SSD			
					が必要な場			
					台は、払張ガイドの「新			
					しいSSDへ			
					のハッシュデ			
					スティネー			
					ションの移			
					1丁」の于順			
					す。(アプラ			
					イアンス			
					8300を40			
					TB アブライ			
					ノンヘ加 坂 シェルフと接			
					続する場合			
					のみ、拡張			
1			1					
								シェルフでは なくベースア プライアンス に設要接が なる 来まのの2 TB SSD する に張 が が す。 詳 に で い。
------	----------------------	--	------	--	------------	--	----------------	---
8400	32,40,48,56,64,72,80	8 (Tデク まは 16KTデク まは 412TFデク まは (412TF) たは (415KT) たは (415KT)	1200	8 TB - NA 16 TB - NA 40 TB - NA	2, 5, 6	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポー ト 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ポート 10G Copper インフィール ド拡張 (MegaRAID SAS 9380- 8e)	1. 2. 3.	840はイドポすンでけルすき 8の要ん 8オロおあプイドモ 8 TB ー・ト も 拡 フるま 00 シト びまりラン拡モ 7 T またのルサークは 1 張にこす 0 D り に 3 2 6 す アイ 張たのルサーク 5 支続が 追はま に 2 6 す アイ 人 で しだ 2 5 が アスル

				MegaRAID
				SAS 9380-8e
				のために、
				空きスロット
				が1つ必要
				です。
			Л	オプションス
			ч.	
				ちにアドナノ
				カードが挿
				スキャプリ
				が進た値
				加張を使用するた
				カッシー
				t. 1 つのマ
				しいはハロノトゥを応け
				「ここ王」」
				います
				569°
			5.	アプライアン
				スと拡張
				シェルフの間
				では SAS 接
				続が使用さ
				れます。
			6.	拡張シェル
				フには RAID-
				6が搭載さ
				れています。
			7	抗張シェル
			/.	フロナデュア
				載されてい
				+x C1 C C C C C C C C C C C C C C C C C C
				の 7 °
			8.	拡張シェル

		フを接続し た後、拡張 ガイドの
		「データパス
		の追加手
		順」に従い
		ます。

同梱されている内容

箱には以下の項目が含まれています。

注: 箱の中に入っているアイテムが破損していた場合、<u>Arcserve</u>にお問い合わせ</u>ください。

■ アプライアンス拡張シェルフ

注: アプライアンス拡張シェルフの容量は、拡張シェルフで利用可能なディスクの数に依存します。



■ CVPM02 モジュール(CacheVault Power Module02) とケーブル



MegaRAID SAS 9380-8e RAID Controller



■ SAS ケーブル

2 つの SAS ケーブルは、アプライアンス拡張シェルフの MegaRaid Controller と アプライアンス サーバを接続するのに使用されます。



SSD (オプション)

注: アプライアンス 8300 の場合のみ、40 TB アプライアンス拡張に接続する 必要があり、未接続の2 TB SSD が1 つあります。

アプライアンス サーバへのアプライアンス拡張シェルフの 接続方法

以下の手順に従います。

- 1. アプライアンス拡張シェルフを準備し、アプライアンスサーバの近くに配置します。
- 2. CacheVault Power Module02 (CVPM02)を MegaRAID Controller 9380-8e に接続します。



- 3. すべての Arcserve UDP プランを一時停止します。Arcserve UDP コンソール を確認し、アプライアンスサーバ上で実行中のジョブがなく、すべてのプラ ンが一時停止していることを確認します。
- アプライアンス サーバの電 源をオフにし、電 源 装 置 から電 源 コードを抜きます。

注: システムの損傷または感電のリスクを回避するには、電源装置からコン ピュータを切断します。

5. アプライアンス サーバ シャーシのカバーを取り外します。

- 6. アプライアンス サーバの利用可能な PCI-e スロットに MegaRAID Controller 9380-8e を挿入します。
 - 以下の手順に従います。
 - a. 空いている PCI-e スロットを見つけます。
 - b. コンピュータ背面の、空の PCIe スロットと合う空のブラケット パネルを 取り外します。
 - c. ネジがある場合は、ブラケットのネジを保存します。
 - d. MegaRAID Controller 9380-8eを PCIe スロットに合わせます。
 - e. 優しくじっくり押し込み、RAID コントローラを正しくスロットに取り付けます。



- 7. MegaRAID Controller 9380-8e ブラケットをシステムのシャーシに固定します。
- 8. アプライアンス サーバ シャーシのカバーを再び取り付けます。
- 9. アプライアンス サーバの MegaRAID Controller 9380-8e と、アプライアンス拡張 シェルフの MegaRAID Controller を、SAS ケーブルで接続します。



10. SSD を挿入します(アプライアンス 8300 + 40 TB 拡張 シェルフのみ)。

注: アプライアンス 8300 に 40 TB アプライアンス拡張 シェルフを接続している 場合、アプライアンス 8300 の背面パネルの空いている SATA スロットに、2 TB SSD (アプライアンス拡張 シェルフに同梱)を追加します。



- 11. アプライアンス拡張シェルフの電源を入れます。 アプライアンス拡張シェルフ の電源コードを接続し、 アプライアンス拡張シェルフの電源を入れます。
- 12. アプライアンス サーバの電 源を入れます。 アプライアンス サーバの電 源 コードを再接続し、 アプライアンス サーバの電 源を入れます。
- 13. MegaRAID Storage Manager にログインします。アプライアンス サーバにログ インし、MegaRAID Storage Manager を開いて、管理者認証情報を使用 してログインします。

	MegaRAID	Storage Manager 15.05.01.00 - Host View	x
			Avago
Server Details			
his page displays all the servers th ou will be prompted for entering h	at were discovered. Choose ost credentials while logging	a server and click on Login to start managing that server. in.	
ise Configure Host to configure the	hosts that you want to view	N.	
Use LDAP Login 🕜	3	Enter User Name & Password	
		A	
IP Address 10.		AVago	Configure Host
Remote servers-	Server :	10.:	
Host		Use your Operating System's login username @ and password to login the MSM server	
appliance-8400	User Name:	administrator	
	Password:	••••••	
	Login Mode:	Full Access v	

14. MegaRAID Storage Manager から RAID コントローラを確認します。

以下の手順に従います。

- a. 物理または論理]タブを開くと、2 つのコントローラが一覧表示されます。
- b. コントローラ 9380-8e を選択し、コントローラ 9380-8e に接続されているすべてのディスクがオンラインで、利用可能であることを確認します。
 注:オンラインではないディスクがある場合、右クリックして 外部構成のスキャン]を選択します。

Dashboard Physical Logical	
udpu2verify	
Controller0: AVAGO MegaRAID SAS SC826P (16), Connector: Pc Solution: Controller0: Control Control	S 9380-8e (Bus 1-Dev 0-Domain 0) Disable Alarm Silence Alarm
- → Slot: 1, SAS, 1.819 TB, - → Slot: 2, SAS, 1.819 TB, - → Slot: 3, SAS, 1.819 TB,	Start Patrol Read Set Patrol Read Properties
Slot: 4, SAS, 1.819 TB,	Disable SSD Guard
Slot: 11, SSD (SATA), 2	Scan Foreign Configuration
Controller 1: AVAGO MegaRAID	Save Configuration ^ゆ Clear Configuration
 Slot: 0, SAS, 3.639 TB, Slot: 1, SAS, 3.639 TB, Slot: 2, SAS, 3.639 TB, Slot: 2, SAS, 3.639 TB, 	Set Consistency Check Properties Schedule Consistency Check
	Set Adjustable Task Rates
	Preserved Cache
	Manage Power Save Settings
	Update Controller Firmware Manage MegaRAID Advanced Software Options Manage Link Speed Save TTY Log

[mport the foreign drives (外部ドライブのインポート)]を選択し、 [DK]をクリックします。

3	Foreign Configuration Detected								
C	7 Foreign drives were detected. You must import or clear these drives before they can be used.								
	Choose an option: Import: Import logical configuration from all foreign drives. Clear: Remove logical configuration from all foreign drives. OK Cancel								

[はい]をクリックしてインポート処理を開始します。



[DK]をクリックします。

MegaRAID Storage Manager - 15.05.01.00	
Foreign Configuration was imported successfully!	100

拡張シェルフ上のすべてのディスクドライブがオンラインになります。

論理]タブには、ディスクが RAID-6 で構成されていることや、拡張シェルフ の他のモジュールについて、1 つの SSD が RAID-0 として設定されていることが 確認でき、 [SI MegaRAID SAS 9380-8e]の下に一覧表示されます。

アプライアンス サーバ 8100 + 8 TB 拡張 シェルフ アプライアンス サーバ 8200 + 16 TB 拡張 シェルフ アプライアンス サーバ 8300 + 16 TB 拡張 シェルフ



 ディスク管理]からディスクを確認します。ディスク管理]を開き、アプライアンス拡張シェルフの組み込みディスクがフォーマットされていない場合、 NTFS としてフォーマットし、「V:」などのドライブ文字を指定します。SSD がフォーマットされていない場合も、NTFS としてフォーマットし、「W:」などのドライブ文字を指定します。

法				Comp	outer Ma	nagement		
File Action View Help								
🗢 🔿 🙎 📷 📓 🐻								
Computer Management (Local	Volume	Layout	Туре	File System	Status			Capa
A System Tools	0	Simple	Basic		Healthy (Recovery Partition)		300 N
Task Scheduler		Simple	Basic		Healthy (EFI System Partition)		99 M
Event Viewer		Simple	Basic		Healthy (Recovery Partition)		76.29
Shared Folders	(C:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (Boot, Page File, Crash	Dump, Primary Partition)	155.7
Local Users and Groups	(V:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (Primary Partition)		7449.
Performance	(X:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (Primary Partition)		7218.
Device Manager	(Y:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (Primary Partition)		223.5
Storage	Rew Volume (W:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (Primary Partition)		237.8
b Windows Server Backur	<							>
	7449.88 GB Online	449.87 Gl Healthy (F	B NTFS Primary	Partition)				
	Disk 2	low Vel		la la				
	237.84 GB Online	237.84 GB Healthy (F	NTFS Primary	Partition)				
	Disk 3			1				
	7450.88 GB Online	00 MB Healthy	99 ME Health	(C:) 155.73 GB I Healthy (B	NTFS oot, Page	76.29 GB Healthy (Recovery	(X:) 7218.46 GB NTFS Healthy (Primary Partiti	on)
	Online	lealthy	Health	Healthy (B	oot, Page	Healthy (Recovery	Healthy (Primary Partiti	0

アプライアンス拡張シェルフがアプライアンス サーバに正常に接続されました。

Arcserve UDP データストアの変更方法

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- 拡張シェルフのデータパスをArcserve UDP データストアに追加する
- 新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行
- Arcserve UDP コンソールからの <data store name> データストア全体の容量 の確認
- Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再開

拡張シェルフのデータ パスを Arcserve UDP データスト アに追加する

以下の手順に従います。

- 1. 「V:\data」などのアプライアンス拡張 シェルフ上 のボリュームにフォルダを作成します。
- 2. データストアを停止し、以下のコマンドを使用して、データストアをアプライ アンス拡張シェルフに拡張します。

as_gddmgr.exe –DataPath Add <data store name> -NewDataPath <new data folder>

as_gddmgr.exe -DataPath Display <data store name>

新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行

注: この手順は、以下の拡張シェルフに新しい SSD を使用する場合にのみ、必要です。

- アプライアンス サーバ 8100 + 8 TB 拡張 シェルフ
- アプライアンス サーバ 8200 + 16 TB 拡張 シェルフ
- アプライアンス サーバ 8300 + 16 TB 拡張 シェルフ
- アプライアンス サーバ 8300 + 40 TB 拡張 シェルフ

以下の手順に従います。

- 1. 新しい SSD に、W:\Arcserve\data_store\hash などのハッシュフォルダを作成します。
- データストア < data store name> が停止していることを確認します。停止していない場合、Arcserve UDP コンソールからデータストア < data store name> を停止します。
- 3. Arcserve UDP コンソールからデータストア <data store name> を変更し、 ハッシュ デスティネーションを W:\Arcserve\data_store\hash に設定します。
- 4. データストアの変更を保存します。
- 5. Arcserve UDP コンソールからデータストア < data store name > を起動します。

Arcserve UDP コンソールからの <data store name> データストア全体の容量の確認

全体の容量は、アプライアンスサーバの容量に、アプライアンス拡張シェルフの容量を追加したものです。

Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再開

Arcserve UDP コンソールからすべての一時停止プランを再開します。

第 12 章:トラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Linux バックアップサーバにコンソールから接続できない	166
別のアプライアンスから UDP アプライアンスをバックアップすると重複するノードがレ	
<u>ボートされる</u>	167
Linux バックアップ サーバがネット ワーク DNS サフィックスを取得できない	. 169
<u>アプライアンスのデフォルトのタイムゾーン</u>	170
ライセンスがある場合でもライセンスエラーになる	171

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない

現象

Arcserve UDP コンソールから Linux バックアップ サーバに接続しようとすると、接続 に失敗して赤色のマークが表示されます。

解決策

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない場合、接続のトラブルシュー ティングを行って問題を特定することができます。

接続の問題のトラブルシューティングを行う方法

- Hyper-V マネージャを起動し、Linux バックアップ サーバの仮想マシンに接続 してログインします。
- 2. 以下のコマンドを実行します。

service network restart

3. Linux バックアップ サーバに割り当 てられている IP アドレスが 192.168.10.2 で あることを確認します。確認 するには、次のコマンドを実行します。

ifconfig

- 4. IP アドレスが 192.168.10.2 である場合は、Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップサーバノードを更新します。
- 5. IP アドレスが 192.168.10.2 でない場合は、「DHCP Microsoft 管理コンソール (MMC) からのトラブルシューティング」の手順に従います。

DHCP Microsoft 管理コンソール(MMC)からのトラブルシューティング

重要:DHCP サーバ サービスが、アプライアンス上で適切に実行されていることを確認します。

- 1. [サーバマネージャ]- [ツール]- [DHCP]から DHCP MMC を起動します。
- 2. Linux サーバノード、IPV4、スコープを展開し、192.168.10.0 という名前のス コープがその下に存在することを確認します。
- 3. アドレスのリース]を展開し、他のリースレコードの存在を削除します。
- 4. Linux バックアップ サーバにログインし、以下のコマンドを実行します。

service network restart

5. Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップ サーバノードを更新します。

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できるようになりました。

別のアプライアンスから UDP アプライアンスをバックアッ プすると重複するノードがレポートされる

現象

アプライアンス A からアプライアンス B をバックアップすると、アクティビティ ログに以下の警告メッセージが表示されます。

「次のノードが重複しています: Appliance_B、Appliance_A。その結果、同じエー ジェント識別子を持ち、予期せぬ結果が生じる可能性があります。This duplicate node problem can be caused if the node was added using a different node name (such as the DNS name or IP address), or if some machines were set up by cloning from one to another."(次のノードが重複しています: Appliance_B、 Appliance_A。その結果、これらのノードに同じエージェント識別子が指定され、 予期しない結果が生じる可能性があります。異なるノード名(DNS 名やIP アドレ スなど)を使用してノードが追加された場合や、別のマシンのクローンを作成して マシンがセットアップされた場合に、この重複ノードの問題が発生する可能性があ ります。)

ケース 1: アプライアンス B が RPS としてアプライアンス A の UDP コンソールに追加 されます。

例:アプライアンス B から、UDP ウィザードを使用してアプライアンスを設定し、 のアプライアンスは、別の Arcserve UDP コンソールによって管理される Arcserve UDP 復旧ポイントサーバのインスタンスとして機能します]を選択できます。

解決策

- 1. UDP コンソールの [RPS]ペインからアプライアンス B のノード内 のデータ ストアを 停止します。
- 2. アプライアンス B にログインし、[HKEY_LOCAL_ MACHINE\SOFTWARE\CA\ARCserve Unified Data Protection\Engine] の下 に あるノード ID のレジストリキーを削除します。
- 3. アプライアンス B のノード から Arcserve UDP エージェント Web サービスを再起 動します。
- アプライアンス B のノード から Arcserve UDP RPS データストア サービスを再起動します。
- 5. UDP コンソールから、 [ノード]- 「すべてのノード] ペインに移動して、 アプライア ンス B のノードを更新します。
- 6. 腹旧ポイントサーバ]ペインに移動して、アプライアンスBのノードを更新し ます。

7. アプライアンス B の RPS に元 のバックアップ先を設定して、既存のデータスト アをインポートします。

ケース 2: アプライアンス B がエージェント ノード としてのみ、アプライアンス A の UDP コンソールに追加されます。

たとえば、あるプランでは、アプライアンス A の UDP コンソール上 にあるエージェント ベースのバックアップ タスクを使 用してアプライアンス B を保護します。

- 1. アプライアンス B にログインし、[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve Unified Data Protection\Engine] の下 にあるノード ID のレジストリキーを削除 します。
- 2. アプライアンス B から Arcserve UDP エージェント サービスを再起動します。

Linux バックアップ サーバがネット ワーク DNS サフィックス を取得できない

アプライアンス サーバに静的 IP アドレスを設定した場合、ネットワーク サービスを 再起動した後に Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを正しく取 得できません。この問題によって、Linux バックアップ サーバと UDP コンソールの間の 通信に問題が発生します。通信の問題により、この Linux バックアップ サーバを使 用して Linux ノードを保護することができなくなります。

現象

Linux バックアップ サーバのステータスが、UDP コンソール上 で切断状態のままになります。 「ノードの更新]を実行しても Linux バックアップ サーバは正常に更新されず、黄色の警告 アイコンは緑色に変化しません。この問題は、アプライアンス サーバに静的 IP アドレスを設定した場合に、Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを正しく取得できないために発生します。

解決策

この問題を解決するには、Linux マシンの file/etc/resolv.conf を直接更新して正しい DNS サフィックスを追加します。

アプライアンスのデフォルト のタイム ゾーン

現象

デフォルトのタイム ゾーンが、最初にアプライアンスの電源をオンにしたときに選択した地域に関係なく、(UTC-08:00)太平洋時間(米国およびカナダ)になります。

解決策

この問題を解決するには、Arcserve Backup アプライアンス ウィザードで 編集]-旧付と時間]をクリックして、タイムゾーンを変更します。

ライセンスがある場合でもライセンスエラーになる

ライセンスがある場合でもアプライアンスで発生するライセンス関連のエラーの詳細 については、<u>リンク</u>を参照してください。

第13章:推奨事項

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>ネットワーク構成に関する推奨事項</u>	173
<u>Arcserve UDP コンソールの移行に関する推奨事項</u>	. 176
<u>データを保持しないベアメタル復旧(BMR)に関する推奨事項</u>	.178
<u>データを保持するベアメタル復旧(BMR)に関する推奨事項</u>	. 193
 Linux移行ツールに関する推奨事項	. 201
アプライアンスイメージ設定ユーティリティツールを設定するための推奨事項	. 203
Arcserve UDP アプライアンスに事前インストールされている Linux バックアップサーバ に関する推奨事項	.206
Arcserve UDP アプライアンスに Linux のバックアップ サーバ自体をバックアップさせるための推奨事項	.208
Arcserve UDP アプライアンスからアプライアンスへの移行の推奨事項	. 212
解決策 1	. 213
解決策 2	217
ローカルアプライアンス Hyper-V に対する Arcserve UDP Linux インスタント VM ジョブの推奨事項	. 220
リ モートで管理される RPS ヘレプリケート タスクを別のアプライアンスに追加するベス トプラクティス	221
モニタが別のアプライアンスである仮想スタンバイ(VSB)タスクを実行するベストプラ クティス	.223

ネットワーク構成に関する推奨事項

- 複数のネットワークインターフェースを実稼働環境で接続する場合は、各ネットワークアダプタが異なるサブネットワークに接続されていることを確認します。
- 保護する実稼働環境でLinux ノードが利用できない場合は、アプライアンス上のVM Linux-BackupSvr、DHCP サーバサービスおよび RRAS を無効化することをお勧めします。

詳細については、アプライアンス ユーザ ガイドの「<u>DHCP サーバを無効にする</u> 方法」を参照してください。

アプライアンスとエージェント ノードがネットワーク上でオンラインのときに、アプライアンスとエージェント ノード間の接続の問題が発生した場合。アプライアンスで同じサブネットワークに接続されたネットワークインターフェースが複数ある場合、問題が発生します。

現象

アプライアンスとエージェント ノードの両方が同じサブネットワークでオンラインの場合以下の事象が発生することがあります。

◆ Arcserve UDP コンソールで、エージェント ノード にプランを展開 すると、
 以下のエラーメッセージが表示されます。



◆ 以下のようにエージェントノードのバックアップジョブが失敗します。

0	12/25/ Local Site	10.57.52.13	10.57.52.13	26	Backup	Point Server appliatest76. Verify that server name, port number, and protocol (http:/https) inputs are all correct and the web service is started on the specified host. For other reasons, see Troubleshooting	
-						in the User Guide.	

◆ アプライアンスからエージェント ノードに ping を送信し、次のようにエージェント ノードが接続されているかどうかを確認します。

C:¥Users¥Administrator> ping 10.57.52.13

10.57.52.13 に ping を送信しています 32 バイトのデータ: 10.57.52.13 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.13 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.13 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.13 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128

 ・エージェント ノードから ping アプライアンス ホスト名を実施し、アプライアンスは以下のように接続されていません。

C:¥Users¥Administrator>ping appliatest76 appliatest76 [10.57.52.47]に ping を送信しています 32 バイトのデータ: 要求がタイムアウトしました。 要求がタイムアウトしました。 要求がタイムアウトしました。 認識がタイムアウトしました。 10.57.52.47 の ping 統計: パケット数:送信 = 4、受信 = 0、損失 = 4(100% の損失)、

解決策

アプライアンスとエージェント ノードの間の接続の問題を解決するには、以下の手順のいずれかを実行します。

 ◆ 実稼働環境でLinux ノードが利用できない場合、アプライアンス上の DHCP サーバサービスおよび RRAS サービスを停止し、問題が解決されるかどうかを確認します。

詳細については、アプライアンスユーザガイドの「<u>DHCP サーバを無効</u> <u>にする方法</u>」を参照してください。

◆ アプライアンスおよびエージェント ノードで、以下の手順を実行します。

アプライアンスで実行する手順

- 1. DOS コマンド プロンプトから *ipconfig/all* を実行し、アプライアン ス上で利用可能な IPv4 アドレスを取得します。
- DOS コマンド プロンプトから Route Print を実行し、IPv4 ルート テーブルを取得し、以下のように、アプライアンス上で利用可

IPv4 ルート テーブル	, 			
アクティブ ルート: ネットワーク宛先 フーマトロック	ネットマスク	ゲートウュ	エイ インタ	-711
0.0.0.0 0.0.0.0 0.0.0.0 0.0.0.0	0.0.0.0 0.0.0.0 0.0.0.0	10.57.52.1 10.57.52.1 10.57.52.1	10.57.52.46 10.57.52.35 10.57.52.45	10 10 10
0.0.0.0 10.57.52.0 10.57.52.0 10.57.52.0 10.57.52.0	0.0.0.0 255.255.255.0 255.255.255.0 255.255.255.0	10.57.52.1 リンク上 リンク上 リンク上 リンク上	10.57.52.47 10.57.52.4 10.57.52.4 10.57.52.4 10.57.52.4	10 16 266 35 266 15 266

能なすべての IPv4 アドレスの順番のリストを記録します。

エージェントノードで実行する手順

 DOS コマンド プロンプトから、次のように、エージェント ノードに 接続しているアプライアンスの最初の IPv4 を取得するため、 上記の順序に従って、アプライアンスの利用可能な各 IPv4 ア ドレスに ping を送信してみます。

C:¥Users¥Administrator>ping 10.57.52.46 10.57.52.46 に ping を送信しています 32 バイトのデータ: 10.57.52.46 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.46 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.46 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.46 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128

2. ファイル C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts を編集し、上 記で取得した IPv4 アプライアンスホスト名ペアのレコードを追加して、ファイルを保存します。

Arcserve UDP コンソールの移行に関する推奨事項

Arcserve UDP アプライアンスでは、Console Migration.exe を使用して、Arcserve UDP コンソールを別のアプライアンスに移行することができます。Arcserve UDP v6.5 Update 2 以降では、アプライアンスに属していない場合でも、任意の2つの Arcserve UDP コンソールの間で Arcserve UDP コンソールを移行できます。

BackupDB および RecoverDB 用の Console Migration.exe を使用します。以下のスクリーンショットは、Console Migration.exe の使用方法を示しています。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance>Conso
leMigration.exe
Usage: ConsoleMigration.exe <-BackupDB¦-RecoverDB>
-BackupDB: Backup UDP Console database Arcserve_APP
-RecoverDB: Recover UDP Console database Arcserve_APP
```

移行プロセスを完了するには、以下の手順を実行します。

1. 古い Arcserve UDP コンソールで、Arcserve UDP データベースのバックアップ を実行します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance>ConsoleMigration.exe -BackupDB

Backed up DB and version files completed.

DB and version files were created at "C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\DB Migration".

[DB_Migration]フォルダが正常に作成します。

- 2. 新しい Arcserve UDP コンソールで、 *DB_Migration*]フォルダを次のパスに コピーします。
- <UDP_Home> \Management\BIN\Appliance \
- 3. 新しい Arcserve UDP コンソールが Arcserve UDP アプライアンスの場合、ホ スト名を変更してシステムを再起動し、アプライアンスウィザードを使用し てアプライアンス設定を終了します。

注: Arcserve UDP コンソールが Arcserve UDP アプライアンスではない場合、 この手順をスキップします。

4. 新しい Arcserve UDP コンソールで、以下の画面に示される手順を実行して、Arcserve UDPコンソールデータベースを復旧させます。データベースのリカバリプロセスが完了したら、新しい Arcserve UDP コンソールのノードが更

新されます。ノードの更新に失敗した場合は、C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\DB_ Migration\logs パスの下にある DisconnectedNodesInfo-<mm-dd-yyyy>.txt ファイルに切断されたノードが記録されます。切断されているノードは新し い Arcserve UDP コンソールから手動で更新できます。

:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance>ConsoleMigration.exe RecoverDB

Are you sure you want to recover the backup DB file? <y/n>: y

Stopping Arcserve UDP management service, please wait...

Recovering backup DB file...

Updating nodes, please wait...

Please update nodes manually from UDP console, if you still encounter disconnected nodes.

The disconnected nodes(if exist) will be saved at "C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protec tion\Management\BIN\Appliance\DB_Migration\logs".

Console migration completed. Console use DB "localhost\ARCSERVE_APP".

注: Arcserve UDP コンソールで、ローカル サイト 以外のサイトが存在する場合、NewRegistrationText.txt ファイルに記載されている手順に従い、サイトを 再登録します。

新しい Arcserve UDP コンソールへの Arcserve UDP コンソールの移行が正常に完了しました。

このツールを使用して、リモート SQL データベースと接続している Arcserve UDP コン ソールについて、コンソール移行を実行することができます。移行が完了すると、 移行された Arcserve UDP コンソールは同じリモート SQL データベースに接続される ように設定されます。

注: Arcserve UDP v6.5 Update 4 では、ConsoleMigration.exe コマンドに-force オプ ションが導入されました。このオプションを使用すると、以下の条件で、復旧用 バックアップデータベースファイルのターゲットコンソールへの移行が強制されます。

- 1. ソースコンソールで SQL Server Enterprise エディションを使用しており、ター ゲット コンソールで SQL Server Express エディションを使用している 2 つのコ ンソール間で、コンソールの移行を実行する必要がある場合。この場合、 ソース UDP コンソールで必要なデータベースの最小サイズは 4000 MB で す。
- 2. SQL Server データベースの新しいバージョンを使用するコンソールから SQL Server データベースの古いバージョンを使用するコンソールへコンソールの 移行を実行する必要がある場合。たとえば、SQL Server 2016を使用す るコンソールから SQL Server 2014を使用するコンソールへの移行です。

データを保持しないベアメタル復旧(BMR)に関する推 奨事項

Arcserve UDP アプライアンス上で、Arcserve UDP ブートキットを使用してベアメタル 復旧を実行できます。

以下の手順に従います。

 アプライアンスで Arcserve UDP ブートキット ウィザードを実行し、x64 プラット フォームでブート可能な BMR ISO イメージまたは USB スティックを生成します。

注: ISO イメージにはローカルドライバを含める必要があります。ローカルド ライバを含めるには、「ベアメタル復旧用のブートキットの作成]ウィンドウで 「ローカルドライバを含む]オプションを選択します。 ブート キットの作成方法 の詳細については、このリンクを参照してください。

Create Boot Kit for Bare Metal Recovery

Specify Drivers

Manufacturer	Version	Platform	Path
Intel	12/08/2016, 12.14.7.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem43.inf
Intel	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem9.inf
MS HDC, INTEL HDC	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf
LSI	03/06/2015, 6.707.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem8.inf
INTEL	08/19/2016, 10.1.2.80	x64	C:\WINDOWS\INF\oem45.inf
AMD.Section, ACER.S	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbport.inf
INTEL	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem47.inf
GENDEV_SYS, ACC	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\machine.inf
Generic	10/08/2017, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbxhci.inf
			>
			1

 BMR ISO イメージまたは USB スティックを使用して Arcserve UDP アプライア ンスを起動します。

Arcserve ベアメタル復旧のセットアップ画面が表示されます。

3. 必要な言語を選択して、 次へ]をクリックします。

 \times

arcse	erve	bare metal recovery	/
	English		
	Keyboard Layout:		
	US	~	
		Next	

4. [Arcserve Unified Data Protection のバックアップからのリストア]オプション を選択し、 次へ]をクリックします。

arc	Serve bare metal recovery
Bare Metal R - <i>Select the</i>	icovery(BMR) etype of backup for BMR
	Select type of restore source:
	Restore from a Arcserve Unified Data Protection backup Use this option to perform a restore from either a backup destination folder or a data store.
	O Recover from a virtual machine
	Use this option to perform a virtual-to-physical (V2P) restore from a virtual machine created by Virtual Standby or Instant VM
	O Source is on a VMware machine
	O Source is on a Hyper-v machine

復旧ポイントの選択]ウィザードのウィンドウが表示されます。

5. **診照**]をクリックして、**腹旧ポイントサーバから参照**]を選択します。

Backed up Information Host Name: Operating System: DNS Suffic: Source:	
Befresh Browse Browse from network/local path Browse from Recovery Point Server	
	Coperating System: DNS Suffix: Source: Browse from network/local path Browse from Recovery Point Server

[ノードの選択]ウィンドウが表示されます。

- 6. 復旧ポイント サーバのホスト名、ユーザ名、パスワード、ポート、およびプロ トコルを入力します。
- 7. 接続]をクリックします。
- 8. 接続が確立されたら、 [OK] をクリックします。
| Name: | appliance7501 V | | Port: | 8014 | |
|------------|-----------------|-----------------------|-------------|-----------------------------|-------------|
| lser Name: | administrator | | Protocol: | Онттр | HTTPS |
| assword: | ••••• | | | Connect | |
| | | DNS Suffix
Node ID | arcs
095 | erve.com
1fd5c-3dd2-4968 | -be64-5eaef |
| | | | | | |

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧ポイントの選択]ダイアログボックスが表示 されます。

9. リストアする復旧ポイントを選択して、 次へ]をクリックします。

- Select a Recovery Point	The following backed up machines are detect	ted:	
he top pane displays all backed up machines and		Backed up Information	
her backup destinations. If you click on a achine, you can then see the associated covery points on the bottom pane. Select a	appliance7205	Host Name:	appliance7205
ote: By default, only the backed up machines		Operating System:	Windows Server 2016 X64
ere. After a new removable disk is attached or etached, you can click "Refresh" the machine list. Jou can also click "Browse" to add any backed up		DNS Suffix:	arcserve.com
achines from the remote shared folder or the ata store.		Source:	Recovery Point Server
you fail to browse the remote shared folder, it ay be because the NIC driver is not installed or a TB adfrase is incorrect. If necessary, you can			Refrech Browce
arform the following: ick here to launch the load driver utility ick here to launch the network configuration			
iity	The following recovery points are detected fi	or the specified machine. Select a recovery point a	and continue:
âity	The following recovery points are detected f	or the specified machine. Select a recovery point a AR Status: -	and continue:
tity	The following recovery points are detected f	or the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Badoup	and continue:
lity	The following recovery points are detected f	or the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Backup Backup Destination (Det - Recovery Point Server dat - Node ID: 055165-362-4	and continue: acted from current system): kance7501 store: applance7501_data_store 68-be64-seafeeb079d
ility	The following recovery points are detected f	or the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Backup Backup Destination (Dette - Recovery Point Server: app - Recovery Point Server: data - Node ID: 0951fdSc:3dd2-45 Backup Description:	and continue: ected from current system): lance7501 store: applance7501_data_store 68-be64-Seaefeeb079d
Network Adapter(s) Detected Tel(R) 1350 Gigabit Network Connection -IP Address: 10.57.25.21	The following recovery points are detected f	or the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Backup Backup Destination (Dete - Recovery Point Server: app - Recovery Point Server: data - Node ID: 0951fdSc:3dd2-4t Backup Description: - Boot Firmware: - UEFI	and continue: ected from current system): lance7501 store: applance7501_data_store 680-be64-Seaefeeb079d
Network Adapter(s) Detected ^ tel(R) 1350 Gigabit Network Connection -P Address: 10.57.25.21 - Status: Connected - tel(R) 1350 Gigabit Network Connection #2 - - P Address: -0.0.0 -	The following recovery points are detected f	or the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Backup Backup Destination (Dett - Recovery Point Server: app - Recovery Point Server: dat - Node ID: 0951fd5c-3dd2-4f Backup Description: - Boot Firmware: - UEFI Backed up Volumes (Used <	and continue: acted from current system): lance7501 store: applance7501_data_store 680-be64-Seaefeeb079d d Size/Total Size/Minimum Size Required): >

10. (オプション)要求された場合はセッションパスワードを入力し、 [DK]をクリックします。

ter Session Password	
•	ок
Current password length: 1 characters	Cancel

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧モードの選択]ダイアログボックスが表示されます。

11. 拡張モード]を選択し、 次へ]をクリックします。

Which recovery mode do you want to use?		
O Express Mode		
The express mode will recover the system automatically with minimal user interaction by using the machine default settings.		
Advanced Mode		
The advanced mode will assist you in customizing the restore process. Using this mode you will be able to:		

[**ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整**]ダイアログ ボックス が表示されます。

12. 使用可能な最大のGUID パーティション テーブル(GPT) ディスクを右クリックし、 **ディスクの消去**]をクリックします。

Bare Metal Recovery(BMR) - Adjust Disk Partitions	Current Destination D	Disk/Volume Layouts	Qperations 🔻
You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume. After selecting a disk/volume, you can then right-click the mouse button, and display the corresponding operation options.	 /bitk 8/cs/f/// /1997/59 Disk 1 (M 447.13 (Reset Commit Map Disk From	V V V rstem Partiti C:\ (155.73 GB) \\?\Volume(4dd 1 (18394.96 GB) (447.13 GB) (447.13 GB) (18394.96 GB) (18394.96 GB)
Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow keys, then press the Menu key to display the menu. The disk/with me channes you make will not	— Disk 2 (* 447.1. (Clean Disk	(447.13 GB)
take get into effect until you select "Commit" from the Operations menu or cick "Next" to commit all changes.		Convert to GPT Convert to Basic Convert to Dynamic	
	Original Source	Online Disk Disk Properties	
	 Disk 0 (MBR) 111.79 GB 		Y:\ (111.79 GB)
	 Disk 1 (GPT) 7451.00 GB 	\\?\Volume(791b()) EF	1 System Partiti () C:\ (155.73 GB) () \\?\Volume(4dd 1() X:\ (7218.46 GB) ()

13. ディスクを消去した後、同じディスクを右クリックして コミット]をクリックします。

Bare Metal Recovery(BMR) Adjust Disk Partitions	Current Destination D	iisk/Volume Layouts	Qperations -
You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume.		Reset	(18627.37 GB)
After selecting a disk/volume, you can then right-click the mouse button, and display the corresponding operation options.	 Disk 1 (ME 447.13 G 	Commit	(447.13 GB)
Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume	 Disk 2 (MB 447.13 GE 	Map Disk From"	(447.13 GB)
with 1 As and Arrow keys, men press the Menu key to display the menu. The disk/volume changes you make will not take get into effect until you select "Commit" from the Operations menu or click "Next" to commit all dwange		Convert to MBR Convert to GPT	
comme un cinerges.		Convert to Basic Convert to Dynamic	
	Original Source Di	Online Disk	
	Disk 0 (MBk) 111.79 GB	Disk Properties	Y:\ (111.79 GB)
	 Disk 1 (GPT) 7451.00 GB 	\\?\Volume(791b) EFI Syste	m Partiti

ディスク変更のサブミット]ウィンドウが表示されます。

14. [サブミット]をクリックします。

Operation	Details
Delete Volume	Volume Path[\\?\Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\
Delete Volume	Volume Path[\\?\Volume{821d05a8-3ecd-436f-a497-cc04fb3e4708}\
Delete Volume	Volume Path[C:\]
Delete Volume	Volume Path[F:\]
Delete Volume	Volume Path[D:\]
🕖 Clean Disk	Clean Disk [0]

15. ディスクの消去が完了したら、 [OK]をクリックします。

Operation	Details
Delete Volume	Volume Path[\\?\Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\
Delete Volume	Volume Path[\\?\Volume{821d05a8-3ecd-436f-a497-cc04fb3e4708}\
Delete Volume	Volume Path[C:\]
Delete Volume	Volume Path[F:\]
Delete Volume	Volume Path[D:\]
Clean Disk	Clean Disk [0]

16. 「**ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整**]ダイアログ ボック スで **戻る**]をクリックします。

Bare Metal Recovery(BMR) - Adjust Disk Partitions	Current Destination Disk/Volu	Qperations
You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume.		(18627.37 G8)
After selecting a disk/volume, you can then right-click the mouse button, and display the corresponding operation options.	 Disk 1 (MBR) 447.13 GB 	(447.13 GB)
Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow kers, then press the Menu key to display the menu. The disk/volume changes you make will not take get into effect until you select "Commit" from the Operations menu or click "Next" to commit all changes.	 Disk 2 (MBR) 447.13 GB 	(447.13 GB)
	Original Source Disk/Volume I Disk 0 (MBR) 111.79 GB	Layouts Y. (111.79 G8)
	— Disk 1 (GPT) 7451.00 GB	المراجع المراجع المراجع المراجع
	Unallocated Prima	ny
▲ Utilities	×	Back Next Abort

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧モードの選択]ダイアログボックスが表示されます。

17. **高速モード**]を選択し、次へ]をクリックします。

Which recovery mode do you want to use?	
Express Mode The express mode will recover the system automatically with minimal user interaction by using the machine default settings.	
Advanced Mode The advanced mode will assist you in customizing the restore process. Using this mode you will be able to: Select where to restore data on basic volumes or dynamic disks. Insert device driver before reboot.	
Note: After clicking Next, the BMR Wizard will create new partitions on the destination machine to match the existing partitions on the source machine. This may destroy any existing not matchine and reader new news.	

BMR]ダイアログボックスが表示されます。

18. 【はい】をクリックします。

BMR			83
?	The next step may result in complete you want to continue?	e loss of data on the	machine. Do
	ß	Yes	No

リストア設定のサマリ」ダイアログボックスが表示されます。

19. [キャンセル]をクリックします。

Source Disk Dest	nation Disk
ummary of Volume Restore Settings:	Destination Volume
0 \\2\\/okume/701b0915-1396-498d-8dfb-1f=02703003f\\ (300	MB) \\2c06aa5e0_adb9_4840_8b15_20
FEI System Partition (99 MB)	()?/Volume (e3db 4483-19ad-4550-8e0e-06)
C:\(155.73 GB)	\\?257b3c2a-9cf1-44a0-a8b3-225
$() \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \$	9 GB) \\?98fb5326-630f-4842-82fa-48b
¢	3
	to adjust sectors actifican manually, while Garant

[ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整]ダイアログボックスが表示されます。

20. **現在のデスティネーション ディスク/ボリュームのレイアウト**]タブで使用可能な最初の4 つのパーティションの容量が、 **元のソース ディスク/ボリュームのレイアウト**]タブで使用可能な最大のGPT ディスクとー 致するかどうかを比較して確認し、**次へ**]をクリックします。

注: パーティションのサイズを表示するには、ディスクの上にマウスカーソルを移動させて、ディスクプロパティを表示します。

- Adjust Disk Partitions	Current Destination Disk/Nolume Layouts	Operation
You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume.	Disk 0 (GP7) Disk 0 (GP7) Disk 0 (GP7) B627.50 GB U17.Volume(791b EFI System Partiti C:\ (155.73 GB) U17.Volume(4dd 1	(18394.96 GB)
After selecting a disk/volume, you can then right-click the mouse button, and display the corresponding operation options.	Disk 1 (MBR) Destination Volume: \\?\Volume(03331745-9734-4066-bd25-693087d5826b)\ File System Type: RAW	
Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow keys, then press the Menu key to display the menu. The disk/volume chances you make will not	Disk 2 (MBR) Data on this volume will be restored from original volume '\\?\Volume(791b091. 8dfb-1fa02793003f)\'.	5-1396-4e8d-
take get into effect until you select "Commit" from the Operations menu or click "Next" to commit all changes.	Original Source Disk/Volume Layouts	
	Disk 0 (MBR) 111.79 GB Y:\ (111.79 GB)	///////////////////////////////////////
	Disk 1 (GP7) 7451.00 GB 1\7\Volume(791b) EFI System Partiti) C:\ (155.73 GB) 1\7\Volume(4dd 1)	X:\ (7218.46 GE
	Unallocated Primary	

[リストア設定のサマリ]ダイアログボックスが表示されます。

21. **[DK**]をクリックします。

iummary of Volume Restore Settings: Source Volume Destination Volume	Source Disk	Destination Disk
	ummary of Volume Restore Settings:	Destination Volume
N2\Volume(791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\ (300 MB) \\2\Volume(03331745-9734-4066-bd25-6	V2\Volume {791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa0279300	13f}\ (300 MB) \\203331745-9734-4066-bd25-69
EFI System Partition (99 MB) //?/Volume{b9994f56-8c58-4bbf-bd7a-85	EFI System Partition (99 MB)	\\?b9994f56-8c58-4bbf-bd7a-85a
C:\(155.73 GB) \\?496da605-7066-442c-8ea2-c.	C:\(155.73 GB)	\\?496da605-7066-442c-8ea2-c3
() \\?\Volume{4dd1123f-0464-4cd6-9df0-1ab9b95c8901}\ (76.29 GB) \\?59eaea46-103c-45e3-b0ed-5	\\?4dd1123f-0464-4cd6-9df0-1ab9b95c89	01}\(76.29 GB) \\?59eaea46-103c-45e3-b0ed-55
4		

Bare Metal Recovery(BMR)- Start Recovery Process (ベアメタル復旧 (BMR) - 復旧プロセスの開始)]ダイアログボックスが表示されます。

22. **再起動後にエージェント サービスを自動的に開始しない**]オプションをオフにして、リストアの完了を待ちます。

Bare Metal Recovery(BMR) - Start Restore Process	Summary of Restore Settings				
- Start Restore Process This page displays a summary of the disk/volume restore settings that you have made. Note: After the BMR process is complete and server has been rebooted, you may not want to perform backup gobs from this server. If you are just testing the BMR functionality, we recommend that you select this option, you can manually start the Agent service (and the Recovery Point Server service, if installed) after reboot if you want to perform backup jobs. Enable Windows F8 boot option helps user perform further recovery or troubleshooting after BMR. For example. urges F8 and boot into Active.	Restore Item Restore source volume '\/P\Volum Restore source volume ''\/P\Volum Restore source volume ''\/P\Volum Restore source volume '\/P\Volum	e(791b0915-1396-4e8d-&dfb-1fa02793003f)'(m Partition' to current destination disk 0 rrent destination disk 0 e(4dd1123f-0464-4cd6-9dfD-1ab9b95c8901)'(Status Completed Completed Restoring Not Started	Progress 100.0% 100.0% 0.8%	Throughput 367.44 MB/Minute 967.90 MB/Minute 2705.50 MB/Minute
Directory authoritative restore.	Automatically reboot your system of Do not start Agent service automa Boot the system to Advanced Boot	after recovery. bcally after reboot. Options (F8) Menu on the next boot for Windows	8 / Windows Serv	er 2012 and later	05.
	Elapsed Time:	00:00:24			
	Estimated Time Remaining:	01:30:50			
	[0.8%] [576MB/76631MB] Restoring [asic source volume 'C:\' to current destination dis	c 0		
▲ <u>U</u> tilities			<u>B</u> ack	Ne	Abort

[ベアメタル復旧(BMR) - デバイスドライバのインストール]ダイアログ ボック スが表示されます。

23. RAID コントローラで必要なドライバを選択し、 次へ]をクリックします。

e	Property Description
	Vendor Manufacturer AvagoTech Class SCSIAdapter Driver Description AVAGO MegaRAID SAS Adapter Hardware ID PCI (VEN_10008DEV_005D8SUBSY
Available Driver(s):	Property Description Version 03/02/2015, 6.706.06.00 Marufacture LSI, DELL Class SCSIAdapter Service megasas INF Path C: (WINDOWS)System 32)driverStore (FileRepository)megasas.inf
Insert Driver	< >
	Available Driver(s):

再起動]ポップアップウィンドウが表示され、Arcserve UDP アプライアンスは自動的に再起動されます。

Click Report to automatically reboot your system at this time. If you want to collect all BMR log files you can use the Activity log utility. <u>Click here</u> to launch the Activity Log utility.

		C 1	
	Keboot	Cancel	
4			

BMRの処理が正常に完了しました。

データを保持するベアメタル復旧(BMR)に関する推 奨事項

Arcserve UDP アプライアンス上で、Arcserve UDP ブート キットを使用してベアメタル 復旧を実行できます。

以下の手順に従います。

 アプライアンスで Arcserve UDP ブートキット ウィザードを実行し、x64 プラット フォームでブート可能な BMR ISO イメージまたは USB スティックを生成します。

注: ISO イメージにはローカルドライバを含める必要があります。ローカルド ライバを含めるには、「ベアメタル復旧用のブートキットの作成] ウィンドウで 「ローカルドライバを含む] オプションを選択します。 ブートキットの作成方法 の詳細については、このリンクを参照してください。

pi	rocess is launched.			
	Manufacturer	Version	Platform	Path
	Intel	12/08/2016, 12.14.7.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem43.inf
	Intel	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem9.inf
	MS_HDC, INTEL_HDC	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf
	LSI	03/06/2015, 6.707.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem8.inf
	INTEL	08/19/2016, 10.1.2.80	x64	C:\WINDOWS\INF\oem45.inf
	AMD.Section, ACER.S	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbport.inf
	INTEL	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem47.inf
	GENDEV_SYS, ACC	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\machine.inf
	Generic	10/08/2017, 10.0.14	x64	C:\WINDUWS\INF\usbxhci.inf

2. BMR ISO イメージまたは USB スティックを使 用して Arcserve UDP アプライア ンスを起動します。

Arcserve ベアメタル復旧のセットアップ画面が表示されます。

3. 必要な言語を選択して、 次へ]をクリックします。

arcse	erve	bare metal recovery
	English	
	Keyboard Layout:	
	US	~
		Next

4. [Arcserve Unified Data Protection のバックアップからのリストア]オプション を選択し、 次へ]をクリックします。

Bare Metal R - Select the	Lecovery(BMR) e type of backup for BMR
	Select type of restore source:
	Restore from a Arcserve Unified Data Protection backup Use this option to perform a restore from either a backup destination folder or a data store.
	Recover from a virtual machine Use this option to perform a virtual-to-physical (V2P) restore from a virtual machine created by Virtual Standby or Instant VM
	Source is on a VMware machine
復旧ポ	\bigcirc Source is on a Hyper-v machine イントの選択 つけんザードのウィンドウが表示されます。

5. 参照]をクリックして、 復旧ポイント サーバから参照]を選択します。

- Select a Recovery Point	The following backed up machines are detected:			
The top pane displays all backed up machines and their backup destinations. If you click on a machine, you can then see the associated recovery points on the bottom pane. Select a recovery point to continue. Note: By default, only the backed up machines final are detected from local volumes are listed hait are detected from local volumes are listed hait are detected from local volumes are listed factached, you can click 'Refeas'' the mittyine list. You can also click 'Browse'' to add any baland up machines from the remote shared folder or the data store.		Backed up Information Host Name: Operating System: DNS Suffix: Source:		
If you fail to browse the remote shared folder, it may be because the NIC driver is not installed or the IP address is incorrect. If necessary, you can perform the following: Cick base to launch the load driver utility.		<u>R</u> efre	sh Browse from netwo	Bro <u>w</u> se
utery	The following recovery points are detected for the specifi	ed machine. Select a recovery point ai	browse from necov	rery Point Server
	The following recovery points are detected for the specifi	ed machine. Select a recovery point al.	provise from necos	ery Point Server
6 Network Adapter(s) Detected	The following recovery points are detected for the specifi	ed machine. Select a recovery point al.	aronye (rom necor	ery Point Server
6 Network Adapter(s) Detected Intel(R) 1330 Ggabit Network Connection - IP Address: 10.57.25.21 - Status: Connected Intel(R) 1350 Ggabit Network Connection ≠2 - IP Address: 0.0.0.0 - Status: Connected - V Address: 0.0.0.0 - V - V Address: 0.0.0.0 - V Address: 0.0.0.0 - V - V - V - V - V - V - V - V - V - V	The following recovery points are detected for the specific terms of terms	ed machine. Select a recovery point al		ery Point Server
6 Network Adapter(s) Detected ∧ Intel(R) 1350 Ggabit Network Connection - IP Address: 10.57.52.21 - Status: Connected Intel(R) 1350 Ggabit Network Connection ≠2 - IP Address: 0.0.0.0 - Status: Disconnected v	The following recovery points are detected for the specific terms of terms	ed machine. Select a recovery point al		ery Point Server

[ノードの選択]ウィンドウが表示されます。

- 6. 復旧ポイント サーバのホスト名、ユーザ名、パスワード、ポート、およびプロ トコルを入力します。
- 7. 接続]をクリックします。
- 8. 接続が確立されたら、 [OK]をクリックします。

Name:	appliance7501	~	Port: 80	3014	
lser Name:	administrator		Protocol:		
assword:	•••••			Connect	
		DNS Suffix Node ID	arcs 095	erve.com 1fd5c-3dd2-4968-be64-5eaef.	

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧ポイントの選択]ダイアログボックスが表示 されます。

9. リストアする復旧ポイントを選択して、 次へ]をクリックします。

Bare Metal Recovery(BMR) - Select a Recovery Point	The following backed up machines are detec	ted:		
The top pane displays all backed up machines and their backup destinations. If you click on a	appliance 7205	Backed up Information		
achine, you can then see the associated ecovery points on the bottom pane. Select a		Host Name:	appliance7205	
ote: By default, only the backed up machines		Operating System:	Windows Server 2016	5 X64
at are detected from local volumes are issed ere. After a new removable disk is attached or etached, you can cick "Refresh" the machine list. ou can also cick "Browse" to add any backed up		DNS Suffix:	arcserve.com	59
achines from the remote shared folder or the lata store.		Source:	Recovery Point Serve	r.
you fail to browse the remote shared folder, it iay be because the NIC driver is not installed or			Refeast	Preuse
erform the following: lick here to launch the load driver utility			Wellesn	browse
<u>lick here</u> to launch the network configuration tility	The following recovery points are detected f	or the specified machine. Select a recovery point a	and continue:	
	5/28/2018	AR Status:		^
	2:41:41 AM	Backup Type: - Incremental Backup		
	(a) (c) (c) <td>Backup Destination (Deta - Recovery Point Server: app - Recovery Point Server data - Node ID: 0951fd5c-3dd2-46</td> <td>ected from current system liance7501 store: appliance7501_data_st 068-be64-5eaefeeb079d</td> <td>): ore</td>	Backup Destination (Deta - Recovery Point Server: app - Recovery Point Server data - Node ID: 0951fd5c-3dd2-46	ected from current system liance7501 store: appliance7501_data_st 068-be64-5eaefeeb079d): ore
Natural Adaptar(s) Datastad		Backup Description:		
network Adapter(s) betected				
- IP Address: 10.57.25.21		Boot Firmware: - UEFI		
tel(R) I350 Gigabit Network Connection #2 - IP Address: 0.0.0.0 - Status: Disconnected		Backed up Volumes (Used <	f Size/Total Size/Minimum	Size Required): >
A 10/07				mmmil

10. (オプション)要求された場合はセッションパスワードを入力し、 [DK]をクリックします。

ter Session Password	
•	ок
Current password length: 1 characters	Cancel

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧モードの選択]ダイアログボックスが表示されます。

11. **拡張モード**]を選択し、 次へ]をクリックします。

Which recovery mode do you want to use?		
○ Express Mode		
The express mode will recover the system automatically with minimal user interaction by usi machine default settings.	ng the	
Advanced Mode		
The advanced mode will assist you in customizing the restore process. Using this mode you table to: Select where the restore data on basic you may or dynamic risks	vil be	

12. 「**ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整**]ダイアログ ボック スで [**次へ**]をクリックします。

You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore	💻 Disk 0 (GPT)			
destination disk/volume. After selecting a disk/volume, you can then right- dick the mouse button, and display the corresponding operating options.	18616.32 GB Disk 1 (MBR) 223.57 GB	(1/1/Volume(7910 Err System Partitu	(223.57 GB)	(400 I (10385.// GB)
Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow keys, then press the Menu key to display the menu. The disk/volume changes you make will not take get into effect until you select "Commit" from the Operations menu or click "Next" to commit all changes.		1		
	, Original Source Disk/Vo	lume Layouts		ß
	Disk 0 (MBR) 223.57 GB		Y:\ (223.57 GB)	()////////////////////////////////////
	 Disk 1 (GPT) 18616.32 GB 	\\?\Volume(791b) EFI System Partiti)	C:\ (155.73 GB) 👔 \\?\Volume	(4dd 1) X:\ (18383.77 GB)
	Primary			
▲ <u>U</u> tilities			<u>B</u> ack	<u>N</u> ext <u>A</u> bort

13. **ディスクリストア設定のサマリ**]画面で、**D**K]をクリックします。

Source Disk	Destination Disk	
mmary of Volume Restore Settings:	Destruction	0.04
	Destination volume	On Disk
U2Wolume (701b0015, 1206, 4694, 8dfb)	C:\(155.73 GB)	Disk 0
\/?4dd1123f-0464-4cd6-9df0-1	G:\ (76.29 GB)	Disk 0
EFI System Partition (99 MB)	\\?821d05a8-3ecd-436f-a497-cc0	Disk 0

14. Bare Metal Recovery(BMR)- Start Recovery Process (ベアメタル復旧 (BMR) - 復旧プロセスの開始)]ダイアログボックスで、 再起動後にエー ジェント サービスを自動的に開始しない]オプションをオフにして、リストアの 完了とマシンの再起動を待ちます。

are Metal Recovery(BMR) - Start Restore Process	Summary of Restore Settings				
his page displays a summary of the disk/volume	Restore Item		Status	Progress	Throughput
store settings that you have made.	Restore source volume 'C:\' to current dest	ination disk 0	Restoring	1.8%	3115.69 MB/Minute
the Listher the BMR process is complete and river has been rebooted, you may not want to from backup jobs from this server. If you are it testing the BMR functionality, we recommend at you select the 'Do not start Agent service tomatically after reboot 'qotion. hen you select this option, you can manually at the Agent service (and the Recovery Point river service, if installed) after reboot if you ant to perform backup jobs. able Windows F8 boot option helps user from further recovery or troubleshooting after IR. For example, press F8 and boot into Active ectory service Restore mode to perform Active ectory authoritative restore.	Restore source volume '\\Volume(791b09 Restore source volume '\\Volume(791b09 Restore source volume '\F)Volume(4d112 Restore source volume 'EFI System Partitio	1100-12000 15-1396-4e36496b-1fa02793003F} (* 3F-0464-4cd6-9df0-1ab9b95c8901} (* 1 to current destination disk 0 very. er reboot.	Not Started Not Started Not Started	10.0	
	Boot the system to Advanced Boot Options	(F8) Menu on the next boot for Windows	8 / Windows Serv	er 2012 and later	OS.
	Elapsed Time:	00:00:33			
	Estimated Time Remaining:	00 : 52 : 55			
	[1.8%] [1632MB/90738MB] Restoring basic sou	rce volume 'C:\' to current destination dis	sk 0		
▶ <u>U</u> tilities			<u>B</u> ack	Ne	xt <u>A</u> bort

BMRの処理が正常に完了しました。

Linux 移行ツールに関する推奨事項

重要:Linux 移行ツールは Arcserve UDP v6.5 Update 4 でのみ利用可能です。

Linux 移行ツール(Linux_migration.ps1)は、Arcserve UDP v6.5 Update 4 から導入 された新機能です。このツールを使用すると、Arcserve UDP アプライアンスの事前 インストール済み Linux バックアップサーバを CentOS 6.6 といった以前のバージョン の CentOS から CentOS 7.4 に移行できます。

以下の手順に従います。

- 1. 管理者の認証情報を使用して、Arcserve UDP アプライアンスにログインします。
- 2. アプライアンス内の Arcserve UDP コンソールの以前のバージョンを Arcserve UDP v6.5 Update 4 にアップグレードします。
- 3. この<u>リンク</u>から Linux-BackupSvr.zip をダウンロードして(このダウンロードの MD5 は 0A51C1020CB8EA569B9DCEAF7BF226E0 です)、ローカルドライブ にファイルを抽出します。たとえば、これらのファイルをドライブ X に抽出する 場合、パスは以下のように表示されます。
 - △ Local Disk (X:)

4 Linux-BackupSvr Snapshots Virtual Hard Disks Virtual Machines

- 4. PowerShell コマンド ラインを開いて以下のコマンドを入力し、ディレクトリの パスを Linux_migration.ps1 ファイルが含まれるフォルダに変更します。
- cd C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\bin\Appliance\
- 5. 以下のコマンドを実行して移行を実行します。

Linux_migration.ps1 –path X:\Linux-BackupSvr

注: X:\Linux-BackupSvrは、Linux-BackupSvr.zipのファイルがローカルドライブに抽出されるパスです。

コマンドラインには、移行処理の進捗状況が表示されます。

移行処理が正常に完了すると、古いLinux バックアップサーバの電源がオ フになり、古いLinux バックアップサーバの名前がLinux-BackupSvr-CentOS<version number>-<hhmm> に変更されます。新しいLinux バックアッ プサーバ(CentOS 7.4) のインポートが完了し、その名前が Hyper-V マネージャで Linux-BackupSvr に正常に変更されます。

6. Arcserve UDP コンソールから Linux バックアップ サーバを更新します。

Linux バックアップ サーバを CentOS 7.4 に移行した後、Linux バックアップ プラン、Linux ノード、および Linux ジョブといったすべての Linux バックアップ サーバ設定は、Arcserve UDP アプライアンスコンソールで正常に移行されて設定されます。

アプライアンスイメージ設定ユーティリティツールを設 定するための推奨事項

アプライアンス イメージ設定 ユーティリティ ツールは、Arcserve UDP アプライアンスの 利用可能なバージョンの目的のアプライアンス イメージで、現在 のシステムの元の アプライアンス イメージを置換するのに役立ちます。

Arcserve UDP v6.5 Update 2 のアプライアンス イメージのダウンロード

Windows 2012 R2 の場合

こちらの URL から、アプライアンス イメージをダウンロード することができます。

注: アプライアンス イメージ ダウンロードの md5 は 1E9FB62D395EF1812B1DBE9EDB8F2C6E です。

ユーティリティを実行したら、Arcserve UDP コンソールで利用可能な工場出荷時 設定を使用して、ファクトリリセットを実施し、アプライアンスを Arcserve UDP アプラ イアンスの目的のリリース バージョンに戻します。 アプライアンス イメージ設定 ユー ティリティは、Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update 1 以降のリリースで利用可 能です。

注:置換に使用されるアプライアンスイメージは、Arcserve UDP アプライアンスにインストールされている元のArcserve UDP バージョンより後のバージョンである必要があります。

元のArcserve UDPのバージョンを確認するには、Arcserve UDPコンソールにログインし、設定]に移動して、バージョンの詳細のファクトリリセット]を選択します。

Factory Reset

Performing a Factory Reset on your Arcserve UDP Appliance will return all settings to their factory defaults. All resources, job history, reports, and log entries will be deleted. The Arcserve UDP software will revert from its current version to the version originally installed on the Appliance.

Current Arcserve UDP Version: 6.5.4175 update 1 build 358 Original Arcserve UDP Version: 6.0.3792 update 1 build 303 ☑ Preserve existing backup data.

Perform Factory Reset

UDP v6 Update 1 のファクトリ リセット イメージを UDP v6.5 Update 1 のファクトリ リセット イメー ジに置き換えるサンプル シナリオ

以下の例では、ファクトリリセットイメージを置き換える処理について説明します。 別のバージョンでも同じ処理を実行できます。

アプライアンス イメージ設 定 ユーティリティを使 用して Arcserve UDP アプライアンス v6 Update 1 から Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update 1 に戻 す方 法

アプライアンスにインストールされている Arcserve UDP リリース バージョンが Arcserve UDP v6 Update 1 の場合、アプライアンスを Arcserve UDP v6.5 Update 1 にアップグレード することができます。

アップグレードするには、次の手順を実行します。

- Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update 1 のアプライアンス イメージをダウ ンロードし、アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを実行します。以下 の手順を実行し、アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを使用しま す。
 - a. Arcserve UDP v6.5 Update 1 アプライアンス イメージをこちらの <u>URL</u> か らダウンロード するか、<u>サポートに問い合 わせて</u>ダウンロードします。

```
注: アプライアンス イメージ ダウンロードの md5 は 9F568A4BDC6B42972C5177284591B835 です。
```

b. Windows コマンド ラインを開いて、以下 のコマンドを入力します。

C:\Program files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\bin\Appliance\SetImage.exe – applianceimage <Fullpath of the appliance image just downloaded> 終了したアプライアンスイメージの確認手順が完了したら、以下の クエリが表示されます。

appliance.wim ファイルを置き換えてもよろしいでしょうか? <y/n>

- c. イメージを置き換えるには「y」または「yes」を入力し、実行を終了す るには「n」または「no」を入力します。
- d. イメージの複製が完了すると、コマンドラインには、以下のメッセージが表示されます。



2. アプライアンスの Update 1 バージョンに戻すには、以下の手順を実行します。

注: Arcserve UDP コンソールでのアプライアンス イメージの置 換後、元の Arcserve UDP バージョンは目的のアプライアンス リリース バージョンに変更 されます。 a. Arcserve UDP コンソールから、 **設定**]に移動し、 **ファクトリリセット**] を選択します。

Factory Reset

```
Performing a Factory Reset on your Arcserve UDP Appliance will return all settings to their factory defaults. All resources, job history, reports, and log entries will be deleted. The Arcserve UDP software will revert from its current version to the version originally installed on the Appliance.
Current Arcserve UDP Version: 6.5.4175 update 1 build 358
Original Arcserve UDP Version: 6.5.4175 update 1 build 359
Image: Perserve existing backup data.
Perform Factory Reset
```

*元のArcserve UDP バージョン*は、Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update 1 に変更されます。

注: アプライアンスイメージの置換後に、 元のArcserve UDP バー ジョン]に目的のアプライアンスリリースバージョンが表示されていない場合は、ページを再度読み込みます。

b. **ファクトリリセットの実行**]をクリックすると、現在のバージョンのアプラ イアンスから、新しい Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update 1 バー ジョンに戻ります。

ファクトリリセットの詳細についてはこちらのリンクを参照してください。

Arcserve UDP アプライアンスに事前インストールされて いる Linux バックアップ サーバに関する推奨事項

Arcserve UDP アプライアンスに事前インストールされている Linux バックアップサーバを v6.5 Update 2 にアップグレードする場合は、アップグレード後に、CentOS 6.6 x64 ファイアウォールの Linux にいくつかのポートを手動で追加する必要があります。

以下の手順に従います。

1. 以下のパスに移動します。

vi /etc/sysconfig/iptables

iptables ファイルには、太字で記載されている以下の行が含まれている必要があります。そうでない場合は、手動でそれらを追加する必要があります。

Firewall configuration written by system-config-firewall

Manual customization of this file is not recommended.

*filter

:INPUT ACCEPT [0:0]

:FORWARD ACCEPT [0:0]

:OUTPUT ACCEPT [0:0]

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 22 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 67 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 69 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8014 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8016 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8017 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8021 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8035 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8036 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50000 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50001 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50002 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50003 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50004 -j ACCEPT -A INPUT -m state --state ESTABLISHED,RELATED -j ACCEPT -A INPUT -p icmp -j ACCEPT -A INPUT -i lo -j ACCEPT -A INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 22 -j ACCEPT -A INPUT -j REJECT --reject-with icmp-host-prohibited -A FORWARD -j REJECT --reject-with icmp-host-prohibited COMMIT 3. iptables ファイルを保存します。

以下のコマンドを使用して、iptables サービスを再起動します。
 /etc/init.d/iptables restart

CentOS 6.6 x64 ファイアウォールに正常にポートが追加されました。

Arcserve UDP アプライアンスに Linux のバックアップ サーバ自体をバックアップさせるための推奨事項

Arcserve UDP アプライアンスで、Linux バックアップ サーバ自体をバックアップする場合は、次の手順を実行します。

- 1. Arcserve UDP コンソールから、 [リソース]タブをクリックします。
- 2. 右側のペインの **すべてのノード**]をクリックします。
- 3. 中央のペインから、 [ノードの追加]をクリックします。

[Add Nodes to Arcserve UDP Console] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 4. **[ノードの追加**]ドロップダウンリストから、 [*linux ノードの追加*]を選択します。
- 5. ノードの認証情報を入力し、『リストに追加』をクリックします。

dashboard resources	jobs	reports log	settings P	igh availabilit	v					
Notes Al Notes Note Notes Notes	< Noder	Add Nodes to Ar	de NametP Address SSH Kay Authentication et Name SSH Kay Authentication et Name assered Non-root Chedential n n-cold Usersame assered d Description	556 		Line-Bologfor	Vill Name	Rypervisor	57.27.28 enguration Witcard for of Recent Jobs by Tan cent Events	A View Log
	K	Hep Page (FT _ >	ніа		Add to Liat			Remove Save Cancel Activustie (C2) s syste Replaying 1 - 4 af 4	Windows m in Control Panel to	

6. 保存]をクリックします。

追加された Linux ノードは **すべてのノード**]リストに表示されます。

arcserve [.]	unifie	ed data protection				O Messag	es (1) - Help
dashboard resources	jobs re	ports log settings	high availability				
	< Nodes: A	ul Nodes					3
Al binder	Actions .	Add Nodes		Filter	¥ (No filter applied)	* X	Configuration Wizard
Nodes without a Plan		Status Rivie Kame	Fan	Huserview	Last Backup Desult	Last Backup Time	Select a node to view the related details.
Linux Backup Server Groups Linux Notes	8	0 Inux backspovr					
Linu: Notes							
Al Plans							
Destinations Recovery Point Servers Accesive Eackup Servers Shared Folders Cloud Accounts							
Infrastructure Storage Amays							
Instant Virtual Machines							
Sites							
SLA Profiles							
	<					>	
	H 4 PM	60 1 6f1 > > 2				Displaying 1 - 1 of 1	

7. **すべてのプラン**]に移動し、エージェント ベース Linux プランを作成しま す。

[ソース]タブが表示されます。

arcserve [.]	unified data protection	O Messages (1) + administrator + Help +
dashboard resources	jobs reports log settings high availability	
Add a Plan	tectup Imu-backsprint	Save Cancel Help
Task1: Backup: Agent-Based Linux	Task Type Backagi Agent Based Linux +	⊘ Culture Tank
Add a Task	Source Destination Schedule Advanced	
	Linus Badrug Server applance • Add	
	⊕Add Ramove	
	🖥 Rode Kane - Vil Kane - Pian - Me	
	Filter volumes for body Evided + Filter/Notes to be evidede	

8. 追加]ドロップダウンリストから、 [*Arcserve UDP で保護 するノードの選* 択]を選択します。

UTC-08-00 (Pacific Daylight Time

 $\underline{0}$ Copyright & 2017 Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved.

arcserve [.]	unified data protection	Ø Massages (1) + administrator + Help +
dashboard resources	jobs reports log settings high availability	
Add a Plan	backup Inva-backupovr	Save Cancel Help
Task1: Backup: Agent Based Linux	Task Type Badrup Apent-Based Linux +	©Colder Task
Add a Task	Source Destination Schedule Advanced	
	Linux Backup Gerver epistence + Add	
	O Add Difference Select Nades to Protect in Accesses UCP Man Add Linux Node Sec	
	Filter valuees for backup D-dude + Filter-folders to be encluded	

 $\underline{\hat{0}}$ Copyright () 2017 Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved.

UTC-08-00 (Autific Daylight Time

保護するノードの選択」ダイアログボックスが表示されます。

9. 追加された Linux ノードを保護して、 [DK]をクリックします。

d a Plan	inci.	Select Nodes to Prote	a	1								Ш×	Save	Cancel	
sk1: Backup: Agent-Based str	Task Ty	Available Nod	5				Sele	cted Nodes						00	
		Groups All Nodes (5	vfault Groups)	*		×									
Add a Task		🗵 Node Name	VM Name	Plan	Site	П	۵	Node Name	VM Name	Plan	Site				
	Linux	2 Intro-backspror			Local Site			inus-backsprvr			Local Site	- 1			
	G														
						2	*								
						<									
						•									
		M. A. LEWIS	Terris M	1.0 000											
	Filer	Help	Jan Con	Coper)	eg1-1011						œ	Cancel			
	Filest					_	_			_					

「デスティネーション」タブが表示されます。

10. 表示されるデフォルトのデスティネーションは、アプライアンスウィザードを使用して作成されたデータストアです。必要に応じて、ノードをバックアップ するローカルディスクまたは共有フォルダを選択します。

arcserve [.]	unified data prote	ction	O Messages (1) + administrator + Help +
dashboard resources	jobs reports log s	ttings high availability	
Add a Plan	badtup inu: backuptvr	C Pause this plan	Save Cancel Help
Tank1: Backup: Agent-Based Linux	Task Type Backup: Agent-Ba	+ v	©Constr Task
Adl a Task	Source Destination Destination Prove Processor Data Store Personal Protection Session Password Confers Session Password	n Schedule Advanced	

 $\underline{\hat{\mathbf{C}}}$ Copyright $\underline{\mathbf{0}}$ 2017 Arcserve (UEA), LLC and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved.

UTC-08-00 (Ascilic Daylight Time

11. プランに関連する設定を入力したら、 保存]をクリックします。

Notes Al Notes Al Notes Al Notes Notes without a Plan Note without a Plan Note without a Plan Lives Notes Plano Pla	e Plan Teat chadacarr 1	8000 0	e Protecter O 1	0	Source © Deployment: Successful (1)	Active Job Court 9	D Configuration Tillcard elect a plan to view the related details.
A block A block Noles ethol a Pan Use holds Store Charge Use holds Store Charge Den holds Den holds Den holds Den holds Den holds Den holds Den holds Den holds Den holds Den holds Recorp Part Stores Den holds Den h	tear Loadboor 1	Node O	a Protectar	0	Source © Deployment: Successful (1)	C Active Job Crowt 94	Configuration Tillcard
Nodes unboot a Pain) Lone. Looks) Dane Looks) Pain Company Pains Artanna Resource Professions Considencies Resource Professions Count Accounts Matashatures Study Professions SUA	Yotel chacksonr 1	0	a Protecter 0 1	0	Status © Deployment: Euconstild (1)	Active Jub Crowt	eled a plan to view the visited details.
	Yotai	0	1	0	Coppyment Successful (1)	0	
Antarwani baddalara Paes Alfrae Destendente Reserver, Profit doners Share Folders Ober Accene Badog Servers Share Folders Ober Accene Badog Servers Share Share Badag Angel Badag Angel Ba	t.backsent 1	0	1	0	Copyryment Buccountid (1)	0	
Pana Ar Amer Cestifications Receivery Bothwares Accesser Backup Stewas Bates Status Cooke Accesses Dooke Accesses Bates Status Bates Accesses Bates BAA Photos							
AP Paie Petrotections Recovery Paint Devens Accenne Backop Devens Samade Factors Coxe Accents bitrash Vactors Downey Accept Instate Vactors Backap Devens Stat Profiles							
Leekanalos Accere Rackup Breves Accere Rackup Breves Sabarde Folden Cloud Acceurts Bahashcular Stange Acays Instat Vana Machees Steh SLA Polites							

追加された Linux バックアップサーバに対して正常にバックアップを実行する ことができます。

Arcserve UDP アプライアンスからアプライアンスへの移 行の推奨事項

このトピックでは、既存の Arcserve UDP アプライアンスから別の新しい Arcserve UDP アプライアンスへの移行を実行するユーザ用に2つのソリューションを提供します。

たとえば、Arcserve UDP アプライアンス 8200 を Arcserve UDP アプライアンス 8400 に 移行することができます。前提条件は次のとおりです。

- アプライアンス 8200 とアプライアンス 8400 の両方に接続できることを確認します。
- 新しいアプライアンスの容量は、元のアプライアンス上のすべてのデータを保持するのに十分なメモリがある必要があります。
- Arcserve UDP アプライアンス 8200 で、ジョブが実行されていないことを確認します。

コンソールの移行の詳細については、「<u>Arcserve UDP コンソールの移行に関</u> <u>する推奨事項</u>」トピックを参照してください。

任意のアプライアンスから新規アプライアンスに移行するには、以下に示す2つの ソリューションがあります。

- <u>解決策 1</u>
- <u>解決策 2</u>

解決策1

ベア メタル復旧(BMR) ソリューション

既存のUDP アプライアンスから別の新しい UDP アプライアンスに対して BMR を実 行するには、以下の手順を実施します。

1. 新規 Arcserve UDP 8400 上にデータストアを作成し、このデータストアに Arcserve UDP アプライアンス 8200 をバックアップします。

注:以下の警告は無視することができます。

Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ データストアは、ボリューム X:、Y: で設定 されています。このボリュームはバックアップされません。

2. バックアップ後、上記の手順で取得した復旧ポイントを使用してアプライ アンス 8400 で BMR を実行し、手動でドライバ megasas.inf を選択しま す。

 \times

Create Boot Kit for Bare Metal Recovery

Manufacturer	Version	Platform	Path
Intel	12/08/2016, 12.14.7.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem43.inf
Intel	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem9.inf
MS_HDC, INTEL_HDC	06/21/2006, 10.0.14	×64	C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf
LSI	03/06/2015, 6.707.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem8.inf
INTEL	08/19/2016, 10.1.2.80	x64	C:\WINDOWS\INF\oem45.inf
AMD.Section, ACER.S	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbport.inf
INTEL	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem47.inf
GENDEV_SYS, ACC	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\machine.inf
Generic	10/08/2017, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbxhci.inf

3. BMR の後、システム プロンプトに従ってアプライアンス 8400 を再起動しま す。



4. ここで、8400 アプライアンス上にネットワークスイッチが再構築されます。

以下の手順に従います。

a. [レーティングとリモート アクセス]を開き、 [レーティングとリモート アクセ スの無効化]をクリックします。



b. PowerShell で、以下のコマンドを実行します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data

🔉 l 🕞 🚯 🖛 l			Appliance				- • ×
File Home Shar	e View						~ Ø
🕣 🕤 🕈 🛞 🔿	Program Files + Arcserve + Unified	Data Protection	Engine + BIN	Appliance +	v C	Search Appliance	,P
🚖 Favorites	Name		Date modified	Туре	Size		^
Desktop	setnat.ps1.log		5/10/2017 5:18 AM	Text Document	2 KB		
🐌 Downloads	nat.log		5/10/2017 5:18 AM	Text Document	6 KB		
Secent places	at2.bat		5/10/2017 5:18 AM	Windows Batch File	2 KB		
	dhcpdone.flag		5/10/2017 5:17 AM	FLAG File	0 KB		
🎘 This PC	resetdhcp.ps1.log		5/10/2017 5:17 AM	Text Document	2 KB		
🚂 Desktop	inuxdone.flag		5/10/2017 4:52 AM	FLAG File	0 KB		
Documents	vmstarted.flag		5/10/2017 4:52 AM	FLAG File	0 KB		
😹 Downloads	adapterNameChanged.flag		5/10/2017 4:52 AM	FLAG File	0 KB		
🚺 Music	language.txt		5/10/2017 1:19 AM	Text Document	1 KB		
📔 Pictures	initstorage.ps1.log		5/9/2017 4:26 AM	Text Document	1 KB		
🗎 Videos	setos.flag		5/9/2017 1:42 AM	FLAG File	0 KB		
🚢 Local Disk (C:)	configuration_change.status		5/9/2017 1:39 AM	STATUS File	1 KB		
👝 Local Disk (D:)	configuration_change.flag		5/9/2017 1:39 AM	FLAG File	0 KB		
BMR (F:)	ARCDiskCheck-Finish.tag		5/9/2017 1:39 AM	TAG File	0 KB		
ZZ (G:)	Rebuild-VMSwitch.ps1	0		Windows PowerS	3 KB		
👝 Local Disk (X:)	resetdhcp.ps1	Open	. Al all	Windows PowerS	23 KB		
👝 Local Disk (Y:)	E ApplianceInformation.eu	Kun with Pov	vershell	Application	30 KB		
	configuration_change.ps	Edit		Windows PowerS	19 KB		
👊 Network	🚳 arcrun.bat	Open with	· · · ·	Windows Batch File	1 KB		
	initstorage.ps1	Restore previ	ous versions	Windows PowerS	15 KB		
	ARCDiskCheck.exe	Send to	•	Application	130 KB		
	etnat.ps1	Cut		Windows PowerS	4 KB		
34 items 1 item selected 2.07 KB		Сору)

Protection\Engine\BIN\Appliance\Rebuild-VMSwitch.ps1

- 5. ここで、以下の手順を実行し、8200 アプライアンス上のデータを8400 アプ ライアンスにコピーし、データを8400 にインポートします。
 - a. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、UDP アプライアンス 8200 上のすべての UDP サービスを停止します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /stopall

 b. ディスク X および Y 上 のすべてのデータを、UDP アプライアンス 8200 から 8400 に手 動 でコピーします。

Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.3.9600] <c> 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.</c>
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>cmdutil.exe /st opall Staut to kill process evaluate exe
Killing process explorer.exe
Start to kill process bibbugc.exe
Scopping service "Hrcserve UDP Hgent Service" Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP RPS Data Store Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP RPS Port Sharing Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Identity Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Management Service'
Stopping service 'Arcserve UDP Management Port Sharing Service'
Stopping service 'Arcserve UDP Agent Explorer Extension Service'
Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Update Service' Service Stopped.
Stopping Arcserve UDP agent monitor Arcserve UDP agent monitor stopped.
Start to kill Arcserve UDP processes
Killing process sync_utl_d.exe Process killed.
Killing process AFD2DMonitor.exe Process killed.
Killing process GDDServer.exe Process killed.
Killing process GDDServer.exe Process killed.
Killing process GDDServer.exe
Killing process AStartup.exe
Killing process explorer.exe
Stopping mounting driver
Mounting driver stopped.
Start Windows Explorer.

c. 8400 アプライアンスで、すべての UDP サービスを起動し、8200 アプライ アンスからコピーしたデータをインポートします。

arcserve' unit	fied data protection			O Messages (1)	• administrator •	Help +
dashboard resources jobs	reports log settings	high availability				
	Import a Data Store					
	Razovay Post Sarvar Cuta Store Fotor Encryption Passourd	revitel200 X:Vecervitala_storicomm Not		box.		
			Size	Cancel Help		
Copyright @ 2017 Answerve (USA), LLC and its affiliates and it	subsidiaries. All rights reserved.				UTC-08-00 (P	wife Daylight Time
解決策 2

Arcserve UDP アプライアンス ソリューションの移行

重要:既存のアプライアンスがArcserve UDP コンソールとArcserve UDP RPSの両方として動作している場合、この解決策を使用することができます。

前提条件:

- Arcserve UDP アプライアンス 8200 で、ジョブが実行されていないことを確認します。
- Arcserve UDP コンソールを UDP アプライアンス 8200 から 8400 に移行済みです。

注: Arcserve UDP コンソールをアプライアンス 8200 から 8400 に移行する方法の詳細については、「<u>Arcserve UDP コンソールの移行に関する推奨事</u>項」を参照してください。

以下の手順に従います。

1. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve UDP アプライアンス 8200 上のすべての Arcserve UDP サービスを停止します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /stopall

```
- 0
                               Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.3.9600]
<c> 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.
 C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>cmdutil.e:
ppall
start to kill process explorer.exe
Killing process explorer.exe
Process killed.
Start to kill process D2DUDgc.exe
 topping service 'Arcserve UDP Agent Service'...
ervice Stopped.
 Stopping service 'Arcserve UDP RPS Data Store Service'...
Service Stopped.
 topping service 'Arcserve UDP RPS Port Sharing Service'...
ervice Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Identity Service'...
Service Stopped.
 topping service 'Arcserve UDP Management Service'...
ervice Stopped.
 topping service 'Arcserve UDP Management Port Sharing Service'...
ervice Stopped.
 topping service 'Arcserve UDP Agent Explorer Extension Service'...
ervice Stopped.
 topping service 'Arcserve UDP Update Service'...
ervice Stopped.
 topping Arcserve UDP agent monitor...
Ircserve UDP agent monitor stopped.
 tart to kill Arcserve UDP processes
Killing process sync_utl_d.exe
Process killed.
 (illing process AFD2DMonitor.exe
Process killed.
 illing process GDDServer.exe
Process killed.
Killing process GDDServer.exe
Process killed.
Killing process GDDServer.exe
Process killed.
 (illing process AStartup.exe
Process killed.
Killing process explorer.exe
Process killed.
Stopping mounting driver...
Mounting driver stopped.
Start Windows Explorer.
```

- ディスク X および Y 上 のすべてのデータを、Arcserve UDP アプライアンス 8200 から 8400 に手 動でコピーします。
- 8400 アプライアンスで、すべての Arcserve UDP サービスを起動し、8200 ア プライアンスからコピーしたデータストアをインポートします。

arcserve' unifie	ed data protection			O Messages (1)	administrator +	Help -+
dashboard resources jobs rep	ports log settings	high availability				
	Import a Data Store					
	Recovery Point Server Data Store Folder Encryption Password	nevfact200 X.Vecserveldela_store/common	Browne			
		Mext				
			Save Cancel	Help		
rght @ 2017 Arcserve (USA), ULC and its affiliates and subs	sidaries. All rights reserved.				UTC-08-00	Pacific Daylog

注: Arcserve UDP ログ ファイルは新しいアプライアンスには移行されません。

既存のArcserve UDP アプライアンスが別の新しいアプライアンスに正常に移行されました。Arcserve UDP

ローカルアプライアンス Hyper-V に対する Arcserve UDP Linux インスタント VM ジョブの推奨事項

Arcserve UDP のアプライアンスを使用すると、ローカルアプライアンス Hyper-V 上で Linux インスタント VM ジョブを実行するようにネット ワークを設定することができます。

以下の手順に従います。

- 1. Hyper-V マネージャを開きます。
- 2. 新しい外部 仮想 ネットワーク スイッチを作成します。
- 3. [ルーティングとリモート アクセス]を開き、 [ルーティングとリモート アクセスの 無効化]をクリックします。

互				Routing and Remote Access
Fil	e Action	View Help		
	* 2	T 🗙 🖬 🤮 📓 TI		
Ā	Routing an	d Remote Access BMR (local)		
1.	Server S	Status		
- 4	10 BA	Configure and Enable Routing and Remote Access		ss Is Configured on This Server
	2	Disable Routing and Remote Access		gured using the Routing and Remote Access Server Setup Wizard. To make changes to the current configuration, select
	1	Enable DirectAccess		
		All Tasks	•	
		View	,	is Server
5	⇒ 蓋 -	Delete		or providing remote access to your clients. You can use rich remote access experience based on DirectAccess by enable
1		Refresh		are necessive or enable bireconcess on this server, you can run one bireconcess where by selecting the bire
		Properties		
		Help		
				al d

 DOS コマンド ラインを使用して、PowerShell で以下のコマンドを実行し、
 手順1で新しく追加された仮想ネットワークスイッチ用に [レーティングとリ モートアクセス]を再設定します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\Rebuild-VMSwitch.ps1

- 注: Linux のバックアップサーバ Linux BackupSvr は処理中に再起動します。
- 5. Linux インスタント VM ジョブをローカル Hyper-V に対して実行 するには、新 しく追加された仮想 ネットワーク スイッチを選択します。

Linux インスタント VM ジョブをローカル アプライアンス Hyper-V に対して正常に実行 できるようになりました。

リモート で管理される RPS ヘレプリケート タスクを別の アプライアンスに追加するベスト プラクティス

Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update1 では、 *リモート で管理される RPS ヘレプ* リケート]タスクを追加し、別のアプライアンス マシンのホスト名 /IP アドレスを復旧ポ イント サーバ(RPS) として *リモート コンソール*]フィールドに追加する場合、以下の エラー メッセージが Arcserve UDP コンソールに表示されます。

注: この問題は、Arcserve UDP v6.5 Update 3 以上のデフォルト バージョンを備える UDP アプライアンスでは修正されます。

 CITCSETVE°
 unified data protection

 • Messages (1) • administrator •

 dashboard
 resources
 jobs
 reports
 log
 settings
 high availability

 Modify a Plan
 msp
 Pause this plan
 Save
 Cance

エラーメッセージ: リモート コンソールを選択してください

dashboard resources	jobs reports log set	tings high availability		
Modify a Plan	msp	Pause this plan	Save Cancel Help	
Task1: Backup: Agent-Based 🛛 🧿 Windows	Task Type Replicate to a remote	ely-managed RPS v	⊘Delete Task	•
Task2: Replicate to a remotely- managed RPS	Source Destination	Schedule		
	Remote Console:	10.10.255.255		
↔ Add a Task	Username:	administrator	Please select a remote console.	
Product Installation	Password:	•••••		
	Port:	8015		
	Protocol:	O HTTP HTTPS		
	Enable Proxy:			
	Connect			

この問題は、ローカルコンソールとリモートコンソールで同じ GUID を使用することが 原因で発生します。

リモートで管理される RPS タスクを別のアプライアンスでサポートするには、以下の手順を実行します。

1. 以下のレジストリパスからローカルアプライアンスの GUID を削除します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve\Unified Data Protection\Management\Console\GUID 2. PowerShell で以下 のコマンドを使用して、データベースから GUID を削除し ます。

\$database = 'arcserveUDP' \$server = 'localhost\arcserve_app' \$sqlconn = New-Object System.Data.SqlClient.SqlConnection \$sqlconn.ConnectionString = "Data Source=\$server;Initial Catalog=\$database;Integrated Security=SSPI;" \$sqlconn.Open() \$sqlcmd = New-Object System.Data.SqlClient.SqlCommand \$sqlcmd.Connection = \$sqlconn \$sqlcmd.CommandText = "delete from as_edge_configuration where ParamKey='ConsoleUuid''' \$sqlcmd.ExecuteNonQuery() \$sqlconn.Close()

- 3. ローカル アプライアンス マシン上の UDP 管理 サービスを再起動します。
- 4. ローカル マシンの UDP コンソールから、以下の手順を実行します。
 - a. [ノード]ビューで [すべてのノード]を選択します。
 - b. 右クリックして、 (更新]を選択します。
 - c. **[DK**]をクリックし、すべてのノードを更新します。
- 5. 腹 旧ポイント サーバ]ビューですべての RPS ノードを選 択し、右 クリックして、 [更 新]を選 択し、すべての RPS ノードを更 新します。

2 つのアプライアンス マシン間 で、 *リモート で管 理される RPS ヘレプリケート*]が正常にサポートされます。

モニタが別のアプライアンスである仮想スタンバイ(VSB) タスクを実行するベスト プラクティス

Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update1 上で、VSB タスクを実行し、別のアプライアンスをモニタとして使用する場合、VSB タスクが失敗し、アクティビティ ログに以下のエラーメッセージが表示されます。

注: この問題は、Arcserve UDP v6.5 Update 3 以上のデフォルト バージョンを備える UDP アプライアンスでは修正されます。

エラーメッセージ: リモート サーバ [IP]、ポート = 4090 への接続に失敗しました。

(arcserve) ° ur	nified data pr	otection			O Messages (1) • administrator • Help •
(ashboard resour	rces jobs	reports log	settings	high availability		
Severit	All	Node Name	10.10.255.255	× Job ID 3	× Job	Type Virtual S	Slandby v Defreeh Reset Evnort Delete
Time	All	Generated From	vsb2	× Message	×		reliesii nesel Lypor Jerrie
Severity	Time	SiteName	Node Name	Generated Fr	om Job ID	Job Type	Message
8	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	The Virtual Standby job failed.
0	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Synchronize source machine adapter information to Virtual Standby successfully.
0	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	The Virtual Standby job copied data totaling 0 Bytes, the elapsed time was 0 Sec, and the average throughput was 0.00 MB/Min.
8	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Failed to convert session S000000001 to the host for VM [UDPVM_WIN-92KBNU8J439].
0	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	An unexpected error has occurred when attempting to convert sessions for VM (UDPVM_VWH-92KBNU8.439). To remedy this problem, please submit a new backup to start the Virtual Standby job. If the problem persists, contact arcserve support.
0	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Failed to connect to remote server (10.57 , port = 4090.
0	7/18/2017 3:02:40 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Failed to connect to remote server [10.57], port = 4090.
0	7/18/2017 3:01:28 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Try VDDK advanced transport mode (SAN or HotAdd).
0	7/18/2017 3:01:12 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Upload meta data to VM [UDPVM_WIN-92KBNU8,J439].
0	7/18/2017 3:01:12 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Begin to convert session \$000000001.
0	7/18/2017 3:01:12 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Virtual Standby job will convert session \$000000001.
0	7/18/2017 3:01:04 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	VM was created. VM name is [UDPVM_WIN-92KBNU8J439].
0	7/18/2017 3:00:49 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	The source machine is [10:57], the backup destination is [X: Wrcserveldata_store/commonWIN-92KBNU8.439[91257b8-1310-4b17-8ca7- 971de742d347]] on Recovery Point Server (vsb2), and the data store name is (vsb2, data_store).
0	7/18/2017 3:00:48 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	The monitor server is [10.57] and is used as a proxy for data transfer.
0	7/18/2017 3:00:48 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Start a Virtual Standby job with destination type VMware ESX Server, and the hypervisor host name is [10.57].
0	7/18/2017 3:00:48 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta	Virtual Standby job started.

この問題は、モニタアプライアンスと Arcserve UDP RPS アプライアンスマシンの両方 に同じ GUID が存在することが原因で発生します。

VSB タスクをサポートするには、以下の手順を実行します。

1. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve UDP RPS アプライアン ス上のすべての UDP サービスを停止します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /stopall 2. 以下のレジストリパスを使用して、ローカルアプライアンスから GUID を削除します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\GUID

3. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve UDP RPS アプライアン ス上のすべての UDP サービスを起動します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /startall

- 4. ローカルマシンの UDP コンソールから、以下の手順を実行します。
 - a. **プラン]ビュー**で [*すべてのプラン*]を選択します。
 - b. 右 クリックし、 [今 すぐ展 開]を選 択します。
 - c. **[DK**]をクリックして、すべてのプランを展開します。

VSB タスクが正常にサポートされます。

第 14 章: 使用条件

この製品の一部には、サード パーティのソフトウェア プロバイダによって開発された ソフトウェアが含まれています。以下のセクションに、このサード パーティ ソフトウェア に関する情報を示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

putty

この製品に含まれている「putty」コンポーネントの詳細を以下に示します。

コン	
ポー	
ネント	putty
名	
コン	
ポー	
ネント	Simon Tatham によって最初に開発されました。
ベンダ	
コン	
ポー	
ネント	0.64
バー	
ジョン	
リーガ	
ルコメ	http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html
ント	
プロ	
ジェク	Appliance Rhodium
ト 日 人 名	
・ _ コン	
ポー	
ネント	オープンソース
タイプ	
ソース	
⊐—ド	http://the earth li/~sgtatham/putty/0.64/
心要	
むえ なプ	
ラット	Windows 2012 B2
7+	
<u>ь</u>	
コン	
 ポ—	
ネント	http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/
URI	
コン ポー	
ホル	http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/
ハノト	
//	

ジョン	
URL	
説明	アプライアンス マシン上 で、putty.exe を使 用して Linux バックアップ サーバと通 信し、 システム ロケールと UDP Linux ロケールを変 更します。
機能	アプライアンス
ランテト	http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html PuTTY の著作権はSimon Tatham が有しています(1997-2015)。 一部の著作権は、Robert de Bath、Joris van Rantwijk、Delian Delchev、Andreas Schultz、Jeroen Massar、Wez Furlong、Nicolas Barry、Justin Bradford、Ben Harris、Malcolm Smith、Ahmad Khalifa、Markus Kuhn、Colin Watson、 Christopher Staite、および CORE SDI S.A. が有しています。 このソフトウェアおよび関連する文書ファイル(以下「ソフトウェア」)を入手したすべ ての人は、このソフトウェアを制限なしに使用することが無償で許諾されています。 これには、ソフトウェアの使用、複製、変更、結合、発行、配布、サブライセンスお よび販売についての制限なしの権利が含まれます。また、このソフトウェアを提供 する相手に対してそのような行為を許可することも許諾されています。この許諾は 次の条件を前提としています。 上記の著作権に関する通知およびこの許諾通知は、ソフトウェアの複製物および 実質的な部分のすべてに含めてください。 本ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保 証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、 および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではあり ません。Simon Tatham は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソ フトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いに よって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないも のとします。
著権 キスト	http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html PuTTY の著作権はSimon Tatham が有しています(1997-2015)。 一部の著作権は、Robert de Bath、Joris van Rantwijk、Delian Delchev、Andreas Schultz、Jeroen Massar、Wez Furlong、Nicolas Barry、Justin Bradford、Ben Harris、Malcolm Smith、Ahmad Khalifa、Markus Kuhn、Colin Watson、 Christopher Staite、および CORE SDI S.A. が有しています。 このソフトウェアおよび関連する文書ファイル(以下「ソフトウェア」)を入手したすべ ての人は、このソフトウェアを制限なしに使用することが無償で許諾されています。 これには、ソフトウェアの使用、複製、変更、結合、発行、配布、サブライセンスお よび販売についての制限なしの権利が含まれます。また、このソフトウェアを提供 する相手に対してそのような行為を許可することも許諾されています。この許諾は 次の条件を前提としています。 上記の著作権に関する通知およびこの許諾通知は、ソフトウェアの複製物および 実質的な部分のすべてに含めてください。 本ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保

	証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、
	および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではあり
	ません。Simon Tatham は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソ
	フトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いに
	よって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないも
	のとします。
使用	アプライアンスマシン上で、putty.exeを使用してLinux バックアップサーバと通信し、
目的	システム ロケールと UDP Linux ロケールを変 更します。
必要	
な変	x
更	